



特232
975

業副の北東



始



特232
945



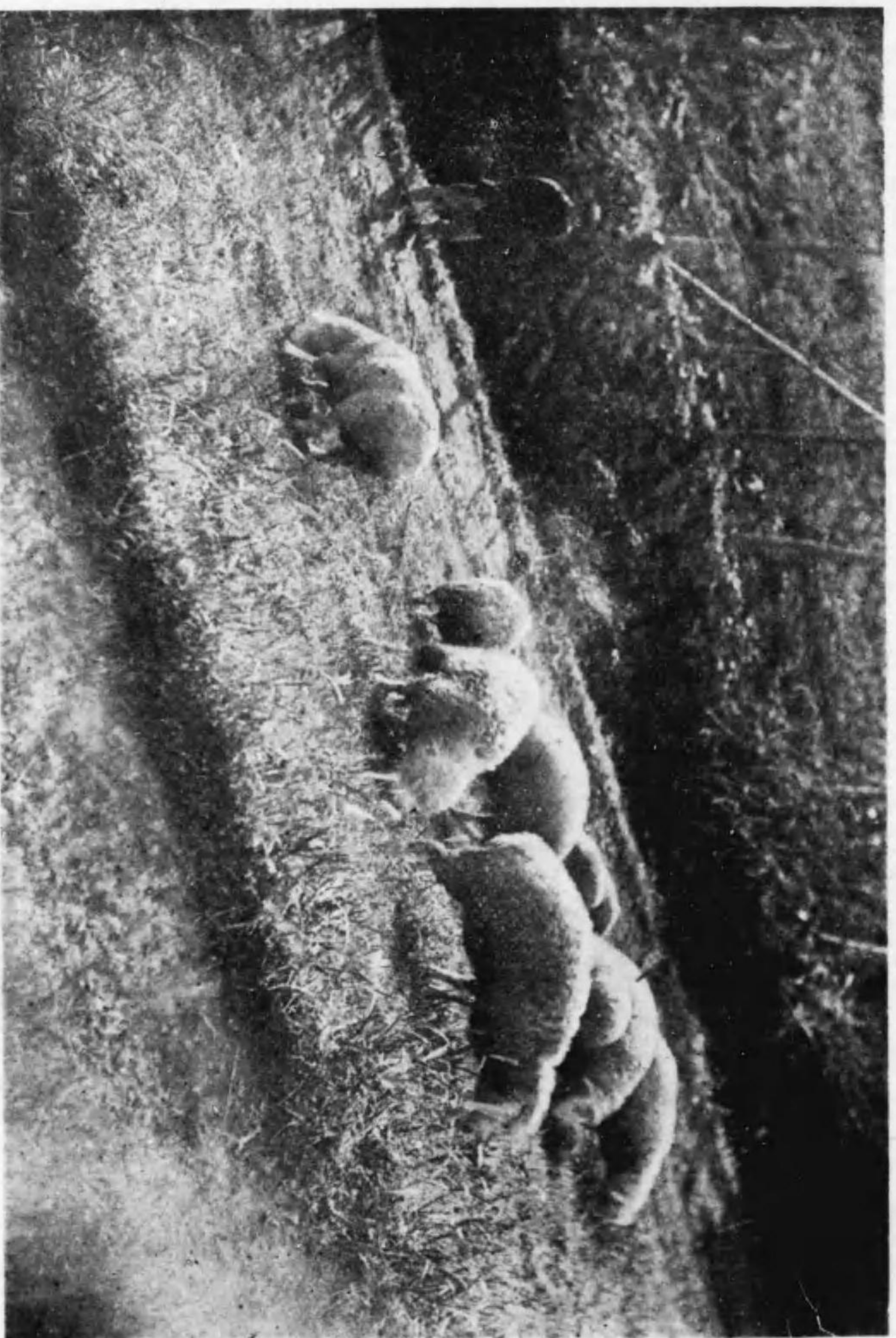
東北

の

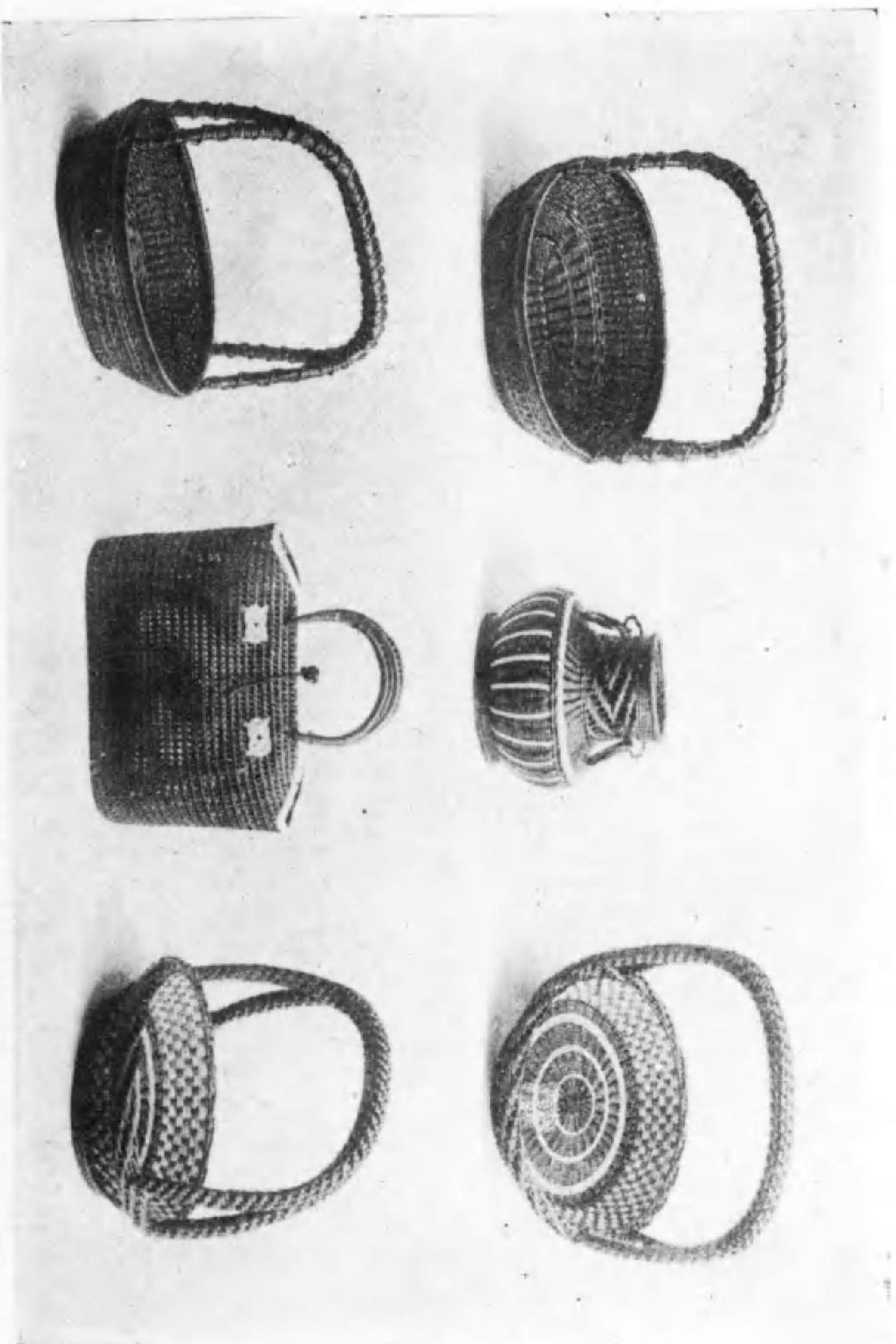
副

業

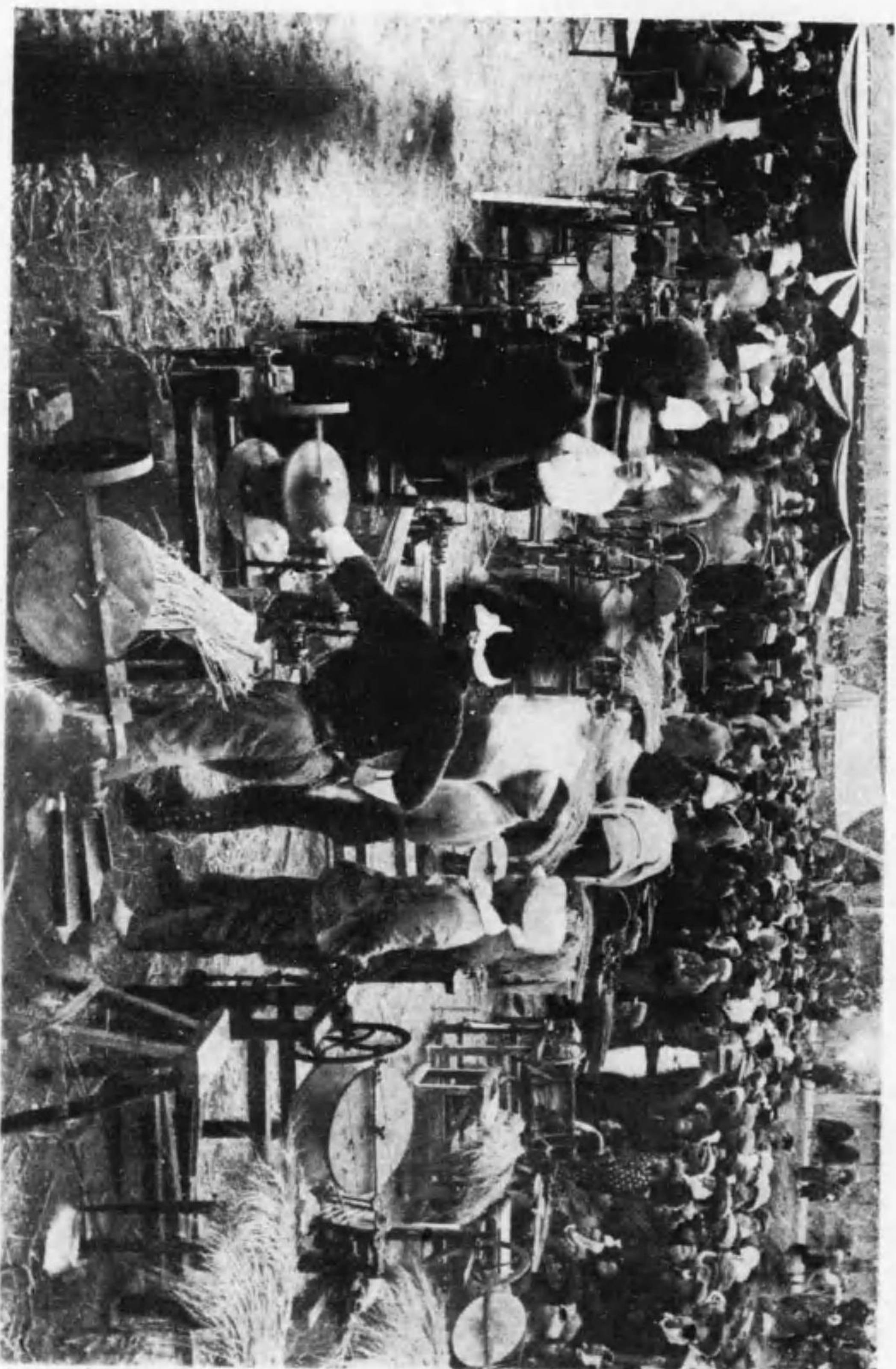




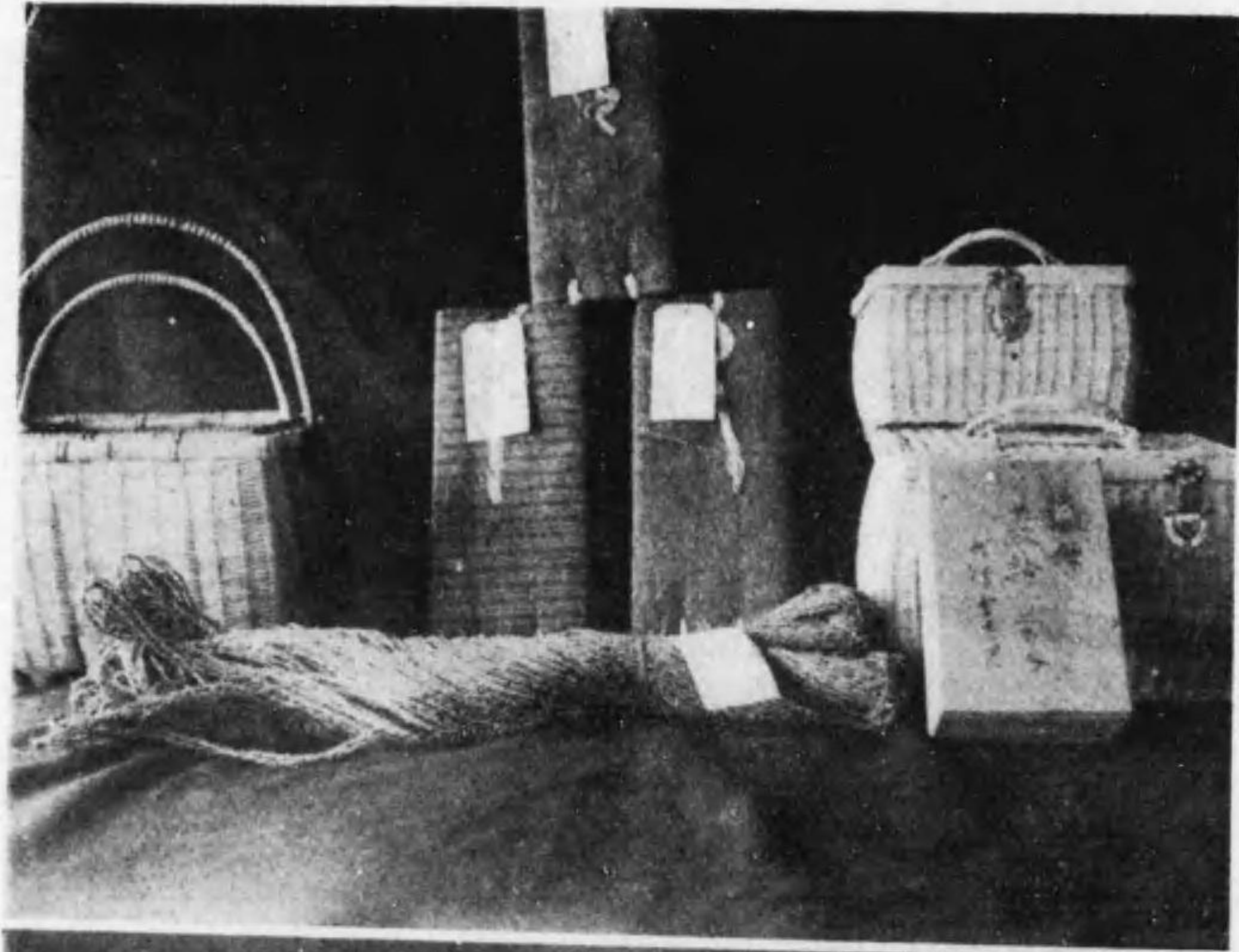
宮城縣米郡地方に於ける羊飼育



青森縣木通蔓細工のいろいろ



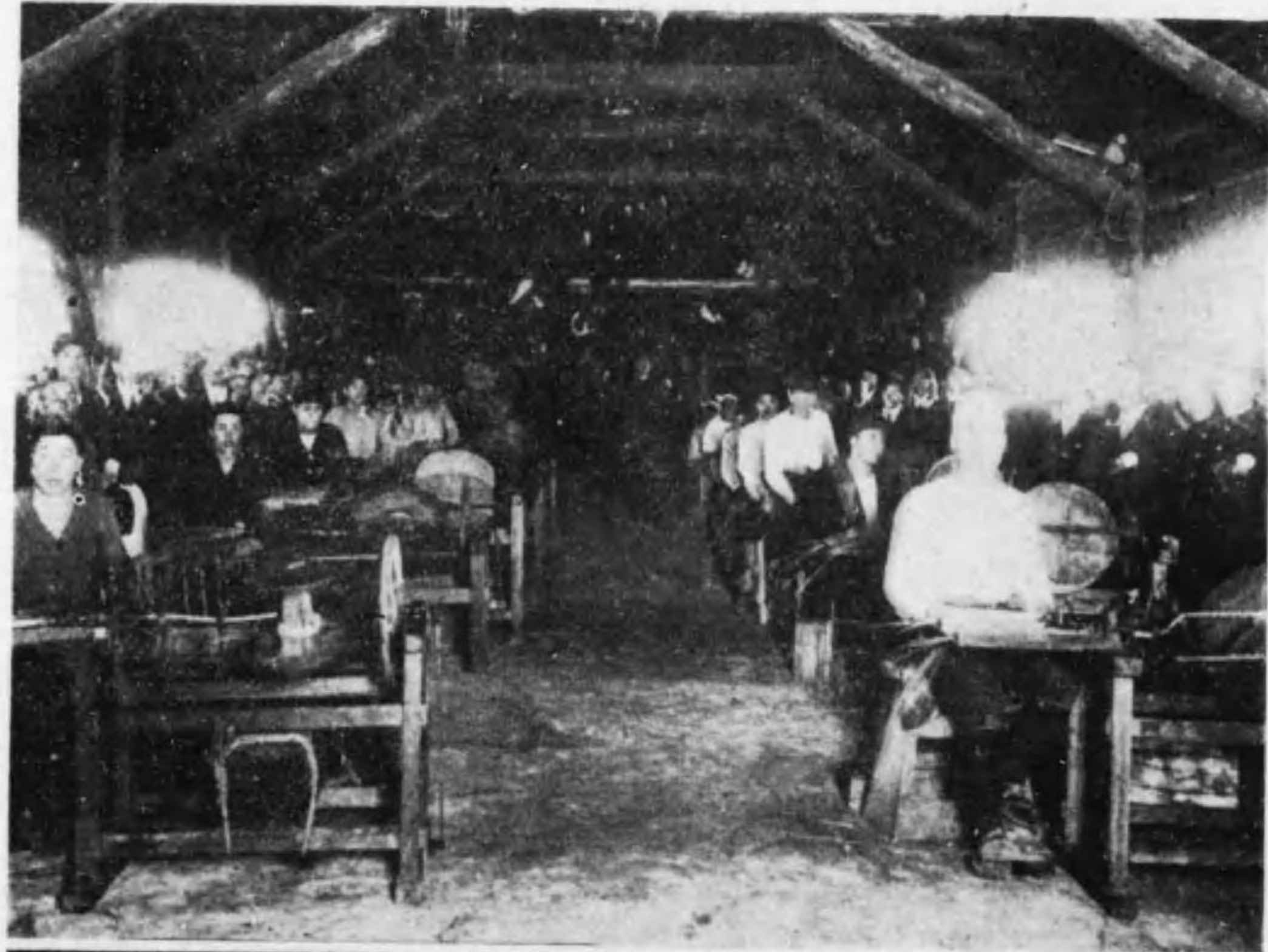
青森縣主催品技大會の實況



品產生業副るな主の縣田秋 圖上
品產生業副るな主の縣島福 圖下



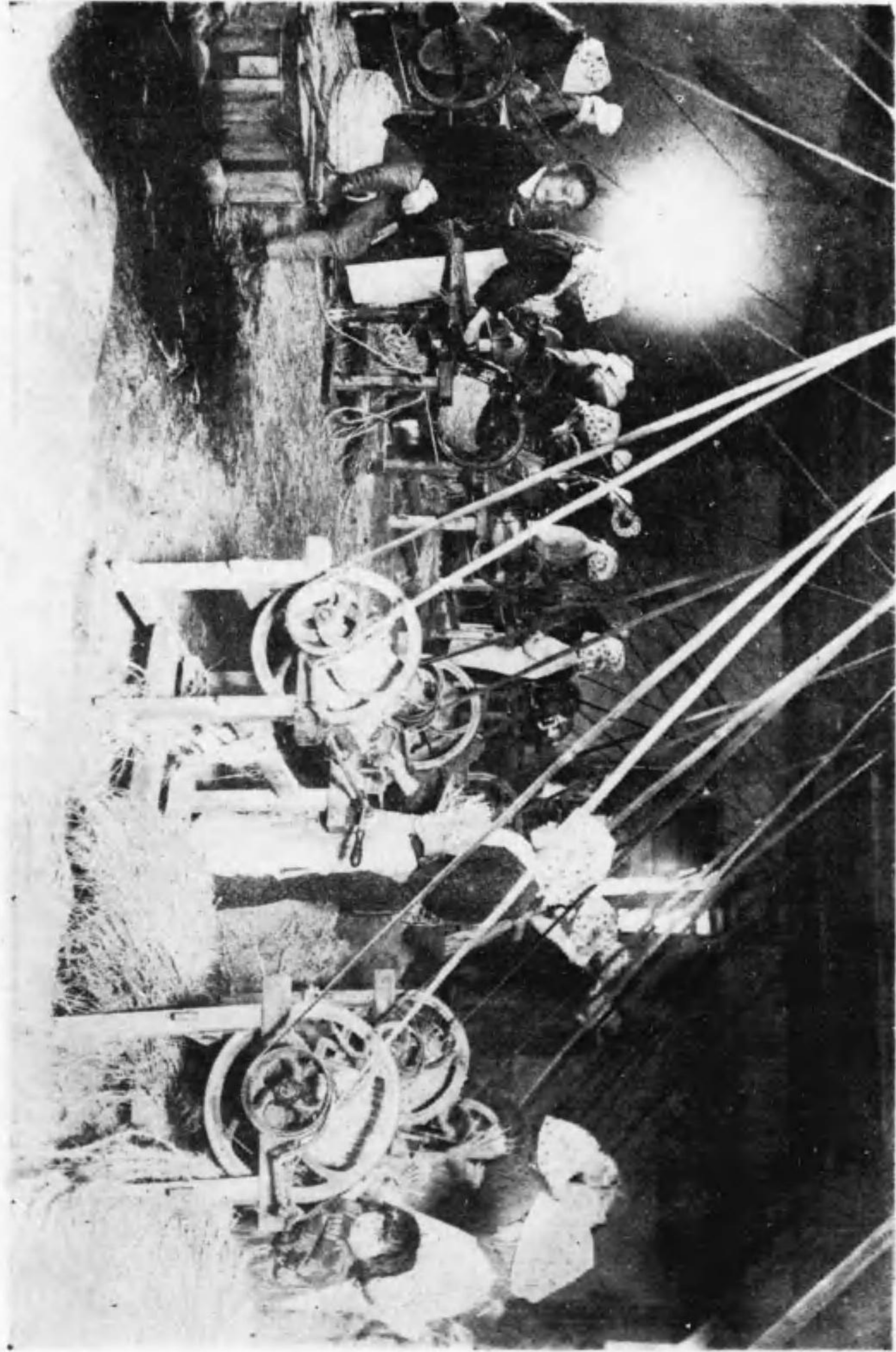
況狀の造荷と作製表履草るけ於に縣形山



會技競繩製村澤栗郡知空道海北 圖上
 況實の會評品裝包 上 同 圖下



況狀の入受合組庭製郡井磐縣手岩 圖上
 習實の工細竹校學習補業農迫大 圖下



北道旭津川田製繩工場の實況

序

農業は國の基であると云はれて居る我が國に於て、頃者農村が疲弊し、農家の經濟が不如意になりつつあることは、國家に取つて最も憂ふべきことである。

耕作面積の狭少なる我が國の農家が、小規模なる農業經營を爲しながら、時勢の進歩に伴つて膨脹して行く生活費に對し、其の收入を以て之に備へやうとすることは容易の業でない。殊に衣食住其の他に要する家計費の著しい増加は、主業の收入に缺陷を來し、隨つて生活の不安は年毎に濃くなつて行くやうな有様である。農村が斯く疲弊し、多數農民の生活を危殆ならしむることは、

國家の存立に取つて非常に重要な關係を有するのであるから、朝野を擧げて農村振興の方途を策しつつあるのである。

我が國の農家は米麥作を主として居る爲に、其の勞力の需要には年内を通じて常に繁閑がある。或る時期には全家族が働いても手が足りないやうなことがあるかと思へば、或る時期には殆んど勞力が剩つて居るやうなことがある。さればこの周期的に生ずる勞力の餘剰を利用し、主業以外の副業に之を仕向けるやうにすれば、農家の經濟に餘裕が出来、其の生活を緩和することになるのである。

今日のやうに農家の經濟が逼迫し、農村が疲弊しつつある場合に於て、副業の奨勵に依りこの難局を打開することは、最も適當

なる方法であり且副業は農家として行ひ安き業務なのである。

我が國に於て現に行はれて居る副業を見るに、實に多種多様であるが、其の大部分は農家に密接なる關係を有するものであつて之が實行と共に収入増加の途を開くことが出来る。

例へば藁細工、藁細工、麥稈細工、凍豆腐、素麵等の如き自家の經營しつつある農業の生産物に加工するもの、木竹細工、木通蔓細工、棕梠細工、杞柳細工等の如き其の原料を山林其の他より採取して加工するもの、或は又農地の一部や宅地、廢地を利用する花卉蔬菜の栽培、家畜の飼養等何れも農家に應はしい業務である。

農家が副業を經營するに當つては、先以て農業組織を整備し、

勞力の分配を充分に考慮した上で、主たる農業とよく聯絡を保つやうにすることが肝要である。それから副業を撰擇するについては生産と同時に販賣のこと迄も充分考究して、遺憾無きやうに努めなければならぬ。

副業品は農家が期節的に生産するものであるから、他の商品に比較すると、いろいろな缺陷があり、結局販賣上に非常な不利益を來すやうな場合がある。例へば(イ)期節に依り生産數量に甚だしい多寡があること。(ロ)戸々の生産額が比較的僅少なること。(ハ)生産品の形質一般に整一を缺くこと等が其の主なるものである。

然らば如何にすれば之等の缺陷を補ふことが出来るかと云ふにそれは經營組織の改善に俟つより外に途が無い。そして最も手近

なる方法としては、副業に従事する者が相寄り相互組織の下に生産及販賣を爲し、以て副業の發達を圖ることである。

今茲に團體を作つて事業を行ふやうになれば、

- (一) 原料及器具機械の共同購入
- (二) 器具機械及設備の共同利用
- (三) 生産品の共同販賣
- (四) 技術の傳習

等が容易に行はれ、其の結果として、原料の如きも優良品を廉價で購入することが出来、作業能率は増進し、生産費の低減を圖ることになると同時に、共同販賣の施設に依り、常に有利なる販路を見出すことが出来るのである。

販賣のことに就ては現在各道府縣農會が聯合して、關東、關西九州、北海道に六ヶ所の農産物及副業品販賣斡旋所を設け夫々活動して居るから地方の生産者は之を利用することが便利である。尙出荷に關しても、團體的に之を行ふやうにすれば運送上のこと販賣上のこと等に付ても費用の節約が出来るばかりでなく、荷造や品質の統一も自然に行はれるのである。

副業は斯くの如く農家の經濟を助長する上に於て、最も捷徑であり、農村振興を圖る上に於て最も緊切なるものである。

今秋北海道及奥羽六縣聯合の副業共進會が秋田市に開催せられ東北地方に於ける主なる副業品を一堂に集め、彼是對照して技術の研鑽に資すると共に販路開拓の方法を講ずることゝなつたが、

是は東北地方副業の發達に資すること甚大であつて寔に慶すべきことである。

殊に此機會に於て「東北の副業」を輯録し以て各聯合道縣の副業狀況其他を網羅し、副業に携る者の参考に資せむとする事は斯業獎勵上裨益すること大なると共に、この盛大なる催しを記念する好箇の記録であると信するのである。

昭和二年九月

農林省副業課長 小 濱 八 彌

我 觀 東 北

これまで各方面の人々に依つて東北が紹介せられ、東北人が批評されて居るが、其の中に現はれて居るものから想像すると、東北の土地は未だに茫漠として人煙稀薄なる處女地であり、東北人は文明の域から遠い所に住むで居る者のやうに思はれる。

成程芭蕉の奥の細道や、能因法師の「都をば霞とともに立ちかざ秋風ぞ吹く白河の關」の歌から想像する時には、奥州路や鼠ヶ關以北は今日尙僻陬の域のやうな感がするものも無理がない。

然るに目のあたり見る東北には、さうした懐かしい面影がだんだん失はれて、其處に見出されるものは、開拓せられゆく自然と

何處の國へ行つても見受けるやうな、文明の一場面がやはり此處でも眺められる。

東北地方に住んで居る農村の人達の多くは、瘦せた土地を持ち働きに疲れて居るやうである。そして天恵の薄い國に住む不幸に堪へながら、ごうかして新らしい東北を築き上げたいと精進努力して居る。

東北の農村に住む斯うした人々の不斷の努力が教育に産業に漸次に酬ひられる時に、私たちは限り無き喜びを覺える、殊に其の生活と直接の關係を有して居るこの地方の副業が、年毎に發展して行くことは何よりも愉快である。

秋田縣の産業の中心は雄物川の平野にあると云つても誇張した言であるまい、佐竹氏二十萬石の城下を西南に流るる洋々たる雄物川が雄勝、平鹿、仙北、河邊の諸郡を通過し、土崎港に至つて海に注ぐ間、沿岸一帯地味肥沃、物産に富むで居る。

米穀、繭、生絲、羽二重、木綿織物、柿、樺細工、春慶塗、鑛産物等が主なるものであるが、副業品としては實子網、實子繩が南秋田、河邊の各郡から生産され此地方一帯藁細工が盛である。

豪宕なる日本海を背景とせる、風光明媚なる男鹿半島からは蜆・時雨煮、公魚濱焼、白魚水煮等の罐詰を産し東京地方へ移出されて居る。

能代川の流域には鑛山が多く、鹿角郡の木通蔓細工、山本郡の

箸類が主なる副業で林檎、釣針、曲物等を産する七瀧村には天下に其の勝景を唱へられてゐる十和田湖がある。

象潟や雨に西施かねふの花、芭蕉の句から偲ばれる、象潟のある由利郡には、紫蕨織と「なめらこ」の罐詰がある。

菟帆ゆるやかに下る最上川に沿ふて庄内に入ると、沃野遠く開けたる中に秀麗なる鳥海山が高く聳えて居る。

庄内は山形縣下に於て最も農業の盛なる地で、羽前の三山と共に有名な米の産地として知られて居る。この地方薬細工が盛で、酒田薬工品移出商組合がある。

東西南北山及び最上五郡を稱して村山地方と稱へて居る。草履

表、麻裏草履の産地で殊に西村山郡谷地町、三泉村、左澤町、溝延村は其の中心である。南村山郡の麻布紙や東村山郡天童町から産する將棋駒は何れも古くから行はれて居る。名邑上の山は温泉で有名である。

米澤市は舊上杉公の城市で織物の産地である、人情素朴にして市中に機杼の響を聞く。鷹山公が農桑織績の業を勧め治國富民の政に力めたる當時の面影が残つて居るやう思はるるのも懐しい。

南置賜郡上長井村の笹野彫は年代の古い、土俗玩具で野趣に富むだものである。窪田村からら漬、西置賜津川村からわらび粉、せんまいが産する。

最上郡新庄町の鯉及金魚は池沼利用として成績見るべきものあ

り、飽海郡本楯村の稲田養鯉は古い歴史を以つて居る。

會津二十餘萬石の城市たる若松市は四周峰巒に圍まれたる會津盆地の中心である。鶴ヶ城趾は殘壘尙存して往時を偲ばしめ、一箕村の白虎隊の墓は明治維新の悲壯なる戰史を傳ふるものである。東山温泉はこの何れにも近い。

會津は四境山岳を繞らし自ら別乾坤を爲して居る、盤梯山高く雲外に聲え、猪苗代湖の風光掬すべし。北會津郡の柿身不知は風味佳良、北會津、河沼、大沼各郡の薬用人參は古く栽培せられ主に支那に輸出される。

大沼郡の苧麻、南會津郡の木工細工、搗栗等も特色ある農家の

副業品である。

福島市を中心とする阿武隈川流域一帯の平野は養蠶、製絲、織物業盛にして、伊達、信夫各郡の節絹、安積、伊達兩郡の眞綿は知られて居る。信夫郡野田村には梨の産額多く、同村に原梨園共同販賣組合がある。柿、蜂屋、富有は伊達郡に産する。

蒟蒻芋は石城、東白川、石川の各郡に多く、其他木箸、笹、和紙等もある。太平洋沿岸の石城、双葉相馬の各郡からは木炭、鯉節、乾北寄、鹽辛、若布等を産する。

縣下に兎を飼育するもの多く、福島縣養兎組合に於て兎肉粕漬を製造して居る。田村郡の三春駒は舊藩時代から傳つて居る土俗玩具で山形の笹野彫と共に珍らしいものである。

慶長五年十二月伊達正宗が新に地を青葉山に相し、城を築き、其の雄を東北に示して以來、仙臺は六十八萬石の城下としての繁榮を見るに至つた。しかし今日の仙臺は學府としては立派なものであるが、産業方面殊に副業については尙開拓の餘地があるやうに思はれる。

この地方の人は日本三景の松島を有し、仙臺平、埋木細工等々名産に數へて居るが、割合に金になる産業に乏しく大藩の下に育つて來た多數の農村の人々の間に生活の苦しみが見受けられるのは遺憾である。

温泉に恵まれて居る玉造郡には竹細工を産し、又頃者温泉利用蔬菜促成栽培を爲して居る。和紙は名取、刈田、伊具の各郡が主

産地である。

藁細工は共同組織の奨励に依り其の産額増加し、三陸沿岸の漁場を主なる得意先として居るやうである。

北上山脈と背梁山脈との間、陸羽街道の通ずる所、平坦にして廣潤、地味豊饒である。この間に點在する副業は玉造郡の凍豆腐、遠田郡の杞柳細工、鳴子温泉の土産品として挽物及曲物、木地塗等がある。

北上川の流域の登米郡は緬羊の飼育地として知られ、近時ホームスピンの紡織を見るに至つた。栗原郡の菌製品は迫表と稱へられ、名取表、登米郡の西郷表と共に評判がよい。

海岸地方にありては、本吉、牡鹿、桃生各郡の鯉節、本吉郡の

塩辛、干鰯、晒和布等を産して居る。

五月雨の降り残してや光堂——藤氏三代榮華の跡を平泉の古蹟に偲ぶ、芭蕉翁が三代の榮耀一睡の中にと記した如く、このあたり一帯の風物、皆懐古の情を深からしむる。

岩手縣は良馬を産し、南部鐵瓶は雅致に富むことに依つて愛せらる。花卷温泉は近時其の名世上に高きも、未だ藁細工の雪靴や木杓子が縣下の特産品であることを知る人がない。

岩手、紫波、二戸の各郡より産する南部甘藍、南部百合、甜瓜は九つの出荷組合によつて東京、横濱地方に移出される。

北上川沿革の畑地に栽培せられる大麻、楮、葉煙草は百萬圓の

産額を擧げて居る。柿は氣仙郡に産し、南部林檎も漸次産額を増して居る。

二戸郡浪打村の竹細工は大同二年慈覺大師が鳥越觀世音を勸請せる當時から村人の間に行はれて居たと傳へられ、今日尙盛に行はれて居る。製品は籠、箆、行李で鳥越信用購賣販賣組合がある。和傘は稗貫郡、壘表、莫産は紫波郡、其の他山國としての此縣は木炭の産額多く、漁村の副業として昆布、和布、漉海苔等がある。

『青森と名におふさどに紅の味よきこのみいかでなりけむ』雪を噛むこの甘きものは林檎かな』歌は坂正臣、句は東洋城のもので

あるが。青森を語るに當り林檎の味を思ふのがあたりまいのことであらう。

青森の林檎は明治七年東奥義塾教師米國人エング氏が故國から十二三本持ち來り、これを分與したのに始まるといふ。今日では其の産額六百三十二萬二千九百二十二貫價格三百六十二萬圓餘に達して居る。雪を噛むこの甘きものは、國內津々浦々、海外にまで輸出されて居る。

山姿秀麗なる岩木山を望み岩木、平の二川を南北に見る弘前市は津輕氏歴代の城邑にして豊饒なる土に恵まれて居る。木通蔓細工は此の地方の特産で其の名著はる。

津輕平野は豊饒で農業が盛んである。薬細工最も普及發達し其

の年額三百萬圓に及んで居る。北海道其の他に移出し縣下第一の副業と稱する。

中津輕郡の竹細工、三戸郡の蔬菜、弘前市の津輕手織等何れも相當なる産額がある。

林檎の國青森には淺虫、大鰐の温泉があり、秋田縣界に十和田湖のあることを附記して置く。

津輕海峡を越えて北海道に足を入る時、目のあたり見る北海道は實に雄大なる自然と、豊かなる資源を有する別天地であると感じるのである。それから更に深く新開地に至り、拓かれゆく村を訪ぬる時、其の廣漠たる平原と、無限の富を藏する山嶽とに驚く。

この北海の天地も産業的に日に月に開發せられ、とりわけ副業が新に移植せられ、それが立派に實を結んでゆくことは何よりのことである。

藁細工、竹細工、杞柳細工、木工品等々の如きは其の幾つかであるが、更に北海道特有の自然を利用したものに亞麻纖維があり、牛酪と蜂蜜と羊毛及羊毛加工品がある。

除虫菊は上川、空知、後志、網走の各地方に産し、澱粉は上川、後志、網走、空知、渡島地方が主なる産地になつて居る。

東北の産業殊に副業は未だ開拓の餘地を有して居る、冬の長い

國、餘剩勞力の多い國、其處には肉體的に健闘に堪え、鈍重とまで見られる程の落ついた精神の所有者たる東北人が黙々として働いて居る。

東北の副業の不振なる事實を示して、之を九州に比較するものがある。九州は天恵多い國である。其の他いろいろな意味で恵まれて居る、然るに我が東北は全く之に反する立場にある。

我々として額に汗して働いて居る我が東北人の力は必ずや近き將來に於て、立派に東北の野を開拓し、東北の副業を盛ならしむることと信ずるものである。

昭和二年初秋

編者識

東北の副業目次

秋田縣の副業	一
主要副業生産品概況	
副業奨励上の施設	
福島縣の副業	二一
緒言	
副業生産品一覽	
主なる副業概況	
副業奨励施設	
山形縣の副業	五三
副業の一般狀況	
副業奨励の概況	
宮城縣の副業	六三
主要副業生産品の概況	
副業奨励施設	
岩手縣の副業	七七
副業の概況	
主なる副業生産品の狀況	

副業獎勵計畫

青森縣の副業

青森縣副業の狀況

一八七

北海道の副業

北海道副業の狀況

副業獎勵に關すに施設

一〇五

附 録

北海道副業關係組合一覽

一四五

秋田縣の副業

秋田縣に於ける主要副業生産品概況

○實子網 年産額三萬二千圓

從來海岸に面せる南秋田郡、河邊郡、秋田市に産し、主として婦女子、兒童の手に依り作製せられ、北海道、青森等に販路を有す、本縣産のものは海中に於て金色を放ち、魚類は爲めに網を抜け過ぐることもなく、網に添ふて袋に入り來る爲め、綿糸網に優るごの定評あり。

主産地 河邊郡新屋町。南秋田郡土崎港町、同郡飯島村。秋田市牛島町

○實子繩 年産額十七萬七千圓

南秋田郡、河邊郡、平鹿郡、仙北郡、秋田市等に産し價格廉にして品質良好長期間の使用に堪ゆるを以て喜ばる、北海道及樺太又は本州沿海の漁場に移出さる。

主産地 平鹿郡増田町、植田村、淺舞町、吉田村、里見村、沼館町、館今村、

阿氣村、田根森村、旭村、境町村、黒川村、角間川町。仙北郡淀川村、藤木村、高梨村、金澤西根村。南秋田郡、太平村、廣山田村、河邊郡上北手村、仁井田村、四ツ小屋村、戸米川村、種平村、豊島村

○苳類 年産額三十二萬圓

乾苳、荷造苳、米皮苳、木炭苳等の種類あり、全縣に亘りて生産され、北海道、樺太、青森等に移出せらる。

主産地

雄勝郡川連村。平鹿郡大森町。仙北郡淀川村、畑屋村、由利郡西目村。南秋田郡大久保町、飯田川村、豊川村、下井河村、上井河村、一日市町、天王村、船越町、男鹿中村、河邊郡濱田村、山本郡鶴川村。北秋田郡眞中村、東館村。鹿角郡錦木村。

○繩類 年産額五十七萬六千圓

大間、中間、大倉、土木、細繩等に種別せらる、全縣内に生産せらるゝも、南秋田、山本、平鹿の諸郡最も多し、本縣産は手繰多く強靱を以て稱せられしも亦多少の缺點あり、近時縣獎勵の結果動力用蓑打器を用ゆるものあるに至り一層製品の質を向上するに至る、北海道、樺太、東京、青森等に移出せらる。

主産地

平鹿郡榮村、朝倉村。仙北郡淀川村、内小友村、高梨村、金澤町。由利郡本莊町。南秋田郡旭川村、外旭川村、飯島村、下新城村、上新城村、金足村、飯田川村、下井河村。河邊郡四ツ小屋村。山本郡柳村、淺内村、鶴川村、金岡村、響村、種梅村。北秋田郡下川沿村、西館村、二井田村。鹿角郡錦木村。

○草鞋 年産額十三萬八千圓

主産地は山本、南秋田、仙北、北秋田郡等にして、近年ゴム製靴の流行により其産額を減じたるも鑛山方面、漁場及林業方面に需要せられ、北海道樺太等に移出せらる。

主産地

仙北郡荒川村、長野町、千屋村。南秋田郡廣山田村、旭川村、面潟村。河邊郡岩見三内村、山本郡鹿渡村。北秋田郡山瀬村。

○草履 年産額四萬圓

全縣に産するも南秋田郡最も多し、北海道方面に移出せらる。

主産地

雄勝郡川連村。仙北郡六郷町。南秋田郡下新城村。山本郡常盤村。

○節合草履及表 年産額一萬圓

縣獎勵の下に漸次生産を増加せんとしつゝあり、東京及秋田市を需要地とす。

主産地 山本郡柳村、常盤村、淺内村。鹿角郡宮川村

○鶏卵肉 年産額百九萬四千圓

全縣内に亘り生産す、飼養鶏種は白色レグホーン、横班ブリマスロック、名古屋、ロードアイランドレット種にして縣内の需要を充たすの外隣縣に移出す、白色レクホーン種と鶏卵は其優良なる點に於て全國に知られ汎く需要せらる。

主産地 全縣、紹介者秋田縣廳農務課内 秋田縣家禽協會

○牛 酪 年産額一萬五千圓

縣獎勵の下に南秋田、河邊郡農家が副業として搾乳分離し、之を共同製造せるものにして、品質純良市場稀に見るの優等品なり、秋田市及東京に移出せらる。

主産地 南秋田郡寺内村 秋田縣畜産組合

○蜂 密 年産額五千圓

年々増産する傾向にあり、主として縣内の需要に供す鹿角、仙北二郡を主産地とす。

主産地 鹿角郡大湯村

○眞 綿 年産額十一萬五千圓

強伸力強きを以て稱せられ、北海道地方に移出せらる。

主産地 平鹿郡増田町。秋田市。雄勝郡湯澤町

○木 炭 三百六十八萬九千圓

白炭三百三十三萬圓黒炭三十五萬圓縣内各郡に生産し東京中心に關東地方に移出す、近年各郡に木炭同業者を組織し製品検査を行ふに至り市場に名聲を博するに至る。

主産地 全縣、紹介者秋田縣廳内 秋田縣木炭同業組合聯合會

○茸 類 年産額七萬圓

松茸、椎茸、松露、ナメラコ等主要なるものなり就中滑子ナガラは其風味の美珍とするに足るべく鑑詰として販賣せらる。

主産地 雄勝郡湯澤町

○紫 蕨 年産額四萬圓

北秋田、山本、雄勝、由利、仙北の山野に自生せしものを採取乾燥して販賣す、品質優良にして毎に需要に應ずるに苦心しつゝあり、東京、大阪、神戸市場に移出す。

主産地 雄勝郡皆瀬村、秋宮村、院内町。北秋田郡荒瀬村、前田村。由利郡

笹子村、眞根村、玉米村。仙北郡田澤村、檜木内村

○蕨及蕨粉 生産額三萬五千圓

紫蕨と同じく自然生にして干燥せるものと雖、風味甚だ佳なり、蕨粉は蕨の根より採れる澱粉にして表装又は傘製造に用ひて頗るよし、東京地方に移出す。

主産地 雄勝郡稻庭町、其他紫蕨に同じ

○佃煮 年産額二十五萬圓

八郎湖畔漁家の副業品にして公魚チカ(ワカ)ゴリ、白魚、蝦、蜆貝等の外路の黄金煮等を産す、需要市場の嗜好に應じて香味を調理す、近年組合を組織し製品検査を行ひてより聲價愈々高し、東京、大阪、神戸市場に出す。

主産地 南秋田郡大久保町、船越町。山本郡鹿渡村、濱口村

○生絹 年産額二千圓

縣獎勵の下に大正十四年創業せし平鹿郡山内村農家の副業たり、品質優良全國副業展覽會に於て 東宮殿下御買上げの光榮に浴す、村民感激共同作業所を設け機臺を増置し熱心従業するに至る、近く同村のみにも一萬圓以上を産出すべし。

主産地 平鹿郡山内村

○紫根染、茜染 年産額一萬圓

舊南部藩領たりし鹿角郡の往古よりの特産にして南部絞りとも稱せらる、紫根染はムラサキ草の根より採りたる色素と、ニシコリなる灌木の灰により染色せるものにて進歩せる化學の力を以てするも模倣し能はざる古雅優美の染色物なり、茜染は茜草より採りし色素を用ふ、共に長繻絆、夜具、帶側等に供用せらる。

主産地 鹿角郡花輪町

○兔及兔皮 年産額六萬圓

近年全縣に亘り著しく飼養者を増加しつゝあり、生兔は福島、青森地方に兔皮は東京、横濱に移出せらる。

主産地 仙北郡花館村、豊川村、四ツ屋村、六郷町。平鹿郡八澤木村、角間川村。由利郡金浦町。北秋田郡鷹巢町

○箸類 年産額五萬圓

本縣産の木箸類は、其材料を豊富なる秋田杉に求め、主として手割なるを以て優品として取扱はる、會席箸、片割箸、桎割箸、うごん箸等あり、昭和元年度縣は京都より教師を聘し、技術の改良に努めたる結果、一層優品を出すに至る、東京、北海道、樺太等に移出す。

主産地 山本郡能代港町。秋田市。北秋田郡阿仁合町

○箕 年産額四萬圓

價格低廉にして品質堅牢耐久力大なるを以て知らる、樺太、北海道、山形、青森の各地方に移出せらる。

主産地 南秋田郡太平村。仙北郡雲澤村

○樺細工 年産額十二萬圓

秋田縣の副業

樺と稱する山櫻の樹皮を剥ぎ貼付し精製琢磨して美麗なる光澤を發せしむ、製品は煙草入、菓子器、硯箱、其他各種の家具、室内裝飾品として一種の滋味あり、農村美術品の優なるものなり。

主産地 北秋田郡大館町。仙北郡角館町

○凍豆腐 年産額一萬圓

近年各地の特長を採り、品質の改良に努め、動力を用ひて生産費の節約を計りたる結果、漸く發達の氣運に向えり。

主産地 河邊郡川添村、新屋町

○萃果 年産額六十萬圓

明治初年より栽培せられ、品質優良糖分に富み肉質緻密にして貯藏に堪ゆるを以て、他地方産に比し珍重せられて全国各地に移出せらる。

主産地 鹿角郡柴平村、花輪町。雄勝郡三岡村。平鹿郡醍醐村、榮村、増田

○梨 年産額十二萬圓

和梨及洋梨共に品質優良なり、殊に洋梨は全國其比を見すと稱せらる、全國各市場に歡迎せらる。

主産地 山本郡能代港町、淺内村、榊村。南秋田郡金足村

○葡萄 年産額十萬圓

平鹿郡山内村、榮村、三重村等を主産地とす。

○果實罐詰 年産額二萬圓

榲桲、西洋梨、櫻桃等あり、就中榲桲罐詰は古くより製造せられ香味珍とすべし。

主産地 鹿角郡花輪町、宮川村。北秋田郡大館町

○麻布 年産額五千圓

古來農家の家庭手工業として行はれ、衣服地、疊へり等に供用せらる、今回縣に於て獎勵し、器械の改良を行ひ製品の統一改善を期しつつあり。

主産地 鹿角郡宮川村、曙村、柴平村

○木通蔓細工 年産額二萬五千圓

バスケット、炭取、各種小家具を製す、東京地方に移出す。

主産地 鹿角郡花輪町、北秋田郡阿仁合町、秋田市

○蔬菜苗及促成蔬菜 年産額二萬圓

消雪期早く、氣候温暖なるを利用し、由利郡海岸農家の營む副業として、茄子、胡瓜、甘藍、甘薯等の苗及び各種促成蔬菜を産す、縣内及山形縣に移出す。

主産地 由利郡象潟町

○鯉 年産額十三萬六千圓

農家の副業として全縣各地に行はる、縣内及青森縣内に移出さる。

主産地 仙北郡飯詰村。平鹿郡里見村。雄勝郡院内町、横堀町

秋田縣に於ける副業獎勵上の施設

本縣は全國に於ても主要なる米産地にして、田地面積十萬六千町歩收穫米二百餘萬石、現住人口一人當り米收穫高二石六升に達するの狀況なるを以て、從來一般に米作改良に全力を擧ぐるが如き傾向にありしと、耕作面積比較的廣く農家一戸當耕作地一町六反餘にして勞力の需要多きに加ふるに小坂、尾去澤等多くの鑛山を有し、日本海に沿える各郡には石油の生産年々増加し、之に要する勞力物資の需要多く、又年々北海道、樺太、沿海州方面に出漁出稼する者尠ならず、是等は直接間接に農家の經濟に好影響を與へ生活比較的安かりし等の爲め農家の副業として見るべきもの甚だ尠かりしも逐年向上する一般生活狀態の變遷は漸く、農家の經濟の窮迫を告ぐるに至り、茲に農業經營方法を改善し主穀農業に配するに適當なる副業を以てせざるべからざるに至れり、縣の特に副業方面に施設を加ふるに至れるは大正七年度よりにして即ち縣農會に

補助して専任職員を設置せしめたるに創る、勿論養蠶、畜産、園藝等に對しては其前に於ても多大の經費を投じ獎勵を加えたりと雖、爾餘の副業に就ては藁工品移出検査事業の外見るべきもの尠かりし、大正九年更に該施設を縣直接に改めてより以來種々獎勵を加ふる所ありしも、一進一退依然として不振の狀態にありしは、蓋し前述の如く本縣農村の經濟狀態、民情等の然らしめたる原因なるべきも、獎勵の方法に於ても「副業獎勵機關と他の産業獎勵機關との聯絡不充分なりし事」「生産技術の傳習指導に偏し事業の經營、企業の指導に遺憾の點ありし事」「全縣を一律に獎勵せむとしたり嫌ありし事」等の缺點ありしと、獎勵の趣旨一般に徹底せざりし如き、亦斯業不振の一因たるべきを認め大正十四年度に於て副業調査會を組織し、専任職員を増置し「從來縣内に行はるる副業にして將來充分に發達の可能性あるもの」「新たに獎勵を行ふを適當と認むる副業」に就て調査研究を遂げ、政府の助成を得町村の實情に鑑み、徹底的獎勵を行はんとせり、今昭和二年度に於ける獎勵施設の計畫を擧ぐれば左の如し

昭和二年度副業獎勵計畫

本縣に於ける副業獎勵は、政府獎勵の趣旨を体し、大正十四年度に於て其の獎勵方法を更新し、極力之が振興に努めたる結果、漸く農民の自覺を促かし、今や助成副業組

合百餘に達し、附近の之れに倣ふもの次第に多きを加へ、此際從來の事業に一段の助成を加へ、其の徹底を期し大体左の方針に依りて指導獎勵せんとす。

一、既設組合の事業經營指導を充分にし、其の堅實なる發達を期すること。
 二、新に助成を加ふる場合は、動力農具組合、農事共同作業組合等農業經營の改善を計りつゝある團體を指導助成し、適當なる副業を配し以て他の模範たらしむべく努むること。

三、從來獎勵助成せる副業品の市場生産を計るを第一義となすも、曩に調査せる各町村副業調査に基き更に詳細實查を遂げ、將來生産上充分見込ありと認めたる種類に就きては、本年度より漸次獎勵を加ふること。

四、獎勵助成は總て一部落一町村當業者共同して組合を設け(既設組合をも含む)共同施設をなす場合に於てのみなすこと。

五、本年度より特に經費を置き、副業品の販賣斡旋紹介に努むること。
 尙本縣内に一般に普及せる副業たる藁工品に對しては特に動力器械力の利用を獎勵し、又家禽飼育に對しては一層養鶏の産業化を奨め、政府獎勵の卵肉共同處理事業の普及を目的として進まんとす。

以上の外從來の方針に則り獎勵を加ふると共に、本年九月一日より七日間本縣主催與

羽六縣聯合副業共進會を秋田市に開催し、農村振興、農業經營の改善、副業獎勵の趣旨の徹底を期せんとす。

一 専任職員の設定

農林主事一名、農林主事補一名、農林技手一名を置き専ら副業獎勵に關する一切の事務を處理し、調査、研究、指導並に補助事業經營の監督、生産品販路斡旋に任じ、常に産業上各種機關と連絡提携して副業の振興に當らしむ。

二、本省指定事業

一、空閑地の利用のためにする桐苗木養成配付

農家の宅地並空閑地の利用の目的を以て桐植栽を獎勵し、大正十四年度より五年間に約十萬本を植栽せんとし、本年度に於ては一萬五千本配付の豫定にて苗木を縣内當業者中技術の優秀なるものに、縣技術員の指導の下に養成せしめ、縣内各町村及部落に管理組合を組織したるものゝみに對して之れを配付す。

二、屑繭整理(玉絲製絲)獎勵

玉絲製絲を目的とする副業組合を助成し、其の發達を俟て生絹其他に加工せんとす、

本年に於ては既設二組合に教師を派して技術の練磨、製品の整一を計ると共に、縣内適當の町村に一組合を新設して之れを助成せんとす。

三、割箸製造奨励

製材原木の伐根、樽材の屑物、間伐木等を利用するに適當なる町村農家をして割箸の生産をなさしめ、教師を縣より派遣して技術の傳習會を開催し傳習會開催費、器具材料の購入費等に對し補助をなし、尙原料の共同購入、製品の共同販賣等をなさしめんとす。

四、生絹製織

前年來奨励せる平鹿郡山内村組合を助成し、更に之が技術の傳習を爲さしむるために傳習會を開催し、又新に機械従業者を増募養成し以て、生産の増加を計らんとす。

五、草履表製造奨励

既設組合をして製品の改良共同販賣を行はしめ、益々其事業を確實ならしむると共に、新に適當なる町村一を選び、傳習會を開催し其の生産を計らんとす。

六、養兔奨励

本縣に於ける養兔業は近時著しく勃興の氣運に向ひたると共に、野草其他飼料豊富にして、斯業に適する地方多く、此際充分の奨励を加へ、確實なる基礎の下に其の

發達を期せんがため、養兔組合の設立を奨励し、組合に於ては種兔の共同購入、共同種兔場の設置、生兔、皮、肉の共同販賣をなさしめ、其の施設に對して補助をなす。

七、養鯉奨励

山間池沼の多き地方に奨励せんとす、即ち既設組合に對しては未だ缺如せる共同販賣其他の設備を補充せしめ、新に適當なる町村を選び、水利關係の密接なる農家に組合を組織せしめ、共同孵化、稻田養鯉、共同養殖等を行はしめんとす。

三、國庫の奨励金を受けて施行すべき事業

一、藁工品奨励

藁工品の生産適地を選び農家二十戸以上を以て組合を組織せしめ、模範的に生産業を起さしむると共に、既設助成組合、組合中組合員を増募し得るものに對し其の設備を擴張せしめ、益々其の發展を期せむとす。

(イ) 新設組合に對しては共同藁打場(動力利用)の設置をなさしめ、其の設備費の半額以内を補助す。

(ロ) 既設組合にして共同藁打場擴張のため動力用藁打機を購入するものに對しては、其の設備費の三分の一以内の補助金を交付す。

(ハ) 前各號の組合に對しては製品検査、製品共同販賣等を行はしむ。

二、椎茸栽培奨励

椎茸栽培に適地の農家をして組合を新設せしめ楢木の共同購入、共同乾燥、共同貯藏、共同販賣等を行はしめ、又既設助成組合をして其の組合員を増募せしめ前項事業の擴張をなさしむ。

三、蔬菜促成栽培及種苗生産奨励

蔬菜温床組合に温床設備をなし、蔬菜苗の育成及各種蔬菜の促成栽培を行はしむると共に、組合員をして一層其の事業を擴張せしめ、殊に縣下需要激増し、之が供給困難なる甘藷苗の生産に力を用ひしむ。

又縣内適當なる町村を選び、蔬菜種子採種圃を經營せしめ主として本縣特産蔬菜(能代人參、牛蒡、四ツ小屋大根、河邊長茄子等)の種子を生産せしめんとす。

四、花卉栽培奨励

秋田市附近農家を以て組合を組織せしめ、花卉の生産をなさしめたる組合に對し、更に助成して事業を擴張せしむるの要あるを認めたるを以て苗床一畝歩を増設せしめ、之れに對し助成を爲さんどす。

五、凍豆腐製造奨励

大豆の生産多き地方を選び豆腐の製造をなさしめんがため傳習會を開催し、其の修

得者をして組合を組織せしめ製品の共同販賣をなさしめむとす。

六、^{ジューンサイ}蓴菜加工奨励

縣内に蓴菜を多量に生産する地甚だ多く、而かも之が加工移出は相當収益ある事業と認めたるを以て適當なる地方の水利關係者をして組合を組織せしめ鹽漬、瓶詰其他の加工試験を行はしめ、同時に製品を市場に送り需要者の批評を求め其の結果により相當なる企業計畫を樹て將來副業として之が發達を期せむとす。

七、麻布加工奨励

古來家庭手工業として、麻布を生産する農家に組合を組織せしめ、改良せる器具器械によりて能率の増進と製品の改良を計らしめ、生産費の輕減と大量生産を期せしめむとす。

八、柿加工奨励

従來町村其他に於て、奨励の上空閑地に植栽せしめたる柿果の生産多き地方にして、澁柿の加工方法を知らざる地方あり植栽農家にして組合を組織せしめ、之れに對し加工方法の試験を行はしめ、之れを組合員に普及製品の共同販賣等を行はしむ、而して之に對する試験並に組合員に對する傳習の經費に對し半額以内の補助金の交付を爲さむとす。

九、家庭工藝獎勵

前各項に記述せる事業以外の家庭工藝例令籐表製造杞柳の栽培加工、箕の製造、果樹袋の製造、特殊地方に於ける土産品としての工藝品の製造を農家副業として獎勵するを適當と認むる地方に組合を設けしめ製作傳習、原料共同購入、製品共同販賣等を行はしめ、之れに要する各組合の經費の約三分の一を補助せむとす。

一〇、副業品販賣斡旋費

大正十四年以來助成組織せしめたる副業品生産組合及既設の同種組合は漸次其の生産高を増加すると共に、其の生産品の販賣に就ては將來副業組合聯合會等適當の機關を組織せしめ販賣斡旋に當らしむるの要ありと認むるも、本年度に於ては差當り縣に於て、左記方法によりて斡旋を行はんとす。

(イ) 各組合の申出により見本を送り、又は送らずして市場に紹介販賣を斡旋す、其の見本は必要に應じ縣にて買上ぐる見込み。

(ロ) 必要に應じ需要地に於ける見本を買入れ、之れを組合に交付し、需要先の趣好等參酌して生産をなすの資に供す。

(ハ) 必要に應じ適當なる者を需要地に派遣する等により販路を求めしむ。

一一、養鶏獎勵

副業養鶏の盛なる地方に養鶏組合を組織せしめ、共同種禽場、共同孵化、飼料共同

購入、卵肉共同販賣等を行はしめ、將來之等組合を聯合して政府獎勵の卵肉共同處理事業の實現を期せんとす。

一二、副業視察員派遣並に諸會出品獎勵

大正十四年以來獎勵の結果組織せられたる副業組合役員及職員組合員中適當のものを選抜し先進地に派し、副業品生産の狀況並組合經營方法等を視察せしめて事業の進展に資す。

又副業生産品の宣傳、販路の擴張に對しては其の斡旋に當るも、尙各地に於ける博覽會、品評會其他諸會に生産品の出品を勧誘し、其の技術を練磨せしめ、生産品及生産地名の宣傳に努め販路の擴張に努めしむ。

一三、副業協議會の開催

既設組合に於ける事業の刷新を圖り新設組合をして優良組合の事績等聽取の機會を作り、各組合の連絡統一を圖り、併せて縣獎勵の傳達並一般經濟界の趨勢を知らしめ、組合經營上善處せしむるために適當時機を選定し、副業組合長を秋田市に招集し、副業振興上に關し協議會を開催せんとす。

一四、副業講習會の開催

副業經營の智識及其の生産技術に向上を圖るために中央より専門家を招聘し、適當

の場所に於て副業講習會を開催し斬新なる學術的講話を乞ひ、當業者をして聽取せしめ以て斯業の發達に資せん。

一五、奥羽六縣聯合副業共進會の開催

從來本縣に於ける單一農業組織を改善し、勞力の繁閑を調節し、餘剩勞力の利用を盛ならしめんがために極力副業の勃興を喚起しつゝある現狀に鑑み更に縣民に對し其の緊要なる所以を徹底せしめ、生産品の改良、販路の開拓に資し以て副業の發達を期せんがため奥羽六縣を勧誘し副業共進會を開催せんとす。

(秋田縣副業主任報告)

福島縣の副業

第一緒言

本縣は岩代國一圓及磐城國の一部を含み、三市十七郡四百七町村より成り、奥羽の咽喉を占め南は茨城縣及栃木縣に西は群馬縣新潟縣に、北は山形縣及宮城縣に接し、東は一帯大平洋に面す。鐵道は東北本線は阿武隈川に沿ひて中通りを常磐線は濱通りを各々南北に併列縦貫し、磐越東線磐越西線は日本海と大平洋とを連絡す、此の他に會津線、奥羽線、川俣線、私設鐵道自働車等縦横に連絡を持ち運輸交通の便開け、産業能く發達す。

面積は八百八十三方里にして、之を地目別にすれば山林最も廣く七十六万七千余町歩にして、全面積の七割三分を占む、原野は六万九千余町歩田九万九千町歩畑九万町歩宅地其の他一万九千余町歩あり世帯數二十五万七千余にして内農業者最も多く五割七分を占め農家一戸の耕地面積は一町四反六畝歩なり。

氣候は會津若松市を中心とせる一市五郡の會津方部は夏季比較的低温にして、冬季は寒氣強く西部新潟縣に接近の地方は積雪數尺に達し時に交通杜絶することあり、大平

洋に面せる濱通り地方は氣候温和にして積雪稀なり阿武隈川の流域に位する中通り地方の氣候は寒暖常に兩方部の中間にあり、氣候の異なるに従ひ農業狀態も三方部に因りて異なるなり。

本縣主要物産の總價格は大正十四年度に於て二億五千四百五十八万九千八百二十二圓にして、副業生産高は六千四百二十二万八千四百五十八圓にて、總額の二割五分二厘を占め、農家一戸平均四百六十七圓六十一錢に當る、副業品中主なる物を大別すれば

- 農産關係品 梨、柿、櫻桃、野菜、藁工品、菅笠、真綿、桑苗、葉煙草、蒟蒻、藥用入參
- 林産關係品 木炭、山林苗木、桐、栗實、椎茸、籠類、竹製品、木地類、紫葳
- 畜産關係品 鶏卵、緬羊、兔、豚
- 水産關係品 養鯉、魚肥
- 工産關係品 節絹、生絹織物、紙類

第二 副業生産一覽 大正十四年

原始生産 總生産價額五千三百八拾九万四千六百七拾圓
 加工生産 總生産價額一千三拾三万三千七百八十八圓
 合計 六千四百二十二万八千四百五十八圓

(一) 原始生産

類別	總生産價額	類別	總生産價格
農産品	五〇、八七九、四一五 <small>円</small>	水産品	一四一、三八八 <small>円</small>
林産品	九五〇、二八八	合計	五三、八九四、六七〇
畜産品	一、九二三、五七九		

(二) 加工生産

類別	總生産價額	類別	總生産價額
農産品	二、九〇七、九六八 <small>円</small>	水産品	三〇三、七二二 <small>円</small>
林産品	五、八八七、六四〇	其他	一、一三二、九六一
畜産品	一〇一、四九七	合計	一〇、三三三、七八八

原始生産種類別 (大正十四年生産)

(一) 農産品

福島縣の副業

品名	用途	販路	生産量	高価額	主ナル生産郡市名
桑苗	食	關東、朝鮮、縣内	一、三六二、一九	四三、三三	安積、伊達、安達、田村
果樹苗	食	縣内	四一、〇一八	五、八二	安達、北會津、若松、石城
甘藷	食	全	四、一八六、六九八	八九、六二	石城、田村、西白河
馬鈴薯	食	東京、横濱、縣内	八、四七、八一七	一、五一、一九七	耶麻、北會津、大沼、西白河
豌豆	食	縣内	三、五〇〇	七三、五〇	各郡
胡瓜	食	縣内	一、三六、六〇五	五八、九〇	田村、東白川、信夫、石城
南瓜	食	全	一、四六、七二八	三三、二五七	田村、石城、西白河、岩瀬
越南瓜	食	縣内、東京	一、四六、九五三	二二、〇四九	田村、北會津、石城
越瓜	食	東京、縣内	二、八九、八九九	六二、四五八	北會津、石城、岩瀬
茄子	食	縣内	二、五五、三五八	五二、〇三八	石城、田村、信夫、伊達、北會津
西瓜	食	縣内、東京	二、三三、三五五	四九、九四二	北會津
蘿蔔	食	縣内	一、七二、四七八	一、八〇三、一七五	各郡
切干蘿蔔	食	全	四〇、七七〇	四七、一七七	相馬、南會津、双葉
牛蒡	食	東京、名古屋、縣内	一、三三、三二九	三八、五九六	伊達、岩瀬、石城
菁芋	食	東京、山形、岩手、縣内	三、二七、五五五	一、〇四、六一七	石城、北會津、大沼
葱	食	東京、縣内	一、〇六、七六一	三〇、六八五	石城、北會津、耶麻
漬菜	食	東京、横濱、縣内	三、七四、四一七	六六、八〇〇	安積、石城、田村、北會津、伊達
甘藍	食	東京、縣内	四、五五、二三四	一〇五、九八〇	安積、耶麻

品名	用途	販路	生産量	高価額	主ナル生産郡市名
梨	食	東京、名古屋、北海道	一、三九、七九	五三、六〇四	信夫、石城、相馬、西白河、伊達
柿	食	縣内、東京、名古屋、北海道	二、八二、五五八	六六、五八六	各郡
桃	食	縣内、東京、近畿、北海道	四四、七一九	二〇三、三八〇	伊達、信夫、北會津、石城、相馬
苹果	食	縣内	一四、七四八	九九、三九九	伊達、信夫
梅	食	東京、縣内	一四、一九一	一七、九八七	各郡
葡萄	食	東京、縣内	三六、四〇四	一三、五八八	西白河、伊達、北會津、耶麻
櫻桃	食	東京、横濱、大阪、神戸、縣内	七五、二六六	一五、四六九	信夫、伊達
其ノ他果實	食	東京、北海道、縣内	—	三八、六九一	各郡
葉煙草	食	專賣局納付	一、三〇、〇五二	三、六一、二四三	田村、石川、安達、南會津
蒟蒻芋	食用及工業用	東京、栃木、群馬、縣内	一、四九、三二八	一、〇四、〇七五	東白川、石川、石城
藥用人參	藥用	支那、横濱	二〇、二五四	五一、四三三	北會津、南會津、河沼、大沼
大麻	麻繩及麻織物	東京、大阪、其ノ他	六、九三五	六五、九九九	大沼、南會津
苧麻	織物	新潟	一、六〇〇	一六、七八	大沼、南會津
蘭	疊表用	縣内	三三、七二四	二、五〇七	耶麻、石城、相馬
楮	製紙原料	縣内	八一、六〇三	七三、八九九	石川、河沼、伊達
三椏	全	縣内	一一、四一七	六、〇三五	石川、河沼

其ノ他蔬菜	全	東京、横濱、名古屋、縣内	四七、〇〇四	各郡
繭	全	長野、新潟、静岡、縣内	三四、三三、五九九	伊達、安達、田村、相馬、信夫、其ノ他各郡
茶	食用	縣内	三五、八一	石城、双葉、東白川
計			五〇、八九、四一五	

(二) 林産品

竹材	家具、下駄	縣内	六六、二五	岩瀬、伊達、石城、相馬
桐材	家具、下駄	東京、縣内	六六、六四六	耶麻、大沼、石川
種子類	食用其ノ他	縣内	三、三六六	各郡
樹實類	食用其ノ他	縣内、東京	一〇九、九三三	全
樹皮類	食用其ノ他	縣内	二四、一七三	全
蔓類及茸類	食用其ノ他	縣内	二七、九一六	全
計			九五〇、二八八	

(三) 畜産品

豚	屠肉	東京、縣内	四、九五	田村、石城、安達、伊達
兔	食用及毛皮用	東京、横濱、縣内	一〇一、五三	伊達、石城、安積
仔羊	食用、毛用	縣内	二、三三九	伊達
鷄卵	食用	全	三三、〇〇七、七三〇	石城、田村、相馬、耶麻、其ノ他各郡
鷄肉	食用	全	一四一、五三三	耶麻、信夫、相馬、福島
鷺肉	食用	全	四三、八五三	石城、田村、相馬
蜂蜜	食用、藥用	縣内、東京	二、三三三	福島、信夫
羊毛	織物用	縣内及東京	四、三四〇	西白河、伊達、南會津
計			一、九三、五七九	伊達、安達、田村、相馬

(四) 水産品

品名	用途	販路	生産量	高価額	主ナル生産郡市名
稻田養鯉	食用	縣内	三、七六六	二、一八八	伊達、河沼
池沼養鯉	食用	全	二七、三三三	八四、七六〇	伊達、若松、安積、信夫、南會津

其ノ他魚類	全	全	一、九六三	各郡
貝類	食用其ノ他	全	二九、〇三六	石城、相馬、双葉
藻類	全	全	三、四三三	全
計			一四、三六八	

加工生産種類別 (大正十四年生産)

(一) 農産品

品名	用途	販路	生産量	高価額	主ナル生産郡市名
眞綿	食	東京、茨城、縣内、其ノ他縣内	一三、八三三	五二、四九六	伊達、安達
玉糸	食	東京、北海道、縣内	一六、五九六	三〇、一七三	伊達、信夫
干柿	食物用荷造用	縣内、栃木	一五、七二五	一六、四三六	各郡
繩類	荷造用	宮城、縣内	四七、三六五	九五、九四五	石城、岩瀬、信夫、其ノ他各郡
吠類	穀物入	東京、縣内	四九、三七六	八六、二〇五	河沼、西白河、耶麻、信夫
倭	全	縣内	四〇八、六八九	九二、三六〇	大沼、河沼、耶麻
計			一三、九一八	三三、九三二	相馬

品名	用途	販路	生産量	高価額	主ナル生産郡市名
簇製履物	養蠶用	縣内	一八〇、〇四三	五、三三六	相馬、石川、伊達
蕨製蠶網	養蠶用	全	四八二、六三四	三〇、六〇〇	河沼、北會津、信夫、石城
蕨製蠶網	養蠶用	全	四三九、一五〇	二、一四五	安達、伊達、相馬
蕨製蠶網	養蠶用	全	三三八、七八七	一八、一八七	初山、相馬、東白川、伊達
蕨製蠶網	養蠶用	全	二二、九五八	二、七九元	耶麻、相馬
蕨製蠶網	養蠶用	全	三三、四四五	一一、四二二	石城、耶麻
蕨製蠶網	養蠶用	全	三、〇〇〇	七五〇	耶麻
蕨製蠶網	養蠶用	全	一四九、七〇〇	三七、四三五	田村、耶麻
蕨製蠶網	養蠶用	全	三三〇、〇〇〇	一、四九〇、〇〇〇	東白川、石城
蕨製蠶網	養蠶用	全	一〇、〇六〇	一八、八五〇	信夫、安積、田村其ノ他
計				二、九〇七、九六八	

(二) 林産品

品名	用途	販路	生産量	高価額	主ナル生産郡市名
木通蔓製品	家具其ノ他	縣内	三、六四九、二五二	一三、三三〇	若松
木炭	全	縣内、東京、横濱、新潟	三〇、〇〇〇	五、四四四、四二二	耶麻、東白川、石城、田村、双葉、相馬
計				一、五〇〇	南會津

(三) 水産品

品名	用途	販路	生産量	単価	高価額	主ナル生産郡市名
附木	全	全	七、三五〇	二、一三〇	南會津、岩瀬	
丸木	全	全	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	南會津、岩瀬	
木地類	家庭用	縣内、栃木、茨城、宮城		六、九六九	全	
竹製笹類	全	縣内		三、二九〇	相馬、西白河、岩瀬	
籠類	全	全		五、八九八	安積、安達、伊達、相馬、東白川	
其他竹製品	全	全		一、五七三	全	
搗栗	食用	縣内、東京、大阪		四、五八八	全	
紫蕨	全	全		二、五八八	南會津、北會津、耶麻、大沼	
山葵漬	全	縣内、新潟		五〇、〇〇〇	全	
計				一、二五〇	耶麻	
				五、八八七、六四〇		
竹輪の蒲鉾	食用	縣内、東京		二、三〇、四九六	石城	
鱈魚粕	肥料	縣内、茨城、栃木	四六、一四五	二七、〇四五	石城、双葉、相馬	
雜魚粕	全	縣内	一四、八三三	七、五六四	全	

(四) 畜産品

品名	用途	販路	生産量	単価	高価額	主ナル生産郡市名
鯉荒粕	全	縣内、茨城、栃木	六七、〇五五	三〇、七二一	全	
赤魚粕	全	縣内	三、〇一〇	五、四〇五	全	
干海盤車	全	全	二、三三九	五、一	相馬	
干北寄	食用	縣内、東京	四〇〇	二、〇〇〇	全	
計				三、〇〇、七七七		

(五) 其他

品名	用途	販路	生産量	単価	高価額	主ナル生産郡市名
兔毛皮	防寒用其ノ他	東京、横濱	九三、二七〇	二〇、四九七	伊達、双葉、西白河、石川、相馬	
和紙	全	縣内		三九、七五八	西白河、安達、伊達	
生絹織物	衣類用	縣内、關東地方	一、九四八	一六、五八	信夫	
生絹	全	全	一三〇、〇〇〇	七二〇、〇〇〇	信夫、伊達	
生麻	全	縣内	八〇七	二、〇八九	南會津、大沼	

蚊張地	1	全	73	2,550	全
計	1		1,136	2,550	

第三 主なる副業の沿革概況

○梨 年産額五十三萬五千圓

明治十八年頃信夫郡野田村大字萱場鳴原、佐藤氏、同地方笹木野と稱する平野の梨栽培に適することを知り開墾栽植したるを該地方梨栽培の嚆矢とす、品質佳良なるを以て野田村庭坂村を中心に栽培益々増加し遂に今日の盛況を見るに至る、所謂萱場梨と稱して京濱、關西の各都市に歡迎せらる、近年西白河、石城の各郡に生産増加し殊に石城郡は各地に組合を組織し品質の改善に努めつゝあり。

栽培品種の主なるものは太白、長十郎、早生赤等にして、早生赤最も多く栽培され、貯藏に耐へ翌年五六月頃に至るまで販出す。

生産者

- 信夫郡野田村 笹木野原梨園共同販賣組合
- 安達郡本宮町 蛇の鼻伊藤百華園
- 石城郡赤井村 梨栽培組合

○柿 年産額六十六萬圓

會津方部及安達郡産の身不知柿は、樽柿として風味の佳良なる稀に見る逸品にして、京濱都市にて會津身不知の名を以て著はる、京濱關西及北海道方面に多く移出す、又蜂屋柿は伊達郡石城郡に産出多く、酢柿としては或は枯露柿として北海道其の他の各地に移出多し。

生産者 (身不知柿)

- 北會津郡鐵田村 一ノ堰農事實行組合
- 同 南小山農事實行組合
- 同 北御山農事實行組合
- 同 西分出荷組合
- 同 花坂農事實行組合
- 同 堤澤柿出荷組合
- 同 郡大戸村 大戸柿出荷組合

福島縣の副業

(西念寺柿)	安達郡本宮町	野	内	政	治
(蜂屋柿)	伊達郡青木村	伊	藤	邦	藏
同	半田村	早	田		斌
同	桑折町	齊	野	豐	治
同		安	彦	倉	郎
(玉川柿)(甘柿)	同	同			吉
(富有柿)	同	伊達中央果實生産販賣購買組合			
同	保原町	奥	山	鶴	治
同	藤田町				

○櫻桃 年産額十五萬三千圓

本縣の櫻桃は明治二十七年頃伊達郡大木戸村半澤氏の栽培に始まり急速の發展をなす、主なる産地は伊達、信夫の二郡にして、耶麻、北會津郡之に次ぐ、栽培本數七萬五千餘本に達し、山形縣と共に全國著名の産地なり。

品種はアーリー、パーブルギユイニユ、茗紫、ガバーナーウツド、ブラックタータリアン、ナポレオンビガリカン等にして就中ナポレオンの栽培多し。

需用地は主として、東京、横濱なるも、近年名古屋、大阪、北海道及び下關、門司等の都市に移出す。

生産者

福島市	信夫伊達果樹生産販賣組合聯合會
伊達郡桑折町	伊達果實生産販賣利用組合
信夫郡飯坂町	飯坂果樹組合
同 瀨ノ上町	瀨ノ上果樹組合
同 清水村	清水果樹組合
同 餘目村	餘目果樹組合
同 吉井田村	吉井田果樹組合

○藥用人參 年産額五十一萬圓

會津地方の特産にして、徳川家光公の頃朝鮮より種子を求め、日光に栽培されたるを其の後會津藩主分譲を受け、若松城御藥苑に移植せしに頗る良好なる成績を見たるにより廣く農民に栽培を奨めしに始まり、今日北會津、南會津、大沼、河沼の諸郡に栽培普及するに至る、販路は主として横濱商人の手を経て支那に輸出さる。

生産者

北會津郡門田村	一ノ堰農事實行組合
河沼郡坂下町	江川金三郎
大沼郡永井野村	長嶺繁人

○蒟蒻

年産額百三萬圓

福島縣の副業

文政年間東白川郡高城村の人某、茨城縣太子地方より種子を持參して栽培せるに始まる。大正五、六年頃病害の爲め、産額激減せるもの近年亦増加して各郡に栽培するに至る、生産地の主なるものは東白川、石城、石川の各郡なり生産者は之れを加工して荒粉となし、地方商人に販賣し、商人は之れを精粉して東京、大阪の市場に販賣すれども栽培者をして精粉出荷の組合組織を奨励中なり。

生産者

東白川郡近津村

東白川郡高野村

石川郡中谷村

石城郡上遠野村

石城郡田人村

蒟蒻生産販賣利用組合

鈴木芳太郎

小針丹治

榑田彦之進

蛭田重平

○馬鈴薯

年産額百四十五萬圓

各郡農家に栽培され、縣内の需用を充したりしが、近年隆昌と共に北會津郡農會の斡旋にて東京に販出せるに其の品質の優良なるを以て會津馬鈴薯の銘柄にて非常に歡迎され、京濱の都市に販出するもの多し。

生産者 北會津郡

同

川南村出荷組合

神指村農事實行組合

○鶏卵

年産額百五十二萬圓

養鶏は古くより行はれたりと雖も、一般農家の飼養羽數少く従つて鶏卵販賣等經濟的に醒めざりしが、縣又は農會は各種の指導奨励に努め、民間亦之れに應じ、近年漸く發達し、三十餘の養鶏組合及出荷組合等によりて東京に販出するに至る。

○緬羊

飼育數 一千頭

本縣の緬羊は、明治十一年に米國種を岩瀬郡須賀川町に入れ飼育せるに始まるも何等發展の跡を見ず経過せり、然るに大正七年以來政府の奨励に喚起され、大正八年岩瀬郡白方村、田村郡移村、同郡巖江村に翌年安達郡高川村肥田農場に數頭乃至十數頭を購入し、更に大正十三年伊達郡小手村外數ヶ村にて共同して數十頭を購入し同地に伊達緬羊畜産組合を組織して農家の副業として組合員各戸數頭を飼育繁殖し今日約一千頭に達し漸く盛ならんとす。

生産者

伊達緬羊畜産組合

○養兔

年産額九萬二千二百七十圓

大正七年頃より農家副業として兔を飼育するもの多く、大正十四年縣は種兔の配付をなしてより養兔熱盛となり、飼養數急激に増加し大正十五年秋の調査によれば約十六萬頭に達し、益々増加の傾向になり、伊達、石城、双葉、安達、相馬の各郡には養兔

副業組合を組織して生産に販賣に共同動作をなすつゝあり。

兎生産地

伊達郡青木村、大久保村。相馬郡福浦村、八幡村。双葉郡大野村、上岡村。石川郡石川町。西白河郡西郷村。耶麻郡加納村。石城郡上遠野村

○真綿

年産額五十一萬圓

本縣の特産袋真綿は伊達郡保原町を中心として古來より婦女子の家庭副業として之が製造に従事する者多く、其の製品は大半東京及結城方面に移出す、一面時代の趨勢に鑑み、大正十年頃より縣は角真綿の製造を奨励せる爲め、漸次優品を産出するに至れり。

生産地

伊達郡保原町、保原村、柱澤村

○白菜及種子

年産額六十三萬圓

本縣の白菜は近時異常なる發達を來し品質亦佳良會津白菜として東京市にて歡迎さる而して白菜の種子は、從來茨城、東京又は滿洲より購入せるが、大正六年頃安積郡豊田村平河内重吉氏採種を研究したるに始まり、豊田村、仁井田村等に採種をなす者増加し採種組合を設置するに至る、大島農場採種組合の如きは組合員四十七名にして、採種圃の位置は七、八町乃至十數町に亘る、松林を以て圍まれたる百五十餘町歩の大

園地にして、一切他の十字科植物を栽培せず、芝罘白菜等のみの採種をなす等最も理想的の採種地なり、該組合の採種量のみにも百二十餘石に達し、茨城、東京、京都、宮城等に種子の移出をなすの盛況なり。

生産地

(白菜)

北會津郡神指村、川南村。耶麻郡堂島村、河沼郡勝常村、信夫郡岡山村。

(白菜種子)

安積郡豊田村。大島農場採種組合

○紫蕨

年産額五萬圓

山村農家の副業として紫蕨を産す、殊に南會津郡、耶麻郡、大沼郡等より優良品を産し、東京、大阪等の都市に販出して歡迎さる。

○桑苗

年産額四十三萬八千二百二十三圓

本縣は養蠶の盛なると共に桑苗の生産亦多し、製造方法は接木苗、伐出苗、取木苗、實生苗等にして品種の主なるものは大葉、島の内赤木、市平、十島、鶴田等なり、郡山市、安積郡、田村郡其の他縣内生産數量は實に一千三百六十餘萬本に達す。

福島縣桑苗同業組合を設立し、各蠶業取締支所内に同業組合支部を置き、桑苗の検査栽培の指導優良品の生産に努む、生産苗は縣内の需用を充すは勿論宮城縣、山形縣、秋田縣、岩手縣、長野縣其の他に移出し其の數六百三十餘萬本に達す。

生産地 郡山市、白河町、三春町、原町

○葉煙草 年産額三百六十六萬圓

本縣の葉煙草栽培は田村郡を中心とせる松川葉、會津方部の會津葉、東白川郡一部の水戸葉の三種にして一、二郡を除くの外全縣下に栽培され、耕作反別三千九百二十八町餘歩、耕作農家二萬一千三百六十餘戸、生産量目一千二百九十六萬貫に達し、全國中有數の位置にあり。生産費中多くの勞力を要すれども、主として冬季農閑期中の作業なるを以て農家の好副業なり。

○菅笠 年産額三萬七千四百二十五圓

田村郡巖江、小泉、逢隈、中妻の四ヶ村は農家冬期間の副業として菅笠の製造盛なり。傳説によれば日本武尊東征の際其の製法を授けらると言はれ古來より製造す、主として栃木縣、茨城縣、宮城縣等に移出す。

○節絹 年産額七十二萬圓

信夫郡岡山村、松川村、伊達郡飯野村を中心として古くより産出し、京都、大阪方面に相當移出す。

○和紙 年産額三十九萬一千七百五十八圓

安達郡上川崎村産額最も多く三十萬圓に達す、その他田村、相馬、伊達の諸郡より産

し宮城、山形、新潟、東京方面に移出さる。

○木炭 年産額五百四十四萬四千四百二十一圓

石城郡、双葉郡、田村郡を始め各郡より産出す、大正七年木炭同業組合の設置以來品質の改善俵装の統一に努めたる結果名聲頓に舉り東京市場は勿論、群馬、埼玉、千葉の各縣に移出して歡迎さる。

第四 副業奨励施設

縣は政府の奨励施設に策應して大正七年より専任職員を設置し、山村農家の副業として木工傳習製炭指導椎茸栽培の奨励等をなし、更に縣は補助金を交付して縣農會をして副業傳習會、副業品展覽會並に生産品の販賣斡旋等を行はしめ相待つて副業の扶植普及、生産品の改良増殖に向ひ指導督勵を加へたるが、大正十二年度より施設事業を擴張し従來の事業の外各種副業の講習會、傳習會、講演會或は活動寫眞會の開催出荷組合、副業組合等共同組織の普及奨励に努めたり、大正十四年政府に於て農村振興費中に副業奨励費を増額せらるゝに至りたるを以て、縣は政府の施設と時代の要求に應じ、奨励費を増額して副業の堅實なる發達助長に努めつゝあり。

昭和二年度に於ける施設の概要左の如し

一、專任職員の設置 經費 三、二九三圓

農林技師一名農林主事補一名の專任職員を置き、副業に關する一切の事務に當らしめ益々斯業の普及發達を計らむとす。

二、農林省指定副業施設及獎勵

(一) 羊毛加工獎勵 豫算 三〇〇圓

大正七年政府は十五ヶ年計畫にて羊毛自給方策を建て、緬羊飼養獎勵せられたるを以て、本縣内にも飼育するもの増加し、伊達緬羊畜産組合の飼養八百餘頭を筆頭に縣内約一千頭の飼育を見るに至りたるを以て、飼養頭數の増加と生産品の利用を増進せむが爲めに大正十四年度に於て政府の補助を得て伊達緬羊畜産組合にて「ホームズバ」の製織傳習會を開催し、更に大正十五年には緬羊品評會の開設並器具の購入を助成せるが、本年度に於ては羊毛加工傳習會を開催して益々斯業の發達を助成せむとす。

(二) 硝子光珠製造獎勵 豫算 三〇〇圓

大正十四年度に於て耶麻郡豊川村青年五名を大阪府へ派遣し、硝子光珠製造の技術を修得せしめ、居村にて摸擬真珠製造副業組合を組織して昨年試作せるに相當の成績を得たるを以て、本年度は更に獎勵金を交付して該事業の發達を助成せむとす。

(三) 空廢地利用植樹獎勵 豫算 五〇〇圓

農村原野堤塘宅地其他の空廢地を利用の目的にて大正十四年度より三百圓の豫算にて果樹苗床の無償配付を行ひたるも豫算の關係上多數の苗木養成配付すること能はざるを以て、本年度に於ては豫算を増額せると共に、右趣旨によりて苗木購入配付すべき團體に對して獎勵金を交付せむとす。

(四) 鯉養殖獎勵 豫算 八〇〇圓

本縣會津方部、中通方部の中交通不便なる山村に對して鮮魚の供給を潤澤ならしめ、保健衛生の向上を計ると共に、農家副業として利益を増加する爲、稻田養鯉又は池沼養鯉を行ふ者の鯉苗購入費に對して獎勵金を交付せむとす。

(五) 桑枝條剝皮獎勵 豫算 六〇〇圓

本縣の桑園面積三萬八千八百町步中夏秋蠶專用桑園は四千四百餘町步にして之れが枝條は三、四月の農閑期に伐採するも、其の枝條の廢物利用としては單に燃料に供給せられるのみなりしが、大正十五年度に於て縣内數ヶ所に剝皮傳習會を開催し、更に之を製紙の原料として試用せしめたるに相當の成績を挙げ、農閑利用副業として恰適なる事業と認めたるにより、本年度は一般に普及の目的を以て剝皮製造に要する器具機械の購入費を補助し、其の事業の發達を期せむとす。

(六) 眞綿加工傳習會開催 豫算 四〇〇圓

本縣は由來袋真綿の生産地として名望を博し、其の産額亦五十餘萬圓に達し、農家の副業として恰適のものなるも未だ之を加工するもの僅少なるを以て吹留真綿又は摘真綿の製造を普及する爲傳習會を開催せむとす。

(七) 蒟蒻製粉獎勵

豫算 一、八〇〇圓

蒟蒻は本縣東南部の石城、東白川、石川の諸郡に於て農家の副業として古來より栽培し、大正十四年には其の生産數量百四十餘萬貫此の價格百餘萬圓に達し、栽培區域殆ど各部に普及せり、然るに農家は殆ど荒粉にて販賣するの現況にあり、之を精粉して販出せば更に有利なるべきを以て大正十四年には栽培者をして組合組織の精製場を設置せしめ之を助成せるが、本年度は既設組合を鞏固ならしむる爲産業組合組織に變更せしむると共に、他に同様の組合精粉場を組織せしめむとす。

三、一般副業獎勵施設

一、玉糸教師養成

豫算 一八〇圓

農家婦女子の副業として、玉糸取は有利の事業なるを以て近年各地に之が傳習會を開催せむとするもの増加し來りたるも、縣内に教師の適當なる者乏しく、之が爲斯業の發展上遺憾尠なからざるを以て、本年度は約十名の教師を養成し、之を各地の傳習會に派遣し該事業の利便を圖らむとす。

二、角真綿玉糸教師派遣

豫算 一二〇圓

角真綿及玉糸製造傳習會の開設は數年來之を獎勵し來りたるに、逐年其の數を増加し、大正十五年度に於ては郡農會、町村農會、養蠶同業組合等の団体主催にて縣より教師を派遣したるもの角真綿傳習七十二個所、傳習期間延日數四百六十五日間、此の受講生二千七百五十八人、玉糸傳習會にありては、傳習會十三個所傳習期間延日數百三日間、此の受講生三百五十七人に達し、該事業漸く盛ならむとす、故に本年度に於ても前年同様団体の主催に係る該傳習會の開設に對し教師を派遣し以て屑繭整理の實を擧げむとす。

三、藁細工獎勵

イ、繩蒔吹俵製造獎勵

豫算 五〇〇圓

本縣稻作面積は九万八千餘町歩にして、生産する稻藁の量巨夥に達すれども、牛馬の飼料敷藁肥料其の他に消費せらるゝもの多く、繩蒔吹俵其の他藁工品の生産販賣は僅に三十五万餘圓にして、縣内の需用を充すに足らざるの状況にあるを以て、前年來之が製造を獎勵し來り本年に於ても郡農會、町村農會、米穀同業組合其の他適當と認むる団体に於て繩蒔吹俵等の傳習會、品評會、共同販賣、製品検査、製造機械の購入其の他生産の増加改善等適當の施設をなしたるものに對して獎勵金を交付し其の事業を

助成せむとす。

ロ、簇改良傳習會開設 豫算 二六〇圓

本縣は全國有數の蠶業縣にして掃立枚數七十七万枚收繭高三百五十餘万貫を産すと雖も、之に使用する簇は在來のもの多きを以て寺澤式又は平野式簇に改良するの要あり。而して之れが製造は農家副業として恰適なるを以て、昨年縣内數ヶ所に傳習會を開催せるに、其の成績見るべきものあるを以て、本年も前年同様傳習會を開設して、斯業の改善を圖らむとす。

四、養鶏講習會獎勵 豫算 一五〇圓

本縣の養鶏は成鶏五十四万羽、産卵個數三千二百万個に達し、東北に於ての首位を占むと雖、縣内の需用を充す能はざるの實況にあるを以て、數年來各地に共進會、講習會等を開催し、又は郡農會等の開催を助成し來りたる爲、近時著しく發達し、養鶏組合の設立も増加するに至りたるも、更に大に獎勵するの必要を認め、郡農會又は他の團體をして講習會を開催せしめ之を助成せむとす。

五、共同事業の獎勵 豫算 四六〇圓

副業の性質たる農家餘剰の時と勞力とを利用し、又は材料豊富にして價值廉なるものに加工製造して、價格を増大ならしめむとするものにして、農家の主業に比すれば何

れも小産業にして各戸の生産は少量なるを常とするを以て、之が統一斡旋等の機關なくんば、販賣上其他に於て不利不便を蒙ること他の産業よりも一層大なり、故に共同作業、共同販賣購買等團體の活動を促すべく副業組合の設置を獎勵し、或は成績優良なる組合を獎勵し以て、組合設置の普及と内容の充實を圖らむとす。

六、販路調査 豫算 四五〇圓

副業生産品の販路を調査し、各種生産品の販賣を有利圓滑にして、生産の増加に努めむとす。

以上の獎勵副業中團體又は個人をして實行せしめ、縣は之に獎勵金を交付するもの付きては、左記の方法に據らしむ。

▽福島縣告示第二百二十七號

昭和二年度に於て獎勵金を交付すべき副業の種類及獎勵金交付に關する方法左の通定む

昭和二年五月二十四日

記

福島縣知事 伊東喜八郎

一、獎勵金を交付すべき副業

鯉養殖、空廢地利用植樹、桑枝條剝皮、藁工品生産

福島縣の副業

二、獎勵金交付に關する手續
一、鯉養殖

稻田、溜池其の他水面利用の養鯉を獎勵する爲町村農會、農事實行組合其の他適當と認むる共同團體又は個人に於て鯉兒を購入し養殖を行ふ者に對し獎勵金を交付す

(一) 獎勵金交付出願

當歲稚魚の購入に關しては本年六月末日迄秋季種鯉の購入に付ては本年九月末日迄に左の事項を記載したる事業計畫及經費豫算を添へたる獎勵金交付申請書を差出し縣の承認を受くべし事業計畫を變更せむとするとき亦同じ

(イ) 養鯉場の位置

(ロ) 養鯉場の面積並設備の概要

(ハ) 養殖尾數及購入見込價額並購入先

(ニ) 養殖期間と生産豫定數量

但し購入先は縣に於て指定する事あるべし

(二) 獎勵金交付率其の他

獎勵金交付の承認を受けたる者事業の施行を終了したるときは獎勵金下付申請書に購入精算書を添へ縣に差出すべし

獎勵金交付率は前項精算購入價額の三分の二以内とし豫算の範圍内に於て之を定

む

二、空廢地利用植樹

空廢地利用の目的を以て町村農會、農事實行組合其の他適當と認むる共同團體に於て柿、梅又は胡桃苗木購入配付を行ふときは獎勵金を交付す但し一團體に於て千本以上購入配付の場合に限る

(一) 獎勵金交付出願

獎勵金の交付を受けむとする者は獎勵金交付申請書に左の事項を記載したる事業計畫及經費豫算を添へ十月末日迄に差出し縣の承認を受くべし事業計畫を變更せむとするとき亦同じ

(イ) 苗木の種類及購入數量

(ロ) 苗木購入先見込及價額

(ハ) 苗木配付の方法

(ニ) 配付後に於ける指導管理の方法

但し購入先及種類は縣に於て指定することあるべし

(二) 獎勵金交付率其の他

獎勵金交付の承認を受けたる者事業の施行を終了したるときは獎勵金下付申請書に購入精算書を添へ縣に差出すべし

獎勵金交付率は柿及梅の苗木に對しては前項精算購入價額の三分の二以内胡桃苗に對しては精算購入額の全額とし豫算の範圍内に於て之を定む

三、桑枝條剥皮

製紙原料桑條白皮生産の爲町村農會、養蠶同業組合、農事實行組合等に於て本事業施行に要する器具機械の購入に對し獎勵金を交付す但し剥皮器に在りては二十個以上を購入し蒸釜に在りては二個以上を購入又は調製したる場合に限る

(一) 獎勵金交付出願

獎勵金の交付を受けむとする者は獎勵金交付申請書に左の事項を記載したる事業計畫及經費豫算を添へ十月末日迄に差出し縣の承認を受くべし事業計畫を變更せむとするとき亦同じ

- (イ) 本事業に供用さるべき夏秋蠶専用桑園面積
 - (ロ) 生産見込數量
 - (ハ) 生産白皮販賣方法
 - (ニ) 器具機械購入先及見込數量
- 但し購入先は縣に於て指定することあるべし

(二) 獎勵金交付率其の他

獎勵金交付の承認を受けたる者事業の施行を終了したるときは獎勵金下付申請書

に購入精算書を添へ縣に差出すべし
交付率は前項精算購入又は調製價額の三分の二以内とし豫算の範圍内に於て之を定む

四、藁工品の生産

町村農會、農事實行組合、藁細工副業組合其の他適當と認むる團體に於て苴繩吹等の生産に要する器具機械の購入又は之が生産増加改良の施設に對し獎勵金を交付す但し製苴機製繩機の購入は十臺以上の場合に限る

(一) 獎勵金交付出願

獎勵金の交付を受けむとする者は獎勵金交付申請書に左の事項を記載したる事業計畫及經費豫算を添へ十月末日迄に差出し縣の承認を受くべし事業計畫を變更せむとするとき亦同じ

- (イ) 藁工品の種類又は設備の概要
 - (ロ) 購入機械名及見込臺數價額
 - (ハ) 購入見込先
 - (ニ) 製品販賣方法又は共同設備の管理方法
- 但し機械式名及購入先は縣に於て指定することあるべし

(二) 獎勵金交付率其の他

福島縣の副業

奨励金交付の承認を受けたる者事業施行を終了したるときは奨励金下付申請書に購入價額又は設備費の精算書を添へ縣に差出すべし

交付率は前項精算購入價額又は設備費の三分の一以内とし豫算の範圍内に於て之を定む

五、前各項の奨励金交付の承認を受け又は奨励金の交付を受けたる者左の各號の一に該當するときは奨励金交付承認の取消若は交付金の全部又は一部の返還を命ずることあるべし

一、奨励金交付の條件に違反したるとき

二、事業施行の方法不適當と認めたるとき

三、不正行爲に依り奨励金の交付を受け又は受けむとせるとき

六、本奨励金の交付は市部を除く

(福島縣副業主任報告)

山形縣の副業

一、山形縣副業の一般狀況

本縣は至る所山嶽起伏し、山地七分平地僅かに三分に過ぎざるも、南に置賜中央に村山北に庄内の三平野があつて、米産地として全國に其の名がある、農家の多くは稻作を本業とし養蠶製炭等を主なる副業とし、日本海沿岸には漁業を營むものが多い、而して本縣は毎年十一月下旬より翌年四月上旬に至る約五ヶ月間は積雪に鎖され、農家の多くは家内閑居の状態にある關係上自然副業を營むものが多い、就中稻作地方にあつては藁を利用して藁細工を營み、山間地方にあつては製炭、木工等の副業を營んで居る状態である。

然るに近時生活の向上は生活難の脅威を來し、自發的に副業を行ふもの益々増加の傾向あれど、農業經營に理解なき農民中には徒らに投機的副業を營むものあるを遺憾とする。

縣は大正十一年以來副業奨励施設を確立して専任職員を設置し、之が指導奨励に努めた結果、漸く統一した副業を組織的に生産するものが多くなつた、今本縣副業の生産

状態を示せば左の通りである。

一、藁工品 百六拾萬圓

草履表 (千六百万足) 百十万圓 繩 (四十万貫) 三十万圓 吟春其ノ他 八万圓 蔴 (百二十万枚) 十二万圓

藁工品中本縣副業の大宗である草履表は、村山四郡を中心として最上、庄内の平野部地方に盛んに生産せられ、縣外に移出してゐる、繩は庄内殊に飽海郡酒田町を中心とした各村落に生産する、蔴は村山地方殊は南村山郡金井村を中心とした、村落に生産し、蔴其他は置賜村各平野に生産する。

一、蘭製品 八万八千圓

疊表 (二万枚) 一万三千圓 莫座 (二十八万枚) 六万圓 蠶網 (二十万枚) 一万五千圓 蘭製品中疊表は南村山郡金井村、南置賜郡窪田村を中心とした地方に生産し、莫座は南村山郡金井村、北村山郡龜井田村、西置賜郡津川村、東田川郡齊村、飽海郡西遊佐村地方から産出するが、何れも縣内消費である、蠶網は最近村山及置賜地方から産出して居る。

一、林産副業品 二百八十二万三千圓

木炭 (二万五千噸) 二百五十万圓 將棋駒 (三十万組) 五万圓 榎地細工 二万六千圓 竹細工 一万五千圓 箕 (四万五千枚) 四万圓 紫蕨干 (五千貫) 二万圓 箸、附木、杓子、農具柄

一万五千圓 農民美術品(笹野彫) 二千圓 なめこ (罐詰も含む) 二万圓

林産副業品中主なるものは木炭であつて、縣下一般の山間部地方に産出するけれども、最上郡、西置賜郡最も多く東、南置賜、村山四郡等が之れに亞ぐ。

將棋駒は東村山郡天童町の特殊産物であつて他には産出がない。

榎地には椀木地多いが西村山郡大井澤村、南置賜郡中津川村、西置賜郡小國本村、最上郡乃位村、西田川郡福榮村等から産出してゐる、其の他縣下山間地、温泉場から榎地玩具類の産出がある。

竹細工としては主に日用品であつて、南置賜郡南原村、北村山郡東根町地方から産出する

箕は北村山郡龜井田村次年子の特殊副業であつて、他に東置賜郡上郷村矢の口から産出する

笹野彫は南置賜郡上長井村大字笹野から産出する農民美術的特殊副業である。

紫蕨干、なめこは西置賜郡小國郷、南置賜郡中津川村、西村山郡大井澤村、最上郡及位村、大藏村等から産出する其の他の木工品中木箸は西田川郡豊浦村、杓子は東田川郡大泉村、本郷村等に産出し、附木は東置賜郡和田村、東村山郡千布村に産出し、南置賜郡中津川村からは農具柄(鍬柄、シャブロ柄)等が出る。

一、雑工品

百五十六万九千圓

紬織 百二十万圓 眞綿 十五万圓 凍豆腐 四万圓 紙類 十五万圓 菅笠 二万圓 モロ

コシ箒(一万三千本) 八千圓

紬織は西置賜郡長井町を中心とした周囲の村落及西村山郡五百川方面から産出し、置賜織物同業組合の組織がある、眞綿は東村山郡、北村山郡、南置賜郡等を始め養蠶地方には何れも副業として行はれる。

凍豆腐は東置賜郡漆山村から産出する特産副業品であつて、置賜凍豆腐製造組合の組織がある。

紙類には西村山郡西山村、南村山郡西郷村、東村山郡鈴川村等から産出する、特は南村山郡西郷村の麻布紙は品質優良なるを以て販路頗る廣汎である。

菅笠は南置賜郡中津川村から産出する特殊副業品である。
モロコシ箒は、最上郡新庄町を中心とした村落及東置賜郡屋代村、犬川村から産出する。

一、果實

百二十八萬圓

梅(三百七十五石) 六万圓 桃(七十五噸) 十萬圓 櫻桃(七百五十噸) 二十五万圓 梨(千五百噸) 二十四万圓 柿(三千五百噸) 二十五万圓 苹果(三十四噸) 八万圓 葡萄(九十四噸) 二十万圓

梅は村山、置賜の平野地方並山形、米澤兩市を中心とした村落から産出する桃は南村山郡上の山町、山形市、東村山郡山寺村、西田川郡袖浦村、飽海郡酒田町、米澤市等を中心とした村落に最も多く栽培せられてゐる。

櫻桃は米澤、山形兩市並に南村山、東村山郡等に最も多く栽培せられ、本縣特産物の一つである。

梨は東置賜郡屋代村、高島町、東村山郡豊田村、大寺村等に最も多く産し北村山郡東根町、飽海郡本楯村、鶴岡市等之れに亞ぐ。

柿は南村山郡本庄村を中心とした村落に栽培せらる、紅柿は西田川郡、鶴岡市を中心とした村落に栽培せらる、平核無柿が有名であるが其の他身不知、蜂屋柿等が縣内各地の空廢地に廣く栽培せられてゐる。

苹果は山形市米澤市に最も多く栽培せられてゐる。

葡萄は東置賜郡赤湯町中川村及屋代村、東田川郡山添村に最も多く栽培せられて産額も多い。

一、畜産副業品

百參拾万圓

鶏 三十三万圓 鶏卵(千六百万ク) 八十万圓 豚(六千頭) 十三万圓 兎(五万頭) 四万圓

鶏は縣下至る所の農家に飼育せられてゐるが就中東村山郡、西置賜郡、東田川郡等最

も多く南置賜郡、米澤市、西村山郡、北村山郡、最上郡、西田川郡等之れに亞ぐ。豚は東置賜郡、南村山郡、東村山郡、最上郡、飽海郡等に飼養が多い、兎は近時著しく飼養戸數が増加したが就中米澤市を中心とした村落に最も多く飼養せられ南村山郡、東置賜郡等も盛んである、米澤市館山養兎販賣組合、南村山郡本澤村、村山純白種兎普及組合等は相當に活動してゐる。

一、水産副業品 二十七万圓

鯉(三十五噸) 二十五万圓 金魚 二万圓

鯉は東置賜郡沖郷村、宮内町地方の溜池養鯉、東村山郡大曾根村、相模村、最上郡新庄町附近及飽海郡本楯村、東田川郡渡前村の稻田養鯉等が盛んである。

金魚は東村山郡大曾根村、相模村、西村山郡左澤町、飽海郡本楯村等から産出する

一、蔬菜、花卉、副業品

盆栽花卉類 二十万圓 蔬菜類 三十五万圓

盆栽花卉類中「さつき」は本縣の特産で山形市及び其の附近が最も盛んである。

蔬菜類は山形市米澤市附近の村落に最も多く生産し、東村山郡、東置賜郡、西置賜郡、南村山郡之れに亞ぐ。

二、本縣副業獎勵の概況

本縣副業の一般状態は前述の通りであるが、之れに對する副業獎勵方針としても、大體平野部、山間部、漁村の三方面に區分し、適地適所主義の副業を獎勵し、且從來からの副業で將來有望なものは之れを助長し、便に時代の推移に伴ふ新規副業は之れを選択獎勵し、堅實な副業の發達を遂げんとするものである。

昭和二年度本縣副業獎勵施設の概況を示せば左の如くである。

一、草履表販賣改善獎勵

草履表は本縣副業品の大宗であるが、生産並に販賣組織が其の宜しきを得ざる結果、常に奸商の乗する所となつて生産者の受くる不利尠くないのみならず、自然粗製濫造に傾く弊害があるので、之れが共同組織を獎勵して品質の改良統一を圖り取引方法の圓滿を期することは最も重要なことゝ認め大正十四年度から之が改善の爲め組合を組織せしめて製品の改善統一共同販賣等の事業をなさしめ、獎勵金を交付することとなつて居る。

一、宅地利用苗木配付

農村の空廢地並宅地を利用し集團的に栽培せしめて收入の一助たらしめんとして、大正十五年度から計畫し、本縣の適地果樹である梅柿の苗木を配付せんとするものである。

一、草履裏付傳習會

草履表は本縣副業品の首位を占め年産額千六百万足價額百七万圓餘に達するも、其の大部分は粗製品の儘全國各地に移出せられて、何れも需用地に於て加工せられて居る状態であるが、將來は既製品として移出し、生産収入の助長を計らんとするものであつて、大正十四年度から繼續實施して居るもので本年度も縣下十ヶ所に開催して草履の裏付技術の普及向上を圖らむとするものである。

一、竹細工指導員養成

近時竹細工の需用著しく増加し、縣外よりの移入高も年々増加の傾向にあるを遺憾とし、大正十五年度から之が指導員の養成に努めてゐる、殊に本縣特産たる根曲竹の利便を圖らんとして縣下から適任者を選抜して二ヶ月間技術を修得せしめて指導の任に當らしめんとするものである。

一、製繩製苴機普及

本縣は稻作地として藁の利用を奨励すること最も適切なるは前述の通である、本縣は繩苴の生産地として古くから其の名があるが機械製繩製苴の未だ幼稚なるを遺憾として、大正十四年度から繼續事業として傳習會を開催し、製繩法の改善能率増進を圖り、更に機械の普及を圖る爲め、購入額に對し五割以内の奨励金を交付せんとするもので

ある。

一、副業品販賣斡旋

副業奨励上製品の販賣斡旋をなし、確實な販路を求めて取引を行はしむるは斯業振興上最も緊要のこと、認むるを以て一般副業品の販賣斡旋を行ふは勿論であるが本年度は特に藁工品及果實の斡旋をなさんとするものである。

一、副業共同施設補助

副業奨励に關しては前記の通り施設をなし夫々指導誘掖に努むると共に、特に副業を組織的に發達せしむる爲め、之が共同施設に對し、補助金を交付せむとするものである、特に助長せんとする副業の種類左の如くである。

記

筍唐黍栽培加工、木竹加工、なめこ、果實加工、稻田養鯉、養鶏、養豚、養兔、山葵栽培

一、副業標本購入

副業觀念の喚起を圖り、且つ副業奨励上参考に資せんが爲め全國副業品を購入蒐集して展覽會等に貸付、若しくは巡回觀覽に供し、當業者の参考に資せんとするものである。

一、圖書購入印刷物配付並活動寫真會副業觀念の喚起を圖り、且つ新副業の指導獎勵、其の他技術の傳習等常に圖書印刷物を配付し之れを導き且つ活動寫真會並講演會を開催せんとするものである。

(山形縣副業主任報告)

宮城縣の副業

一、宮城縣の副業生産品概況

本縣に行はる、副業は多種多様にして加工的生産にあつては藁細工、竹細工、木炭、木工(挽物、玩具等)木箸、和紙、疊表、黍箒、竹箒、簾、管笠、蘭笠、曇苞、麻、木櫛、草履、眞綿、玉糸、織物、凍豆腐、澱粉、麵類、乾柿、納豆、葡萄液、茶、若布、海苔、佃煮其他等、原始生産にありては養兔、養雞、養豚、養蜂、杞柳、果樹、蔬菜の栽培等その主なるものにして年産額は加工品約五百万圓、原始生産品七百六十萬圓合計千二百六十萬圓あり就中生産の多きものは木炭、竹細工、和紙、藁工品等とす。今主要なる副業生産品につきその概況を述べんとす。

一 竹製品

(一)産額 六十二萬七千餘圓

(二)主産地 玉造郡岩出山町

笹類、美術的製品

刈田郡白川村

笹類

栗原郡岩ヶ崎町

竹行李、蠶箔

宮城縣の副業

就中岩出山町は其生産額五万圓以上に達せり

(三)概況

本縣に於ける竹細工の沿革は詳ならざるも主産地岩出山町に於ては今を距る凡二百年前岩出山城主の奨勵に創まれるものなりといふ。

販路、産類は福島、山形、秋田、岩手各縣、竹行李は北海道及岩手、山形各縣並に縣内を主とす、

二 藁工品

(一)産額 三十五万圓

(二)主産地 仙北各郡に最も盛にして就中左記地方を以て主産地となすべし。

繩 遠田郡北浦村、南郷村。登米郡南方村、淺水村。栗原郡有賀村

蕨 黒川郡鶴巢村

蕨、吹、桃生郡二俣村

(三)沿革及概況

藁細工の沿革としては文献の徴するものなれど各郡共自家用として普及し凶作、水害等に際し救済の目的を以て奨勵せられたる結果漸次其生産を増加し近年副業奨勵の

敷設備の補助、技術傳習等の施設を講じたるにより著しくその生産増加するに至り各産地共組合組織によつてその發展を圖りつゝあり。

販路、縣内の需要を主とし一部三陸沿岸漁場に移出せらるゝが今後北海道其他縣外移出を増加し、斯業の發展を計らんとす。

三 疊表

(一)産額 二十万五千圓

(二)主産地 名取郡下増田村、増田町、愛島村。栗原郡烏矢崎村、沼邊村。登米郡南方村

(三)概況

創業の年代詳ならざるが名取郡の如きは遠く數百年前より製織に従事せるものゝ如し販路、名取郡の名取表、栗原郡の迫表、登米郡の西郷表と稱へられ縣内及岩手、山形縣下に販賣せらる。今後原料の栽培、機械の改良等により生産の増加を圖ると共に販路の擴張に努めんとす。

四 和紙

(一)産額 四十四万五千圓

(二)主産地 刈田郡福岡村。名取郡中田村、高館村、西多賀村。伊具郡丸森町、耕

宮城縣の副業

野村

(三)概況

各産地共遠く藩政時代に始まりたるものゝ如し、販路は概ね縣内なるも傘、提灯用として福島縣へ漉返紙は東北各縣、關東の一部に移出販賣して好評あり。

五 凍豆腐

(一)産額 十七万八千餘圓

(二)主産地 玉造郡岩出山町

(三)概況

主産地岩出山町に於ける製造の起源は今より凡百年前、現組合長齋藤庄一郎の祖父が紀州高野山參詣の際之が製法を傳へ聞き來り製造を試みたるに創まれりといふ、而して明治二十年頃は従業二十戸位に過ぎざりしが其後次第に増加し現在の九十六戸に達せり、縣下の製造戸數八百七十四戸にして各郡市に其生産普及せるも從來生産のものは乾燥不充分且つ形狀不整等の爲め縣外販賣に適せざるものにして従つて發展の見込乏しきを以て縣助成の下に岩出山町凍豆腐生産組合に於て先進地より教師を聘し高野式凍豆腐製造の技術傳習をなし改良製法の普及を計りつゝあり。販路、從來製品は縣内消費を主とせるものなるが高野式製品は東京、大阪方面に移出

販賣を試みたり、今後も技術の練磨を爲し製品の改良と販路の開拓とを圖り以て其の發達を期せんとす。

六 木炭

(一)産額 二百三十六萬七千圓

(二)主産地 刈田郡福岡村、柴田郡川崎村、富岡村、加美郡小野田村、栗原郡花山村、登米郡米谷町、本吉郡御岳村

(三)概況

創業の年次詳ならざるも往昔より山間地方に於ける農家の副業として縣下各地に産し就中刈田、柴田、登米、加美各郡より優品を産す、販路は縣下では勿論、關東、京濱地方へ移出せらるゝに至れり。

七 黍帚

(一)産額 四万二千圓

(二)主産地 名取郡長町

(三)概況

長町の黍帚は今より凡三十年前太田與惣衛門氏の創業せるものなりといふも詳ならず原料は地方生産のもの少く主として栃木、茨城兩縣下より購入して使用せり、製品の

販路は東北各縣を主なるものとし漸次擴張せられつゝあり。

八 晒和布

(一)産額 四万三千圓

(二)主産地 本吉郡、歌津村、階上村。桃生郡十五濱村

(三)概況

鳴戸式晒和布の製造は今より十數年前本吉郡大谷村、歌津村、牡鹿郡鮎川村に於て傳習會を開催したるに始まり歌津、階上兩村を中心として漸次普及發達を見つゝあるも尙原料の儘にて徳島縣地方へ移出せらるゝもの頗る多量なるの現況なるを以て今後一層之が製法の普及改善を圖らんとす、現在製品の販路は東京及秋田、山形等主なるものなり。

九 杞柳細工

(一)産額 一万二千八百餘圓

(二)主産地 遠田郡湧谷町、元湧谷村。栗原郡若柳町

(三)概況

明治三十八年遠田郡農會に於て技術者養成の爲岐阜縣に見習生を派遣したるに創まれり。

縣下に於ける杞柳作付法反別約三十町歩に達し其生産杞柳の一部は兵庫縣、新潟方面等へ販賣せられ又茨城縣地方より青菜の移入をなすことあり。

製作者は湧谷町及元湧谷村に多し其製品は主として縣内各地の商店及岩手、山形縣下へ移出販賣せらる。

十 屑繭整理

本縣に於ける屑繭の産額は六萬四千餘貫にして内自家用に供せらるゝ見込數量約一割二分あり其他は何れもその儘にて販賣せられ加工せらるゝもの殆んどなき狀況なるを以て縣は大正十五年度に於て屑繭整理講習會を開催し技術の普及を圖れるが昭和二年度に於ては適當なる開催箇所を對し教婦を派遣して指導をなす計畫なり今後漸次加工せらるゝもの増加せんとする見込なり。

十一 家兔

(一)生産額

本縣に於ける家兔の飼養は大正十五年度末調査にて五万四千頭餘其の飼養戸數一万七千戸あり全年中の生産高毛皮二万六千七百七枚、兔肉、四千八百三十八貫あり。

(二)主産地

縣下各郡に普及し逐年生産を増加しつゝあるも就中賀美郡色麻村、全郡小野田村、遠

田郡富永村、刈田郡宮村に最も盛なる地方なりとす。

(三)概況

近年兎毛皮の輸出増加、肉食の普及等に伴ひ將來益々有望視され之が飼養盛ならんとする趨勢にあり、縣は養兎組合等に助成金を交付して優良種の普及を圖り兎毛皮、生兎の共同販賣等を奨励して堅實なる發達を計るに努めつゝあり。

二、宮城縣に於ける副業奨励施設

副業の指導奨励の事務に當らしむる爲大正七年度より専任職員を設置し各種奨励施設を爲しその普及發達を圖るに努めつゝあり大正十四年度より國庫補助増額によりて専任職員を増加し各種の施設を擴張して其普及發達を促し昭和二年度に至りて更に職員一名を増加し指導奨励の徹底を期し漸次改善の實を擧ぐるに至りつゝあり。今昭和二年度に於ける副業奨励施設並豫算額を示せば次の如し。

昭和二年度副業奨励計劃並豫算

(一)専任職員設置

(俸給旅費)

五、〇六〇圓

農林主事一名、農林主事補二名を置き、調査研究指導並に事業經營の督勵其他副業奨

勵に關する一切の事務を處理せしむ。

(二)藁細工傳習會開催

(三〇〇圓)

藁細工は本縣に於ける副業として極めて重要なるものと認むるを以て、大正十五年度に於て縣外先進地より講師を聘し、傳習會を開催したるに、其の成績見るべきものあり、昭和二年度に於ても生産増殖並に改善を圖らなため教師を招聘し傳習會を開催せんとす。

一、開催個所

六ヶ所の見込

豫定地 黒川、志田、遠田、桃生、栗原の各部

一、講習期間

一ヶ所凡四日間

一、講習科目

製繩、製苳

(三)副業用器 機械購入補助

(三、五一二圓)

副業品の生産費を軽減し生産の増加と、製品の改良統一を圖り、販路を擴張せんがため、大正十四年度より優良器具機械の購入使用を奨励しつゝあるが、本年度に於ても製苳機、製繩機、壘苳製作機等の副業用器械の共同購入に對して奨励金を交付し、尙ほ共同作業場の設置奨励と相俟て、藁打機並に繩仕上機等の共同設備に對しても奨励金を交付せんとす。

豫定

宮城縣の副業

製苴機 八六臺、
製繩機 四八臺、
壘苞機 七七臺、
藁打機 二〇臺、
繩仕上機 四臺

(四) 苧麻栽培獎勵 (三五〇圓)

本縣農事試驗場に於ける苧麻栽培成績に鑑み、之が普及を圖らんとし、本年度に於て約十町歩の適地を選定し、一町村を區域とし、三町歩以上の苧麻栽培を爲さんとする團體に對し、苧麻苗を無償交付し又は獎勵金を交付せんとす。

一、栽培豫定地

遠田郡大貫村、栗原郡高清水町。登米郡上沼村

一、苗圃設置補助 一五〇圓 苗の購入配付費 二〇〇圓

(五) 竹細工傳習會開催 (八〇〇圓)

大正十四年度以來農林省の指定に依り新潟、静岡兩縣より教師を聘し、縣下四ヶ所に於て傳習會を開催したるが、本年度に於ても適當なる教師を招聘し傳習會を開催し、製品の改善普及を圖らんとす。

一、開催箇所 三ヶ所 一、開催期間 一ヶ所凡そ二十五日間

(六) 木工傳習會開催 (五〇〇圓)

本縣に於ける木工品は温泉地等に於て生産せらるゝもの多く、主として挽物、玩具等

なるが、其の製作品は時代の嗜好に適せざるもの多く、事業不振の状態にあり、今後農村の餘剩勞力を利用して之が改善を圖り、特色ある地方産物たらしむると共に、一面土産品たらしめんため傳習會を開催し、適當なる教師を招聘して作品の考案、指導に當らしめ以て手工的副業の新路を開かんとす。

(七) 晒若布製造獎勵 (三百圓)

縣下宮城、牡鹿、桃生、本吉各郡の沿岸には若布の繁殖盛なるを以て、數年來鳴戸式若布製造獎勵の結果、漸く改善發達を見つゝあるも、未だ原料の儘徳島縣地方に移出せらるゝもの尠からざる狀況なるを以て、前年度に繼續し之が製造傳習會開催を助成して其の普及發達を計らんとす。

(八) 凍豆腐傳習會開催獎勵 (四〇〇圓)

凍豆腐の製造改良を圖るため、前年度玉造郡岩出山町に於て兵庫縣より教師を招聘し、長期間の傳習を行はしめたるが、本年度に於ても繼續して傳習をなさしめ、之が普及改善を獎勵せんとす。

(九) 種兔の購入獎勵 (三〇〇圓)

本縣の養兔は、農家副業として漸次普及せんとしつつあるも、未だ優良種の普及に乏しきを以て、優良種兔を購入して其繁殖を計らんとする組合に對し、獎勵金を交付し

て其の發達に努めんとす。

本年度獎勵金を交付すべきもの六組合の見込

(十)羊毛加工傳習會獎勵

(二〇〇圓)

本縣に於ける緬羊の飼育は、農家副業として近年發達を見つゝあるを以て、其生産する羊毛に加工し、織物の製造を計らんとして農林省の指導に依り、大正十四年度より加工傳習會を開催せしめたるが、未だ技術の習得充分ならざるを以て、繼續して傳習を獎勵し、其の發達を圖らんとす。

一、開催場所 二ヶ所の見込

(十一)温泉利用促成蔬菜栽培獎勵

(一五〇圓)

大正十四年度以來農林省の指定に依り、玉造郡川渡村及柴田郡川崎村に於て温室又は温床を設備せしめ之を獎勵せるも、未だ充分利用せられざるを以て、本年度に於ては温床框を製作し、栽培する者に對し獎勵金を交付して之か利用に努めんとす。

(十二)苗木の養成配付

(五〇〇圓)

農家の宅地又は空廢地利用のため、前年度の如く縣農事試驗場をして左記苗木の養成をなさしめ、之を配付して栽植せしめんとす。

柿 二、〇〇〇本 梅 一、〇〇〇本 栗 五〇〇本 桐 五〇〇本

備考、(五)乃至(十二)の事業は農林省指定事業にして全額補助交付を受けんとするものとす。

(十三)製炭改良講習會開催

(八三〇圓)

本縣木炭の改良を圖る爲、改良教師を招聘して、講習會を開催せんとす。本年度に於ては黒炭改良法五ヶ所、白炭改良法一ヶ所、各箇所四十日間宛開催の豫定とす。

(十四)竹林改良講習會開催

(四八〇圓)

竹林造成改良は農家として重要なを以て、本年度に於ても先進地より教師を招聘し、實地講習會を開催せむとす。

(宮城縣副業主任報告)

岩手縣の副業

一、岩手縣の副業概況

由來本縣の副業は自家用生産に其の端を發し、爾來幾多の變遷を経て遂に今日に至つたので、此の點は唯に本縣副業のみならず産業の總ては其の起源を尋ぬるときは徑路は同様であらう、然るに其の後の變遷程度に至つては、各々其の地方の經濟事情とか、智識の程度如何に依て自ら差異のあることは常に認識せらるゝことで、東北地方の一般産業の振はないと謂ふのも此の理由に外ならぬ。

殊に本縣の如きは、面積の膨大なること全國一とも云はれ、山岳が重疊して交通不便の上而も面積の割合に人口が尠ないと云ふ狀況に有るが故に、常に農業經營の單純にして、殊に共同的の施設に依り、從業價值の高まる副業の發達せぬのは農民の勞働感念如何よりは、寧ろ經濟事情の多分に作用して居るものと見ることが出来る。

殊に沿岸八十餘里の漁村は俗に云ふ三陸魚場を所有し四季の豐漁あり、瘠薄の耕地と雖も一戸當り耕作反別は比較的多く、山村には天然の原生林を有し薪炭の製産に餘力なき有様で、斯の如き状態なるが故に地方民は傳統的の作業以外新な收入の途を講す

べく細心の注意或は工夫すると云ふとは從來なかつたのであるが、世の進展に連れ、何時迄も舊態依然の産業状態に居るには餘り外界の刺戟は烈しくなり、此等世の文化に伴ひ彼等の生活は著しく向上し、入費は嵩むか収入の途は舊來の様では生活の「バランス」は取れなくなつて來た事に目醒め、必然的に適切なる副業を見出すのに努力する様になり、差當り是れ迄自家用の目的で生産して居た副業品に幾部改良を加へ商品化して、他に販賣するの途を講じ始めたのは即ち本縣の副業品である。

従つて生産上は勿論販賣上に關して何等組織的の施設經營はなく、單に地方の仲買人や問屋と云ふものを唯一の顧客として各自思ひ思ひの取引をなし、需要供給上の事に關しては何等の考慮を用ひずに居たのであるが、其れにても猶ほ岩手郡本宮村の雪靴の如きは北海道移出品として年額五萬圓、紫波郡飯岡村雜穀呷四萬圓、全郡見前村の鞋三萬圓と云ふ多額を示して居たのであるが、近時安價なる代用品の爲めに、是等履物類の需要の途絶へ少しも賣捌けぬ様になり、亦雜穀呷の如きも千葉、茨城方面より安價に大量の移入を見るに至つたので、當業者も自家用生産の氣持ちで副業品を生産するの不利益を悟り、生産並販賣上共同組織に依り、製作上及販賣上の改善を期することの急務なるを痛感する様になつた。

時恰も縣に於て副業獎勵施設の中心を共同組織の普及に置いたので、兩々相俟つて急速なる發達を見ることになつたのである。

以上は主として形式整備時代或は訓練の時代に過ぎないが、之を一言にして盡せば所謂革命時代であつて、眞の副業發達は之れから將來の事である、即ち農村及農家の經濟事情は益々農業經營を複雑化し副業を一層必要となし、此の時に當り彼の訓練が出來て居り、組織が整ふと云ふ事は、一面之を泰明期に在ると云ふも過言でないと思ふ。即ち各季唯一の副業である、藁製品に付き之を見るも、前述の如き主なる移出品は需要の關係上其の生産全く絶へたけれども、年々需要を増す、繩の生産に在りては急激に増加する様になつた、一体繩の生産は履物類製作に較べて原料を多く、要する割合に工賃は少いと云はれたけれども、手紉ひは器械紉と變するに至つて此の弊は除去せられ、工賃の割合に非常に高率になつて來たので殆んど各農家に製繩機の備へないものはない迄になつたが、其の間に組織も統一も無き爲め製品に統一を欲ぎ、而も冬期農閑期には市場に無節制に殺倒する爲め市價を下落せしめ、徒らに仲賣人に利益を博せしむる有様であるが故に、從來の各自勝手に生産と販賣するの不利益を悟り、地方的に小組合漸次設立せられ、生産並販賣上彼等の利益擁護に腐心する事となつた、尙一步進めたものは其等小組合に於て動力用の繩仕上機を備付け、再生繩の優良品を生産するもの簇出し、聽て本縣産繩の全部は再生繩として現はるゝも遠くはあるまい。

最近に至り更に吠菴の改良は急激に普及し、在來機では一日の能率極めて低く、従つて他縣産に比し、生産費嵩み到底競争にならぬを以て、全國四十幾種の製菴機中最も優良と認むるものを聯合會で製作し、市價に比較して八圓位安價に分讓して普及上の便宜を與へたのみならず、機械の統一を圖り延て製品の統一を爲し、生産された菴吠は總て聯合會に於て買取つて置き、同會にて一手に販賣することになつて居る、製品は勿論検査を行ひ、取引者に安心の出來るものを販賣することゝして、所屬組合員現在二千を算し、漸次増加の傾向に在る、今の處で同會の手を経て賣出するもの粕建菴三十万枚、荷造用菴二十万枚で如何に大口の注文にても納入期日を確實に引受け得る様になつて居る。

以上の外大正十四年以來農林省指定事業として山間部農家に養蜂を獎勵して居るが、是等は當初より二十名以上にて新に養蜂組合を組織せるものに對し、種蜂二十群前後を配付し、其の普及を圖つて居るが、密源植物豊富なる爲め、頗る有望であるとい一般から期待されて居る。

其の他膨大に失し管理の不充分なる宅地を利用して柿、梅等の栽植獎勵の目的を以て毎年五千本内外を適良町村を選定して交付し、將來其等の特産地たらしむる素地をなし、又灌溉用貯水池其の他稻田を利用して養鯉を奨め、年々鯉苗二十五万乃至三十万尾宛を交付して居るが、市場に出場を賑すのも遠くはあるまい。

二、主なる副業生産品の状況

一、蔬菜 年産額三百六十四万圓

主なるものは南部甘藍、南部百合、甜瓜等で甘藍は縣北岩手、紫波、二戸の三郡より生産せられ、多くは東京、横濱に移出し、出荷組合九つあつて此れに依り初冬より東北本線矢幅、盛岡、好摩、川口、沼宮内、奥中山等の各驛より積出され、南部百合は殆んど岩手郡に限られ東京市場の需要を充して居る。

甜瓜は紫波郡の特産と云ふも過言でなく、多くは盛岡、仙北町驛より積出される。

二、特用農作物 年産額百十九万五千餘圓

主なるものは大麻、楮、葉煙草であつて、大麻は西磐井郡一の關町を中心に北上川沿岸の畑地に栽培せられ、葉煙草は東磐井郡、稔貫郡、上閉伊郡の三郡にて專賣局を對手に尠からざる収益を得て居る。

三、果實類 年産額六十七万圓

柿、梨、苹果を主として柿は氣仙郡を主産地とし梨は西磐井、盛岡、氣仙地方に多く産せられ、蔬菜は嘗て南部林檎として相當生産を擧げた歴史を有するも、一時病虫害

の爲め中絶せられしが、今亦復活して盛に栽植して居るから、麩て其の産額も急速に増加するであらう。

四、蠶糸加工品 年産額二十万圓

座繰糸、玉糸眞綿、眞綿加工品を主として養蠶の盛んなる東磐井、下閉伊、氣仙郡等に多く生産せらる。

五、畜産関係品 年産額百二十五万圓

鶏肉及鶏卵は年生産額殆んど百万圓を挙げ、縣下農家戸数の六割の經濟を温し、豚は年々二十二万圓位を年々東京、横濱市場に移出し、一時は市價に依つて盛衰を招來したが、今では既に此等の影響を蒙ることなく、漸次増加するの堅實なる發達の歩調を示し、二戸、九戸の二郡に多く牛馬を飼養せざる小農家になくはならぬものとなつた。

六、林産関係品 年産額七百七十二万圓

山國と稱せらるる本縣なれば木炭に依る地方農家の収入は主要なる部分を占め、年産額六百七十二万圓と云ふ數字を見ても明らかである、同業組合は品質の改良統一に骨を折つて居ること、將來産額の増加と共に、一層東京市場に聲價を高めることであらう、其他椎茸、松茸等一般關係で百萬圓である。

七、水産関係品

沿岸八十餘里而も三陸漁場としての豊漁は禍して、製造加工は割合に尠く、多くは水場の儘にて取引せられ昆布、和布、漉海苔等にて五十五圓の産額のみである。

八、藁工品

繩叭を主として年産五十六万八千圓なるも、優良器具の普及と生産販賣の統一により數年を出てすして二百萬位になる充分の見込みあり、今の所は量の問題よりも製品の改良に努め販路の擴張を策して居る。

九、木工品

履物(素地)を主として挽物、曲物、其の他にて四十四万七千圓で下閉伊郡を主産地とす。

一〇、雜工品

竹細工、和傘、魚網地、炭俵、漆器、和紙、疊表、氷豆腐を主なるものとし、約九十五万圓の年産額を示し、和傘は稗貫郡花卷町、炭俵は二戸郡地方漆器は二戸郡淨法寺を主産地として漸次進歩の傾向にある。

昭和二年度副業獎勵計畫

岩手縣の副業

一、一般獎勵計畫の概要

本縣に於ける副業品は漸次改善しつつありと雖も其の起源は自家用生産より發達したるものなれば品質統一を缺ぎ殊に荷造及販賣方法に至りては猶改善を要するものあり將來此の點の改善を爲すに於ては常に從業者の利益を増進するのみならず生産額を増し農村經濟上裨益する所尠からざるを以て斯業の獎勵は主として此の點に留意し施設せむとす。

(1) 専任職員二名を設置し産業各部並各種機關と連絡を保ち副業獎勵事業及事務上の統一を期し副業經營團體の改善を圖り直接從業を指導せしむると共に斯業の經濟調査を爲さしめ適切なる副業の選定に留意し販路の調査を行ひ其の擴張を期せむとす。

(2) 下級團體の事業助成

大正十四年六月制定せる副業獎勵規程に基き町村若くは郡農會、町村農會又は副業組合等に於て縣が第一期獎勵計畫として定めたる養鶏養豚養蜂養蠶細工竹細木工婦人手藝品其の他養兔に關し左記施設を爲したる場合或は其等施設獎勵の目的を以て支出する費用に對し助成金を交付し是等團體の活動を促し斯業の發達促進に努めんとす。

イ、生産増殖及改良統一に關する事項 講習、講話、傳習會の開設 副業用器具機械の購入配付或は貸

與又は共同使用副業用種實種畜種禽購入配付 展覽會及競技會の開催
ロ、生産品販賣に關する事項 共同荷造及共同出荷 共同集積場の設備 製品検査の施行 販賣幹
旋に關する施設

(3) 藁工品改良獎勵

藁工品は從業家數最も多數を占め本縣副業品中重要なる地位にあれども主として自家用として消費せられ而も精米移出用呎四十萬枚中其の五割及魚粕用莖約五十萬枚は青森及千葉茨城より供給を仰ぐ現況に在り、之れ主として縣内生産者は在來の製作具に依り製作するを以て生産能率低く移入品の如く安價に生産し得ざるによるを以て優良機械の使用並に是等及び莖の製織傳習會を樞要地二ヶ所に開催し製品の統一を圖ると共に能率の向上を期せんとす。

(4) 農林省指定全額補助事業の實施

- イ、果樹苗木の配付 農家の宅地及空廢地利用の目的を以て梅及柿苗木五千本を配付せんとす
- ロ、養蜂獎勵 蜜源植物豊富なる氣仙、上閉伊、下閉伊、九戸、二戸の諸郡に養蜂組合を組織せしめ一組合に種蜂二十群宛六十群を配付せむとす
- ハ、養魚獎勵 稻田及池沼を利用して鯉の養殖を獎勵する目的を以て鯉苗二十萬尾を購入し適當農家に配付せしめむとす
- ニ、温泉利用蔬菜促成栽培獎勵 和賀縣湯田村湯本温泉は高温にして湧出量豊富にして斯業に最も適せるを以て促成框を購入配付せむとす

岩手縣の副業

二、經費豫算の内容

イ、専任者の設置	金貳千四百參拾六圓		
一、主任者一名	俸給 金千貳拾圓	旅費 金六百圓	
二、専任者一名	俸給 金五百拾六圓	旅費 金參百圓	
コ、下級團體の助成	金四千圓		
一、傳習施設補助費	金六百圓		
二、副業用種禽種畜種苗種卵配付獎勵補助費	金壹千圓		
三、展覽會競技會補助費	金五百圓	四、器具機械購入配付獎勵費	金七百五拾圓
五、共同販賣施設獎勵費	金壹千五百拾圓		
ハ、薬工品改良獎勵	金六百四拾圓		
一、傳習會場諸費	金貳百圓	二、教師雇入費	金四百圓
三、印刷費	金四拾圓		
ニ、宅地利用獎勵	果樹苗木購入費 金七百五拾圓		
ホ、養蜂獎勵	種蜂購入配付費 金七百七拾五圓		
ヘ、養鯉獎勵	鯉苗購入配付費 金八百拾五圓		
ト、温泉利用促成蔬菜栽培獎勵	温床用框購入配付費 金七百參拾五圓		

(北海道廳副業主任報告)

青森縣の副業

木通蔓細工

一、木通蔓細工の沿革

木通蔓は山野到る處に繁茂し喬木の成長を妨ぐるを以て之が芟除に努めたりしか明治十年の頃一老翁中津輕郡嶽温泉に來り湯治中徒然の餘り山中に入り本通蔓を採取しが一の玩具を製作せるに同郡大浦村字賀田古川彌作なる者之を觀て其の重寶なるを感じ翁の傳習を受け居村に歸りて製作に従事したるを嚆矢とす爾來玩具、裁縫道具入籠を作り嶽温泉地に於て浴客の土産品として販賣せしが其の後に至り手提籠、石鹼入等稍精巧なる品を製作するに至り明治二十三、四年の頃に及びて數人の製作者を増し漸く容器、菓子盆等の如きを製作し次て明治三十年頃には製作者續出して椅子、寢臺等をも製作し本縣特産品として其の名聲を博するに至り各地の博覽會に出品して優等賞を受くるもの多く縣は一層品質の向上意匠圖案の改善に資せんが爲縣立工業學校並に試験場に囑託して研究せしめ或は當業者を以て研究會を組織せしめ之が發達助成に努めつゝあり。

二、現況 (大正十四年十二月末統計)

種目	地方別		種目	地方別	
	青森市附近	弘前市附近		其ノ他地方	計
従業者	三〇人	一七	七人	一六	
價格	一六、二六六	五、〇三三	三、三五〇	七、二四九	

三、其他

木通蔓は八、九月頃山野より採取し水中に浸漬醱酵せしめ剝皮選別して漂白(染色するものあり)の上之を編上げ更に艶出、褪色、變色の防止等の仕上げの爲塗料加工し金具及裏付等の作業を行ひ初めて輕快、情楚、優雅にして品位に富み、手提籠は旅行用品として愛用せられ玩具、盛籠、其の他家具として恰好のものを市場に出す。

藁工品

藁工品は北海道、樺太等の大なる需要地を控へ原料豊富にして而も製作容易にして老幼男女之に従事し得るを以て副業としては最も恰好なるものなり、而して本縣の藁工品は品質良好なるも其の製造法頗る幼稚にして生産能率低く且つ製品の統一を缺ぐの嫌なきにしも非ざるを以て縣は大正十二年より優良製藁、製繩機の使用普及獎勵の爲

め同機の購入費に對し補助金を交付し又機械の使用傳習會、藁工品製作競技會の開催、獎勵に努め更に大正十五年度より藁工品の移出検査に加ふるに生産者の希望に依り生産検査を施行し一層優良品の製作、製品の統一を企圖するに至れるを以て生産者を以て副業組合を組織せしめ品位の統一、生産の増進共同受檢並に共同販賣事業の實施を勸奨する爲め補助金を交付し一層斯業の進展に努めつゝあり。

一、藁工品の生産額

郡市別	明治四十二年	大正十一年	大正十四年	昭和元年
東 津 輕 郡	三六、二七四	三五、九六五	二六七、一七四	二八七、九九一
西 津 輕 郡	八、一八一	八九、六五八	二六二、〇九六	一七七、五八〇
中 津 輕 郡	二六、一七九	一九九、一七二	一九一、八四四	二〇八、六二五
南 津 輕 郡	三〇七、二四二	九九四、三五七	一、二五七、五〇七	一、二八六、二七八
北 津 輕 郡	九五、八四四	一三八、八四七	三三〇、八三三	二二七、六六四
上 北 郡	六七	五、五五〇	四五、四五二	五四、〇一四
下 北 郡	一	一〇、五三四	一〇、五三四	八、三二〇
三 戸 郡	八、三二一	五、二〇七	一七七、六八八	二二、三九九

青森縣の副業

青森市	四八五〇	五五、二九二	八、七六九	二四、七二九
弘前市	四八九、〇一八	一、八五〇、八六八	二、五四一、八八一	七、〇〇三
計				二、四九四、六〇三

九〇

二、優良製苧、製繩機 (昭和元年現在)

郡市別	製繩機	製苧機	備考
東津輕郡	一、二四四	六五	製繩機ハ荒佐式、本庄式、田所式多シ
西津輕郡	四六六	一四九	製苧機ハ堤式、谷式、川崎式多シ
中津輕郡	六八六	四〇二	
南津輕郡	二、九五二	三、六六八	
北津輕郡	一、〇五六	五七	
上北郡	一一一	二〇五	
下北郡	—	四五	
三戸郡	六二	一七	
青森市	三三	一六	

弘前市	一六	四
計		

三、藁工品製作競技會

製苧製繩機を使用する技術の向上を圖り能率を増進せしむる目的を以て昭和二年四月南津輕郡光田寺村に於て縣主催の競技會を開催し出場選手二百十餘名にして其成績次の如し。

一、荷造苧一枚織

等級	機械名	品質	時間	同上點	合計點	選手住所氏名	年齢
一等	堤式	四五 ^點	五三分	五二	九一	南郡光田寺村 中村ツエ	一六
二等	同	三五	五分	六〇	九〇	同 平澤リツ	一七
同	同	四〇	二〇分	四七	八七	同 中村そだ	二二

二、機械製大倉繩綯

青森縣の副業

等級	機械名	品質	長サ	絢切	點數	選手住所氏名	年齢
一等	本庄式	一等	一六三 _尺	ナシ	八二	南郡中郷村 雪田清太郎	一九
二等	ニエ一式	一等	一五九	同	八二	同 五郷村 津川良隆	二〇
同	南陽式	特	二七〇	同	八二	中郡和徳村 吉崎萬藏	四三
同	荒佐式	特	二六〇	同	八二	東郡奥内村 赤坂ソノ	三七

三、機械製細繩絢

等級	機械名	品質	長サ	同上點合計點	選手住所氏名	年齢
一等	田所式	四〇	三七五 _四	六〇	南郡光田寺村 二階重吉	四九
二等	堤式	四〇	三五九	五五	同 小野芳雄	二〇
同	同	四〇	三五〇	五五	同 村上由太郎	二五

四、荷造苧二枚織

等級	機械名	品質點	時間	同上點合計點	選手住所氏名	年齢
一等	堤式	四〇	一三〇 _分	五三	南郡光田寺村 中村そだ	二二
二等	同	四〇	一三〇 _分	五三	同 二階三郎	一九
同	同	四〇	一三〇 _分	五三	同 中村義江	一五

五、干苧

等級	機械名	品質	時間	同點合計點	選手住所氏名	年齢
一等	須田式	三〇	三三 _分	六〇	南郡金田村 佐藤喜佐	二三
二等	谷式	三〇	三三	六〇	同 山口卓藏	二六
三等	同	四〇	二四	四五	同 村上以佐男	一八

六、手絢中間繩

等級	品質點	長サ	同點	合計點	選手住所氏名	年齢
一等	三〇	八三〇 <small>尺</small>	五	九五	東郡荒川村 五中七郎	二七
二等	三〇	九七六	五	八八	同 大野村 小野專作	二五
同	三〇	九五〇	五	八七	同 横内村 横山健次	二三

養 兔

本縣の農業狀態養兔に最も適するのみならず氣候の關係優秀なる毛皮を産することを
得るを以て最近養兔事業勃興の機運に乗じ養兔組合其他産業團體に對し之が飼養獎勵
に當り大正十三年末に於ては飼育頭數僅に一千頭に過ぎざりしが大正十五年末には次
の如き盛況を見昭和六年迄には生産頭數少くとも八十萬頭を生産することを得る見込
充分なり。

一、飼養戸數及飼養頭數

一〇頭未満	一〇頭以上 五〇頭未満	五〇頭以上	計	成 兔	仔 兔	計
二〇七九	九一九	三五	三、一〇三	三四、六八	六、二四〇	四〇、八六八

二、販賣狀況

種 別	生産數	販 賣		備 考
		數 量	價 格	
生 兔	一、一〇〇	一、一〇〇	二、七五〇 <small>円</small>	札幌醫科大學病院 東京府下
兔 毛 皮	三〇、九八二 <small>枚</small>	三〇、五〇〇	三六、六〇〇	一枚平均
兔 肉	二、三九二	三、二〇〇	二、八〇〇	百目四十錢

三、養兔團體及員數

一四八組合

二、九六一人

屠 物 整 理

蠶業上の遺利を獲得し且つ副業的家内工業として最も有利なるを以て縣は大正元年以
降之れが普及に努め毎年教師を各都市に派遣し傳習を行ひ漸次普及の狀態にあるも斯
業の現況は一方蠶業の發達に伴ひ益々技術の改善向上を要するもの尠からざるにより

一段の奨励を加へ品質の向上生産の増加を圖らんとす。
一、昭和元年度に於ける生産額

玉	絲	屑	物	眞	綿	計
	一七五〇円		一九六七円		三四一〇円	二四、八三〇円

養 鶏

農家の副業として養鶏事業を改善發達を企圖するは極めて緊要なるを以て大正九年度より縣に於て各郡市に助成金を交付し養鶏組合の組織活動を勸奨し飼養の普及鶏種の改良管理の改善指導共進會開催等に努めたる結果逐年其の成績良好となれり。
一、最近五ヶ年間に於ける狀況

年次	飼養戸數	現在羽數	産卵數	價格(禽及卵合計)
昭和元年	五四、二〇六	五五五、〇五四	一七、九四〇、五六六	八、二〇、二七八
大正十四年	五五、一八二	五五〇、二五四	二〇、九二五、八九六	九、三八、二七二

二、昭和元年末各郡市に於ける養鶏組合

年次	組合數	加入人員	優良組合名稱	個人最大飼育羽數
大正十三年	一	一一	青森家禽協會	二六〇
大正十二年	七	八〇	造道家禽組合	一一〇
大正十一年	九	四二	木造家禽組合	一五〇
	七	三六	木造家禽組合	三〇〇
	二	二九	黒石家禽組合	二〇〇
	一	五六	黒石家禽組合	一、〇〇〇
	二	五九	金田家禽組合	三〇〇
	二	六五	野邊地家禽組合	一〇〇
	二	九二	七戸家禽組合	二五

郡市別	組合數	加入人員	優良組合名稱	個人最大飼育羽數
青森市	一	一一	青森家禽協會	二六〇
弘前市	一	八〇	造道家禽組合	一一〇
東津輕郡	七	四二	木造家禽組合	一五〇
西津輕郡	九	三六	木造家禽組合	三〇〇
中津輕郡	七	二九	黒石家禽組合	二〇〇
南津輕郡	一	五六	黒石家禽組合	一、〇〇〇
北津輕郡	二	五九	金田家禽組合	三〇〇
上北郡	二	六五	野邊地家禽組合	一〇〇
下北郡	二	九二	七戸家禽組合	二五

三	計	戸	郡
八〇	五	三〇六	三八六
五	八	五	八
三	二	六	二
三	二	六	二
五	〇	〇	〇

九八

養豚

養豚事業は農漁村の副業として最も適切なるを以て斯業の改善發達を促さんが爲養豚組合の組織活動を勸奨し優良種の普及及經營法の改善、厩肥の利用、飼料の共同購入、其他共同施設事業の助成並に飼養管理と改善指導に努め大正十三年に於て豚肉價格著しく低下したる爲十四年以降飼養頭數稍々減じたりと雖大なる蹉跌なく年々健實なる發達を見つゝあり。

一、最近五ヶ年間に於ける狀況

年次	頭數		飼育戸數
	成豚	仔豚	
昭和元年	三、六八三	四、二七二	四、五〇二
大正十四年	四、八四一	四、二四四	四、九二一
大正十三年	五、六四七	五、〇四二	五、二八五

大正十二年	五、五二七	五、二四七	一〇、七七四	五、二三七
大正十一年	三、九八四	二、九五一	六、九三五	二、九四九

二、昭和元年末各都市に於ける養豚組合

郡市別	組合數	加入人員	優良組合	個人最大飼育數
東津輕郡	六	九七	造通養豚組合	二〇
中津輕郡	一	一五		七
南津輕郡	三	七		四
北津輕郡	二	三七		六
上北郡	一〇	六五	野邊地養豚組合	二〇
下北郡	二	九三		一〇
三戸郡	三	四〇	五戸養豚組合	二〇
計	二七	一、三七六		

竹細工

青森縣の副業

九九

根曲竹は本縣各地の林野に自生し無盡藏なるも從來僅かに蔬菜の支柱として採集利用するの外籠、箆等の日常品を製作するも其の技術頗る幼稚にして而も自給自足の域にも達せざる現況なれば之の豊富なる根曲竹を材料として各種竹製品の製作を奨励し移入を防止するのみならず着色法による藝術品を製作することを得ば一物産たらしむことを疑はざるへし之が基礎施設として大正十四年度より引續き先進地より優秀なる技術者を招聘し講習會を開催したるに未だ統計に示す産額を見ざるも其の成績頗る良好にして前途有望なり。

苹 果

一、青森リンゴの沿革

苹果栽培は明治七年、當時弘前市東奥義塾の教師たりし米國人ウオルフ、ウング氏が其故國インディアナ州より若干の苗木を持來りしに始り翌八年内務省勸業寮より苗木三十本の配付を受け縣廳、弘前市、三戸郡及北津輕郡に分植し其の後再三同寮より苗木の配付あり總計三百二十本なりしを以て各栽培者に一二本宛配付せられたるなり其の後弘前市石郷岡周右衛門氏、菊池楯衛氏により接木法を創成せられ苗木の生産を安價ならしむる事を得漸く栽植を試むるものを増し品種も當初多數なりしも漸次各品種

は淘汰せられ經濟的品種たる國光、紅光、倭錦、柳國、祝等に制限せられたるなり。爾來栽培の増加に伴ひ綿虫其の他の病害虫も蔓延し當業者の苦しみ大なるものあり然し外崎嘉七氏楠美冬次郎氏の如き篤農家が苦心慘憺剪定、施肥の改良、袋掛法等に依り栽培者を激勵せるにより著しく生産を増加し品質の向上を來して販路を開拓し一層栽培を盛ならしむ明治三十九年頃より更に急激の栽植が行はれ、地價爲めに暴騰するに至る明治四十三年には反別六千町歩收穫五千萬斤、百二十萬圓の多きに達せり其の後大正六、七年頃又々病害虫の蔓延等の爲めに廢園の續出を見れども縣栽培者は隱忍善く栽培に従事し大正五年專任技術者を任用し七年縣立農事試験場に苹果部を設けて試験研究を行はしめ一方は病害虫防除費を計上して産業組合、農會等と協力防除に努めしにより漸次苹果園に青色を見るに至れり爾來産額逐次増加し十四年度には移出九千萬斤四百五十萬圓を突破し十五年度には未曾有の豊作にして移出一億二千萬斤を超えたり然るに生産の増加に拘らず販賣組織の改善遅々たるものある爲めに時々市價暴落を來す事あるを以て最近縣は産業組合、苹果同業組合を激勵し又民間には日本苹果株式會社の設立活動により販賣上に一新紀元を劃さんとす。

二、苹果栽培反別、收量、價格 (大正十五年度)

都市別	反別	收量	價格	都市別	反別	數量	價格
東津輕郡	一〇五	二四、八〇六	四九、九六六	下北郡	四	五、五五五	一〇、二九一
西津輕郡	一六二	三六、九九一	七三、九二二	三戸郡	一七	六、七八二	二四、〇六九
中津輕郡	一、八七	五、七五、五三	一、二四、〇二	弘前市	一五	三、二七四	一〇、七六六
南津輕郡	三、五四	九、四〇二、二八九	一九、八、四二	青森市	—	—	—
北津輕郡	六〇三	二、〇三、九四六	四七、〇〇九				
上北郡	一〇	一四、九六〇	七、六五七	合計	六、四八二	二八、五九四、六六五	三、九六四、一一〇

木炭

木炭は縣下に於ける重要な副業産物の一なるを以て品質の改善、統一に意を注ぎ製炭講習會を開催し或は同業組合を組織せしめ嚴重なる検査を施行せしめ市場に於ける聲價を向上せしむる等各般の施設をなし其の實績を收めつゝあり。
大正十五年末

數量	價格	數量	價格
生産	九、三九五、九三八	移出	一、六七三、〇〇〇
價格	二、〇八六、三三六	價格	五、一一〇、〇〇〇

水産加工業

本縣海岸線の延長實に百七十有餘里に達し天賦の水産縣を形成し外洋沿岸内灣其他河川各種の漁業行はれ寒暖二流に棲息する各種の水族産額一千百六十餘萬圓に上り内製造加工品四百五十萬圓なるも尙幾多増産改良の餘地充分あるを以て水産試験場の試験研究に伴ひ水産會、漁業組合の活動を促さば將來必ず格段の進展を見るべきを疑はず。

小木工業

本縣は山林に富み、松、杉、羅漢柏、白楊樹、漆、樺、山毛櫸、桐等の産出多く木工品の原料頗る豊富なるに農村の餘剩勞力充分あるを以て發達すべき素質を具備するも未だ他府縣に比し大なる遜色あるは起すべき努力足らざるなり之を以て縣は工業傳習會を開催し或は當業者をして研究會を組織せしむる等極力勸奨に努めつゝあるを以て許すに數年を以てせば相當見るべき生産を得ること易々たるものあるを信す。

一、木工品の生産額

青森縣の副業

指物	挽物	曲物	箱類	桶樽類	下駄材	其他
六九、五六	三三、四五	六二、九四	二九、三四〇	四四、四〇六	七八、九四	三四、七六六

(青森縣副業主任報告)

北海道の副業

一、北海道副業の状況

●藁細工品 年産額 百八十五万圓

本道に於ける藁細工の起源は詳かならずと雖も之を水田開發の状況よりして見るに舊い歴史を有するものゝ様である而して旺ならんとする氣運に向つて來たのは大正二年頃からである、爾來長足の普及發達をなし今や全道水田地方は殆んど製作しないものはないと云ふ様な状態を見るに至つた、主として繩類を製作してゐたが最近蒔、叭類の製作が行はるゝに至り前途囑目すべき状態である、尙販路は、全部道内で近時偶々樺太へ移出するに至つた、主産地としては空知、上川、石狩、後志支廳管内である。

●竹細工品 年産額 十一万圓

竹細工の創始は今から數十年も前のやうであるが其の發達の曙光を認めらるゝに至つたのは、極めて近年の事に屬し従業者も至つて少い、技術も未だ幼稚であるが原料たる根曲竹、ス、竹は極めて豊富であるから今後著しい發展を見るであらうと思はれる、現在の製品は主として箆籠類である、主産地としては後志、渡島、釧路國支廳管

内であるが全道各地に生産せられてゐる。

●黍 年産額 三万五千圓

等黍の栽培は明治四十二年頃から始まつたものである、當時極めて僅少なものに過ぎなかつたが獎勵の結果年々増加し今や各地に於て栽培又は試作し等の製作も従つて増加するに至つた、現在に於て胆振國伊達町、北見國斜里村、後志國南尻別村及東、俱知安村、石狩國沼貝町に於て優良なるものを産出するに至り販路は主として道内である。

●除 虫 菊 年産額 二百二十餘万圓

除虫菊の栽培は極めて最近のことであるが急足の發達を示し其の作付段別四千六百餘町歩に達してゐる、主産地は上川、空知、後志、網走の各地方で販路は主として横濱神戸方面である。

●澱 粉 年産額 三百二十万圓

澱粉製造の起源は比較的近年に屬するが本道は、馬鈴薯の栽培に好適し最近の總生産額六百萬圓(專業的生産を含む)に達する状況なり、主なる産地は上川、後志、網走、空知、渡島地方で是れが販路は、歐洲戰亂當時海外に輸出般販を極めたが最近では、國內消費で道外に移出してゐる。

●眞 綿 年産額 二万圓

本道の蠶業は、百數十年前に始まりと雖も普及發達の度極めて遅々たり、之れ氣候其の他適せざるにあらずして熱心之に従事するもの少かりしに因る、然るに本道農業又漸次集約的經營に向ひ、是に伴つて蠶業に對する注意も亦喚起するに至りたる結果近時斯業に従事するもの多きを加ふるの状況にあり、故に蠶業の採算を一層良好にし其の發達を助長するの一助として屑繭を加工し其の價値の増加を圖らむが爲め數年前より眞綿製作を獎勵しつつあり、其の産額未だ僅少なりと雖も養蠶の普及發達と共に今後相當の増加を示すべし、販路は道内及樺太方面にして主産地は、後志、空知、上川、浦海、留萌地方なり。

●杞 柳 細 工 年産額 十萬圓

杞柳細工濫觴は、明治十六年頃なりしも發達の度比較的遅々たり、然れども本道には河川堤防敷地其他栽培適地尠からざるを以て數年前より之が栽培並加工を獎勵したる結果年と共に勃興し今後相當發達するに至らん、製品は主として行李、バスケットにして販路は道内である。

●籐 表 年産額 八千圓

籐表は大正六年頃札幌、函館を中心として創始せられ爾來引續き獎勵に努めたる結果

相當優良品を産出するに至れり、現在は旭川市及江差町等に於て製作せられ販路は主として道内なり。

●兔毛皮及兔肉加工品 年産額 一万七千圓

家兔を近時副業として飼育するもの増加し殊に兔毛加工の發達と兔肉の需要増加に伴ひ今後一層の普及發達を爲すに至るべし現在に於ては各地方に飼育せらるゝも比較的盛んなるは空知、上川、渡島、後志地方にして販路は道内及東京横濱等なりとす。

●蜂 蜜 年産額 八万圓

本道は梅雨期と認むべき季節なく蜜源植物頗る豊富なるを以て其の發達に好適の要素を具へ且つ副業として適當なるが故に漸次發達の趨勢である、主産地は上川、石狩、空知地方で販路は道内を主とし多少内地に移出してゐる。

●羊毛及加工品 年産額 二万六千圓

緬羊の飼育は約七十年前函館に始まりしを以て其の濫觴とす、其の後遅々として振はざりしが近時著しき勃興し今後益々増加の趨勢にあり、故に羊毛加工の講習會を開き獎勵の結果現在網走、空知、膽振、後志地方に於て、ホームスパーン、毛糸等相當の加工品を得たり、販路は道内なり。

●木工 品 年産額 約二十万圓

農家の副業として製作せらるゝ木工品は原料の豊富なるに比し發達遅々たりしが近時土産品として玩具及小家具の製作盛んに行はれ尙割箸筥、杓子等農家の従業者増加し農民藝術としての木工又は木彫品渡島地方に盛んならんとしつゝあり殊に本道獨特のアイヌ細工は最も注目すべきものにして同種族保護上考慮すべきものなり今後は等は副業として相當農村に普及發達するものと認めらる目下比較的盛んなるは網走、上川、膽振、石狩、浦河、渡島地方にして販路は道内を主とす。

●婦人手藝品 年産額 四万圓

本道の婦人手藝品中主なるものは、フランス式刺繡、ミシン裁縫品等にして、アイヌ刺繡は斯業研究資料として注目に値するものである、フランス式刺繡は大正八年より相當發達せるもので道内各地に普及し最も盛んなるは札幌、小樽、旭川市である。

●其他本道副業品の主なるものは左の通りである。

亞麻	纖維	二百六十万圓	牛	酪	六十万圓
木	炭	六百四十万圓	推	茸	六万圓
雞	卵	二百万圓	燕麥	稗加工品	三十万圓
干	瓢	二千三百圓	大根	切干	二万圓

凍豆	二万圓	疊	四千圓
海苔	六万圓	鮎其他の加工	四万圓

二、副業奨励に關する施設

- 一 専任職員を置き奨励上必要なる各種の調査研究並指導奨励を行ふ
- 二 技術の實地指導は囑託教師をして行はしむ
- 三 主なる副業に對しては指導奨励の徹底を期し其の効果を大ならしむる爲め集中指導地を設く
- 四 町村其の他團體に對し副業用器具機械の購入、講習會、競技會、品評會、展覽會の開催、副業品生産増殖に關する試験研究等に要する經費に補助す
- 五 製品の消流を圓滑ならしむるため共同販賣其の他必要なる施設に要する經費に補助し尙副業實行團體の普及發達を期しつゝあり

計畫の内容

- 一 果樹苗木養成配付
農家の宅地利用として梅、杏。大王グースベリーの苗木を農事試験場をして養成

- 二 せしめ果樹部落を造成する爲め集中的に無償交付を行ふ
凍豆腐製作奨励
本事業は大正十四年度以來傳習會を指定開催せしめたるに其の成績何れも良好にて相當の製品を得たるのみならず原料、燃料、勞銀等道外府縣に比して安價なるを以て格安に生産し得るが爲め本年度に於ては開催地を増加し實施せしめ傳習會講師費及器具費に補助せんとす

三 竹細工奨励

竹細工原料たる根曲竹及ス、竹は頗る豊富なるも其の加工品生産額甚だ僅少なるを以て極力奨励に努めつゝあり而して講習會は一ヶ所三ヶ年繼續開催の豫定を以て開催地を選定し製品は勝手用籠、箆類、魚籠、延繩箆等を主とし講習會經費及竹工器購入費に對し補助し、補助をなさざるものにして講習會開催の必要ある町村へは囑託教師を派遣し製作技術を傳習せしむ

四 ホームスパン奨励

本事業は大正十四年度の創始にして成績概して良好なるも製品を商品化するには尙一層の努力を要す、而して既に機械器具費を補助し設備せしめたる箇所には製品の改善を圖る爲め製作講習會を開催せしめ其の經費に補助し、選定せる講習會

五 開催地に對しては講習會費及機械器具の設備費に補助せんとす。

販賣組織改善獎勵
副業生産品の消流を圓滑ならしむる方策として(一)品質の改善を圖る爲め藁細工品に付ては、農産物検査所をして下検査を行はしめ其の他製品に付ては団体等の自治的検査の實施を獎勵す、(二)販路の擴張に付ては市場の調査、見本品の送付、即賣會の開催、貯藏其の他必要なる事項を団体をして實施せしめ一面町村、農會、販賣幹旋所をして援助幹旋を爲さしめ右に要する団体の經費に對し補助す。

六 藁細工獎勵

藁細工は近時著しく發達を爲したるも現在の水田面積に於て尙三倍に生産を増加せしめ得る見込なるも本道の繩は府縣産に比し粗剛其の他の批難ありて消流の圓滑を欠ぐ嫌いあるも藁打を良好にし更に再製機を利用するに於ては府縣に遜色なく賣行良好なるを以て今後は、団体等をして共同藁打場、共同再製場の設備を爲さしむる事に一層の力を致さんとす、本年度は、製繩、製筵機購入費、藁打機、再製機共同設備費に補助し尙講習會、品評會、競技會に對し教師、審査員を派遣するのみならず集中指導地に囑託員を置き常に指導を爲さしむ。

七 黍帚製作獎勵

帚黍の栽培は比較的本道に適し尙今後栽培面積増加の狀勢にあり、故に講師を派遣し又は補助金を交付して講習會を開催し技術の向上を圖ると共に生産を獎勵しつゝあり。

八 屑繭整理獎勵

真綿の産額は僅少にして屑繭の約三分の一を加工するに過ぎざる狀況にあるを以て製作講習會に補助し又は囑託教師を派遣して技術を傳習せしめ集中指導地に督勵を加へ以て之が獎勵に努めつゝあり。

九 杞柳細工獎勵

杞柳の栽培は全道各地に適し其の面積逐年増加の狀勢にあり而して柳行李は本道に於て自給の域に達しつゝあるを以て今後は製品の改善に力を致し販路を廣く求むると共にバスケット其他の製作を獎勵すべく講習會開催經費に補助し之が助成に努む。

一〇 籐表、麻裏草履、藁細工製作獎勵

籐表は數年繼續補助し相當の製品を得るに至れるを以て今後は販賣上に力を致し他の希望地中適當なるヶ所を選定獎勵せんとす。
麻裏草履は水田地方の副業として適切なりと認めらる尙藁草は疊表及編笠に加工

せしむべく講習會經費に補助し或ひは囑託教師を派遣して技術の傳習を行はらむ。

一一 割箸製作獎勵

本道はエゾ松ト、松等割箸の原料豊富なるを以て林地の副業として獎勵すべく割箸機購入費に補助し又は製作講習會に囑託教師を派遣し之が獎勵に努めつゝあり。

一二 機械器具種苗購入補助

イ 椎茸椀木及乾燥器補助

本道に於ける椎茸の産額相當多しと雖も品質良好ならざる爲め聲價を騰むる能はざる狀況にあり、故に人工栽培と乾燥の改良により品質の向上を圖り山地副業として十分なる發達を遂げしむべく椀木及乾燥器に補助し尙實地指導を行ふ。

ロ 淡水養魚獎勵

溜池其の他を利用し組合を組織し鯉等の養殖を爲すため稚鯉を購入し又は養殖に必要な設備を爲すものに對して補助し尙實地指導を行ふ。

ハ 孵卵器、紡毛機延繩、撚糸器購入補助

本道の養雞事業は漸次發達しつゝありと雖も鶏卵は未だ自給し得ざるの狀況にあ

るのみならず飼育羽數は農家一戸平均十羽に増加するに於ては今日の約二倍に達せしむるを得べく獎勵の餘地極めて多し故に孵卵器購入費に補助し種禽卵の拂下を爲して獎勵に努む。

緬羊の飼育者は年々増加しつゝあるを以て羊毛加工を獎勵し斯業の採算を一層良好ならしめんとす、而して飼育頭數比較的多き地方には「ホームズパン」の獎勵を爲し未だ頭數少き地方には紡毛並編物等の獎勵をなし紡毛器購入費に補助す。

又漁業者の使用する延繩は多く製品を購入しつゝあるの狀況なるを以て之れが自給を圖らしむべく延繩撚糸器の設備に對し補助す。

一三 調査試験費補助

副業製品の改善若しくは新たなるもの、研究試作等を行ふ團體に對し其の事業を助成する爲め補助金を交付せんとす、而して目下試作研究を試みつゝあるは山葵の栽培、食用蛙の飼育、蘭草の栽培、萱葎の利用等重なるものなり。

一四 教師の養成

凍豆腐、割箸の教師を養成する爲め適當の者各二名位を選定し先進地より招聘せる教師の助手とし又は先進地に派し實習せしめ以て本道の指導に當らしむべく所要旅費を支給せんとす。

一五 品評會、展覽會、競技會補助

副業製品の統一改善、製作技術の向上並經濟的生産を圖り製品の商品化を期し一面斯業の普及を圖る上に於て品評會、展覽會、競技會等の開催は極めて適切のも

一六 市街地副業の助成

市街地の副業は編物、刺繡、ミシン裁縫其の他家庭内職漸次盛んに向ひつゝあるも未だ其の製品は商品的價値低く又其の經營方法も幼稚なるを以て之が健實なる發達を遂げしむるには實行團體を督勵し傳習、原料の共同購入製品の共同販賣等統制ある團體的活動を必要とするを以て右團體の設置並團體の事業を助成する爲め補助す。

一七 参考品の貸付

副業品の改善及副業に關する智識の向上を圖り斯業の發達に資するが爲め全國の重なる副業品及道内品を蒐集し町村に貸付し一般に觀覽せしむる事とせり、而して之に要する片道運賃を本廳に於て負擔す。

一八 各種の調査

本道の副業は何れも近年の發達なるを以て製品の改善及販路の調査開拓を要する

もの多きが故に之が調査研究を行ふと共に林産物及蔬菜類の加工並新開地に於ける副業の選定等調査を要するもの多きを以て専任職員をして之に當らしむ。

一九 團體の指導督勵

副業の發達を期するには團體の活動に俟つもの極めて大なるを以て團體をして一定の計畫を樹立せしめ其の計畫に基き各種の施設を行はしむる爲め専任職員をして指導督勵を爲さしむ。

二〇 宣傳

副業の宣傳を行ふ爲め活動寫眞、講話會、副業品の即賣會、参考品の貸付及印刷物の配付を爲し尙關係ある各種機關と連絡を保持し獎勵上遺憾なきを期しつゝあり。

副業獎勵豫算

歳出經常部

副業獎勵費 九、二五二、〇〇円

専任職員給 三、六〇〇

教師給 一、〇〇〇

専任職員旅費 二、六〇〇円

北海道の副業

教師旅費	一、〇〇〇	賞與	一〇〇
需用費	四〇九	果樹苗木養成配付費	五四二
歲出臨時部			
副業補助費	五、二四〇、〇〇 _円		
藁細工獎勵費	七七〇	ホームスパン獎勵費	七〇〇
竹細工獎勵費	一、〇〇〇	凍豆腐獎勵費	四二〇
講習會獎勵費	五〇〇	販賣組織改善費	一、〇〇〇
機械器具種苗購入費	四二〇	調查並試驗研究費	一〇〇
品評會展覽會競技會費	一九〇		
市街地副業獎勵費	一四〇		

(北海道廳副業主任報告)

附錄

北海道
奧羽各縣
副業關係組合一覽

養	同	空	菓	養	同	同	菓	同	養	山	大	同	同	同	同	空	同	菓
		閑	工		工			免	免	沼	沼				閑		工	
鯉		地	免		品			組	組	區	區				地		品	
		利	品		品			組	組	劃	劃				利		品	
組		用	組		組			組	組	副	副				用		組	
		組	組		組			組	組	業	業				組		組	
合		合	合		合			合	合	組	組				合		合	
同	同	同	同	雄	同	同	同	同	平	同	同	同	同	同	同	同	仙	
				勝					鹿							北		
				郡					郡							郡		
院	仙	院	山	岩	福	旭	同	角	八	山	神	橫	大	飯	六	外	大	
內	道	內	田	崎	地	村	村	間	澤	內	代	堀	曲	詰	鄉	小	川	
町	村	町	村	村	村	村	村	川	木	村	村	村	村	村	村	反	西	
																村	根	
高	佐	齊	井	高	近	藤	桑	若	菊	伊	高	川	藤	江	高	高	小	
橋	藤	藤	上	橋	江	井	野	林	地	藤	倉	原	田	幡	橋	橋	原	
英	松	忠	良	七	英	岩	敬	圓	久	與	善	季	成	新	伊	政	久	
之	之	治	之	之	一	太	三	兵	二	右	市	德	以	之	之	右	剛	
助	助		助	助		郎	郎	衛		衛	郎	郎		助	助	衛		
	同	桐								養	同	同	同	同	桐			
		苗								鯉					苗			

同	菓	同	空	養	鷄	養	鷄	後	層	抱	溫	同	同	同	同	同	同	菓
			閑	免	免	免	免	三	返									
			地	飼	飼	飼	飼	年	蘭	床								
			利	育	育	育	育	養	整	茸								
組			用	組	組	組	組	魚	理	栽								
			組	組	組	組	組	組	培	培								
合			合	合	合	合	合	合	合	合							合	
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	仙	同	同	同	同	同	同	同	
										北								
										郡								
北	刈	豐	高	四	外	南	豐	飯	刈	白	象	金	同	鮎	平	龜	矢	
於	和	岡	梨	小	小	槽	川	詰	和	岩	鴻	浦	同	川	澤	田	嶋	
岡	野	村	屋	友	友	岡	村	村	野	村	町	町	町	村	町	町	町	
村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	村	
鈴	鈴	千	池	藤	佐	今	山	江	鈴	雲	須	佐	鳥	高	遠	田	佐	
木	木	葉	田	井	々	野	崎	幡	木	雀	田	藤	山	橋	田	口	藤	
		又	文	平	木	喜	喜	新	重	隆	織	岩	長	俊	亮	利	德	
		三	一	治	兵	右	代	之	章	造	之	太	松	明	吉	一	一	
重	重	耶	耶	耶	太	衛	吉	助	章	造	助	郎	郎	明	吉	一	郎	
雄	章	耶	耶	耶	郎	門	吉	助	章	造	助	郎	郎	明	吉	一	郎	
	同	桐							養	玉								
		苗							鯉	菜								

山形縣副業組合一覽

郡市別	種類	組合名	副業ノ種類	區	域	組合員數	設立年月日
山形市	申合組合	上饑砲町養豚組合	養豚	上饑砲町一圓		二〇人	大正七、〇、一
山形市	同	千歲養豚組合	同	三日町一圓		二〇人	八、五、
山形市	同	宮町養豚組合	同	宮町一圓		二〇人	八、三、
山形市	同	霞城養鷄組合	養鷄	山形市一圓		七人	八、四、
南	申合組合	村山凍豆腐製造組合	凍豆腐	南村山郡一圓		一八人	大正二、一、
南	同	小穴養豚組合	養豚	西郷村大字小穴一圓		一九人	七、二、
南	同	阿彌陀地養豚組合	同	同 阿彌陀地一圓		一五人	七、二、
南	同	下生居養豚組合	同	宮生村大字下生居一圓		一五人	七、二、
南	同	金生養豚組合	同	同 金生一圓		二〇人	一〇、三、
南	同	堀田村養豚組合	同	堀田村一圓		一〇人	七、三、
南	同	片谷地養豚組合	同	金井村字片谷地字谷柏		一〇人	七、二、
南	同	松原養豚組合	同	金井村字松原、津金澤		一〇人	七、二、
南	同	黑澤養豚組合	同	金井村大字黑澤一圓		一〇人	二、六、
南	同	東澤村養豚組合	同	東澤村小白川一圓		一〇人	七、二、

郡市別	種類	組合名	副業ノ種類	區	域	組合員數	設立年月日
山形市	申合組合	南沼原村大字南館一圓	養豚	南沼原村大字南館一圓		一五人	七、二、
山形市	同	飯塚村養豚組合	同	養塚村一圓		一七人	七、二、
山形市	同	柏倉門傳村養豚組合	同	柏倉門傳村、村木澤村、本澤村ノ一部		一七人	八、三、
山形市	同	前明石養豚組合	同	本澤村大字前明石一圓		一七人	八、三、
山形市	同	二位田養豚組合	同	本澤村大字二位田一圓		一五人	八、三、
山形市	同	菖蒲養豚組合	同	東村字菖蒲一圓		一五人	六、五、
山形市	同	上ノ山養鷄組合	養鷄	上ノ山町一圓		一二人	九、五、
山形市	同	東村大字養鷄組合	同	東村大字菖蒲一圓		一五人	九、二、
山形市	同	堀田村養鷄組合	同	堀田村一圓		一六人	二、二、
山形市	同	東澤村養鷄組合	同	東澤村大字上寶澤、下寶澤、釋迦堂、妨見寺ノ一部		一〇人	二、五、
山形市	同	沼木養鷄組合	同	南沼原村大字沼木一圓		一五人	二、二、
山形市	同	飯塚村養鷄組合	同	飯塚村一圓		一三人	二、六、
山形市	同	棋澤村養鷄組合	同	棋澤村大字下棋澤一圓		一三人	一〇、二、
山形市	同	村木澤村養鷄組合	同	村木澤村一圓		一三人	一〇、三、
山形市	同	富神養鷄組合	同	柏倉門傳村及南沼原村一圓		一三人	九、一〇、
山形市	同	甲石養鷄組合	同	中川村大字甲石一圓		一五人	一、八、
山形市	同	細谷養兔組合	養兔	西郷村大字細谷一圓		一〇人	二、八、
山形市	同	成澤養兔組合	同	堀田村大字成澤一圓		一五人	二、五、

郡	山															
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
金井	江俣	青野	風間	上貫	津山	千布	見崎	高瀬	山邊	出羽	大清水	内表	藏増	荒谷	大寺	金井
畜牛	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚	養豚
組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合
畜	同	同	同	同	同	同	同	同	同	養	同	養	養	同	果	同
牛										豚		鶏		實		
金井	金井	同村	橋山	同村	津山	千布	大郷	高瀬	山邊	出羽	成生	金井	藏増	山寺	大寺	同村
村一圓	村大字江俣一圓	村大字青野一圓	村大字風間一圓	村大字上貫津一圓	村大字山本、關ノ上	村一圓	村大字見崎一圓	村一圓	村一圓	村一圓	村大字大清水一圓	村大字内表一圓	村一圓	村荒谷原一圓	村一圓	村大字陣場新田一圓
三同	六同	二五同	二五同	二五同	三同	三同	一〇同	四八同	二七同	二二同	四五同	一七同			二五同	二〇同
一、五、	二、五、六、	二、八、五、	二、八、五、	二、八、五、	二、一、二、五、	二、一、二、五、	八、六、三〇	七、五、三〇	一〇、一三、三三	八、四、二七	一〇、一、七	二、二、二、			一〇、二、	二、二、二、

村	東																郡				
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	申合組合	同	同	申合組合	
吉野	風間	下貫	中組	關ノ上	上貫	立宿	西山	同	常明寺	下反田	上反田	作谷	出羽	富神	東澤	東澤	東澤	東澤	東澤	東澤	
養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏	養鶏
組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合	組合
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同村	橋山	同村	同村	同村	同村	同村	津山	同	同村	同村	同村	大曾	作谷	出羽	東澤	東澤	東澤	東澤	東澤	東澤	東澤
大字吉野一圓	村大字風間一圓	村大字下貫津一圓	村字中組一圓	村字關ノ上一圓	村大字上貫津一圓	村字立宿一圓	村字西山本一圓	同	村大字常明寺一圓	村大字下反田一圓	村大字上反田一圓	村大字大宅上反田一圓	村一圓	村一圓	村下寶澤、釋迦堂、妙見寺	村大字上寶澤、下寶澤	村一圓	村一圓	村一圓	村一圓	村一圓
二七同	三同	三同	二五同	二七同	二〇同	二〇同	二〇同		二五同	二四同	二四同	二四同	三同	三同	七同	七同	八同	八同	八同	八同	八同
一〇、二、五	一〇、二、一	一〇、二、二〇	二、三、二八	二、三、五	二、一、三、一	二、一、二、八	二、一、二、五		二、一、三	一〇、一、五、二五	一〇、一、九	一〇、一、九	九、二、二五	九、二、二五	七、二、	七、二、	八、四、	八、四、	八、四、	八、四、	八、四、

郡 川 田 東										郡 賜						
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	申合組合	同	同	同	同	同	同
押切村養鶏組合	田谷實行組合	田谷青年團	西小野青年團	狩川養豚組合	狩川養鶏組合	南野養鶏組合	澤新田養鶏組合	廻館養鶏組合	大和製繩組合	齊村茄子採種組合	荒砥町養豚組合	西五十川養豚組合	置賜家禽獎勵組合	河井養鶏組合	白鷹養鶏組合	貝生養鶏組合
養	同	同	養	養	同	同	同	養	繩	採	同	養	同	同	同	同
鶏			鯉	豚			鶏	繩	繩	種	豚					
押切村一圓	同 田谷一圓	同 田谷一圓	八榮里村大字西小野一圓	同 上	狩川村一圓	同 南野一圓	同 澤新田一圓	同 廻館一圓	大和村一圓	齊村一圓	荒砥町大字下山一圓	長井村大字西五十川一圓	豐田村一圓	豐田村大字河井一圓	白鷹村大字萩野一圓	荒砥町大字貝生一圓
三	三	四	三	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	八	七	一〇	三	三	三	三	一六
				上	九、四、一	九、三	八、一	九、九	八、三	一〇、三、三	九、六	七	三、九、三	二、二、〇	九、一、五	二、三

置 西					郡 賜 置 東				郡 賜									
同	同	同	同	同	同	同	同	同	申合組合	同	同	同	同	申合組合	同	同	同	同
鮎貝村養鶏組合	東五十川養鶏組合	高玉養鶏組合	勸進代養鶏組合	寺泉南部養鶏組合	寺泉養鶏組合	西五十川家禽組合	梨郷副業實行組合	置賜凍豆腐改良組合	赤湯養豚組合	漆山養鶏改良組合	沖郷村薬工品副業實行組合	合	同	小野川前業組合	小山田養鶏組合	上長井養鶏組合	中津川村副業組合	鹽井養鶏組合
同	同	同	同	同	同	養	並加工	凍豆腐	養	養	薬工品	赤湯町一圓	養	同	同	同	同	同
					鶏		柳栽培	東置賜郡一圓	豚	鶏	品	漆山村一圓	豚	同	同	同	同	同
鮎貝村大字高岡一圓	長井村大字東五十川一圓	蠶桑村大字高玉一圓	同村大字勸進代一圓	同村大字寺泉南部	長井村西五十川一圓	西根村字蟹澤一圓	梨郷村一圓	東置賜郡一圓	赤湯町一圓	漆山村一圓	沖郷村一圓	同	養	三澤村大字小野川一圓	廣幡村一圓	上長井村一圓	中津川一圓	鹽井村一圓
三	三	三	二	一	三	一	一	三	二	二	二	七	二	七	一	一	一	一
二、三	八、一	一〇、六	一〇、六	一〇、六	五、大、正、〇、六、三	一〇、五	三、二	二、三	二、四	二、三	二、三	二、九、一	二、四	二、九、一	二、九、一	上	九、四、一	九、四、一

郡山村東	郡山村南	郡川田西	郡	海	飽
同 申合組合	同業組合 同 申合組合	同 申合組合	同	同	同
成生草履表販賣組合	大曾根草履表販賣組合 村山製蓮同業組合 村山千柿製造組合 村山純白種普及會	湯之濱畜産組合 坂之邊新田桃園組合	本橋園藝組合 上郷村苗木組合 東平田村養鯉組合 湯平澤養殖組合 大澤村養殖組合 東平田村養鶏組合 小見養鶏獎勵會 同	同	同
同	草履表 苳 柿加工 苳	果實 鶏牛豚馬	果實 樹苗養成	同	同
同 郡成生村一圓	東村山郡大曾根村一圓 南村山郡本庄村一圓 南村山郡一圓	袖浦村一圓 加茂町一圓	本橋村一圓 上郷村大字山寺一圓 東平田村大字生石一圓 同 大澤村大字下青澤一圓 同	同 東平田村大字小見 同	同 山寺村一圓 同
		一七 七五	三〇 三〇	二〇 二〇	七 三
			三同 二、二、	二五 二、	七 二、一

市澤米	郡山村西
申合組合 産業組合	同 産業組合
米澤養兎信用購買組合	西里草履表販賣組合 寒河江草履表販賣組合 高松信用販賣組合
同	同
養兎	同
米澤市一圓	西村山郡西里村一圓 西村山郡寒河江町一圓 西村山郡高松村一圓

岩手縣副業組合一覽

組合名	事業ノ種別	員組數合
平泉養鷄組合	養鷄	二七
金ヶ崎町養鷄組合	同	一〇六
金澤村養鷄組合	同	七五
甲子村副業獎勵會	養鷄、養兔	三五
宮守養鷄組合	養鷄	一八
釜石家禽協會	同	四三
遠野家禽協會	同	四三
瀧民村養鷄組合	同	六四
厨川村家禽協會	同	三〇
太田家禽同好會	同	三〇
矢澤共榮社	養鷄、蕪細工	六
矢澤養鷄組合	養鷄	六
湯口家禽組合	同	三六
湯本家禽組合	同	八

組合名	事業ノ種別	員組數合
一戸養鷄組合	養鷄	二九
二戸鷄友會	同	三〇
斗米村養鷄組合	同	三三
稗貫郡養鷄組合	同	三三
更木養豚組合	養豚	三三
大槌養豚組合	同	三三
南都田村養豚組合	同	三三
矢澤村養豚組合	同	三三
小島谷養豚組合	同	三三
黑澤尻養豚組合	同	三三
湯口村養豚組合	同	三三
一戸養豚信用販賣組合	同	三三
金ヶ崎町養豚組合	同	三三
岩谷堂養豚組合	同	三三
中内村養豚組合	同	三三
更木養兔組合	養兔	三三
福岡養蜂組合	養蜂	三三
金田一養蜂組合	同	三三

組合名	事業ノ種別	員組數合
陸奥養蜂組合	養蜂	二九
輕米町養蜂組合	同	三〇
小國村養蜂組合	同	三三
小輕米養蜂組合	同	三三
川井村養蜂組合	同	三三
小川養蜂組合	同	三三
有藝養蜂組合	同	三三
淨法寺養蜂組合	同	三三
宇部養蜂組合	同	三三
上閉伊郡養鷄組合	同	三三
黑石村副業共勵會	竹細工	三三
彌薩休竹細工組合	同	三三
瀧澤竹筴組合	同	三三
上野竹細工工業組合	同	三三
浪打村竹細工組合	同	三三
八重畑村副業組合	養鷄、養兔、養蜂	三三
藤里村副業組合	養鷄、蔬菜	三三
新堀村農友會	同	三三

田瀬	保呂羽種	瀧澤	南川舟家庭	乙部村果樹園	立花園藝	矢澤俱樂部	口内傘生	愛宕村水豆腐	德田村製繩	赤石村櫻町製繩	煙山製繩	佐倉河村製繩	古館製蓮	岩谷堂	田原	羽田	德田
羊組合	生産販賣組合	紙組	工業獎勵組合	果樹園藝組合	藝組合	樂部	生産組合	豆腐組合	製繩組合	製繩組合	製繩組合	製繩組合	製蓮組合	同	同	同	同
種羊	種苗	和紙	杓子篋	果樹	果樹、蔬菜	養鷄、蠶細工	傘	冰豆腐	蠶繩	同	同	同	製蓮	同	同	同	同
三	三	七	七	吾	吉	吾	六	六	一六	六	四	四	四	三	三	三	三
磐井	谷内	赤石	三陸	煙山	中内	稻瀬	愛宕	宮野	玉里	矢澤	不動	志和	太田	佐比内	日詰	飯岡	湯口
製蓮組合	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
製蓮	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
一五〇	三〇	三三	二六	三	一八	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

花卷川口町製蓮	廣瀨	梁川	福岡
製蓮	同	同	同
三	三	三	三
藤里製蓮	湯本	太田(岩手郡)	岩手縣製蓮聯合會
製蓮	同	同	同
二	三〇	三〇	三〇

福島縣副業組合一覽

昭和二年七月一日現在

二二

組名	設立年月	事業ノ種類	所在地	一ヶ年産額
荒井養鶏副業組合	大正三、六	養鶏、飼料共同購入、 飼料共同販賣	信夫郡荒井村	鶏卵一ヶ年販賣高約千 五百三十七圓
野田養鶏副業組合	同 一、三	飼料共同購入及雞ノ共 同購入	同 野田村	鶏卵販賣約一ヶ年一 万八千個内外
大正養豚副業組合	同	生養及仔豚ノ販賣飼料 共同購入	同 同 村	産額約五百拾圓
庭塚竹細工副業組合	同	竹及蠶籠ノ製造竹材共 同購入	同 庭塚村	
中野竹細工副業組合	同	製繩、製筵、製笊	同 中野村	産額約七百五十圓
鎌田養蠶副業組合	同	養蠶	同 鎌田村	産額約九千四百拾圓
渡利養蠶副業組合	同 一、五、 四	養蠶、養繭、繭苗販賣	同 渡利村	販賣見込高約五百六十 圓
田澤養蠶副業組合	同 一、五、 四	養蠶	同 杉妻村	
渡利養鶏副業組合	同 昭和二、 四	養鶏、養鱒	同 渡利村	
中組養兔、養鱒副業組合	同	養兔、養鱒	同 水原村	
水原養鶏副業組合	同	養鶏、種兔及仔生兔販 賣	同 伊達郡大久保村	生産販賣高一ヶ年約二 千三百三十七圓
大久保養兔副業組合	同 大正二、 六	養兔、種兔及仔生兔販 賣	同 青木村	同上 一ヶ年販賣高約六 千三百九十圓
青木養兔副業組合	同	同	同 青木村	同上 一ヶ年販賣高約千 七百三十九圓
青木養鶏副業組合	同	同	同 同 村	

組名	設立年月	事業ノ種類	所在地	一ヶ年産額
大久保養鶏副業組合	同 一、五、 三	蒔蒔芋栽培	同 大久保村	
五十澤蒔蒔副業組合	同 一、三、 一	同	同 五十澤村	
掛田蒔蒔栽培副業組合	同 一、四、 三	同	同 掛田町	
小手川蒔蒔栽培副業組合	同 一、三、 三	同	同 小手川村	
箱崎果樹栽培副業組合	同 一、三、 一	苹果、桃、栽培	同 伏黒村	
下手渡養兔副業組合	同 一、五、 〇	生産兔共同販賣	同 小手村	
鶴澤養蠶、養鱒副業組合	同 一、三、 三	鯉、鮪ノ共同養殖 生産兔共同販賣及共同 貯金	同 富田村	
糠田養鶏貯金副業組合	同 昭和二、 三	生産兔共同販賣	同 小手村	
一力養兔副業組合	同	生産兔共同販賣	同 立子山村	
萱沼凍豆腐副業組合	同 大正三、 八	凍豆腐製造原料大豆共 同購入	同 安積郡日和田町	産額約一万四千八百圓 内外
濱田菓細工副業組合	同 一、四、 二	繩及外俵製造販賣	同 岩瀬郡濱田村	一ヶ年販賣高約八百五 十圓
昭和養鶏副業組合	同 昭和二、 四	種鶏共同飼育、共同育 雛	同 同 村	
廣戸第一養蠶副業組合	同	養蠶	同 廣戸村	
泉田副業組合	同	養兔、養鶏、共同貯金	同 稻田村	
片貝養蠶副業組合	同 大正二、 六	養蠶	同 南會津郡富田村	販賣高約二百圓
丹藤養蠶副業組合	同	同	同 田島町	販賣高約五百圓内外
田島養蠶副業組合	同 一、五、 五	同	同 同 村	
會津種苗生産販賣副業組 合	同 一、四、 三	種苗生産、養鶏、養兔 及柿樹栽培	同 耶麻郡慶徳村	種苗販賣約九百圓 果實販賣約五百五十圓

二三

千里養鯉副業組合	大正三	鯉養殖販賣	同	千里村	鯉卵販賣高約千三百三十圓
針生養鷄副業組合	同	養鷄飼料共同購入	同	加納村	同
岩尾養鷄副業組合	同	同	同	同	同
太田養鷄副業組合	同	共同孵化育雛飼料共同購入	同	豐川村	鷄卵及廢鷄ノ一ケ年販賣高約五千三百圓內外
吾妻筒及滑茸罐詰副業組合	同	筒及滑茸罐詰製造	同	吾妻村	産額二封度入約三千罐
半在家養鷄副業組合	同	養鷄飼料共同購入	同	加納村	鷄卵販賣高約千四百七十圓
志津山葵漬副業組合	同	山葵栽培及山葵漬製造販賣	同	長瀬村	産額約二千圓
下柴養鷄副業組合	同	養鷄飼料共同購入	同	關柴村	鷄卵販賣一ケ年約三千五百七十圓
平林養鷄副業組合	同	同	同	同	一ケ年鷄卵販賣高約五百七十圓
三津井養鷄副業組合	同	同	同	同	一ケ年販賣高約五百七十圓
根岸養鷄副業組合	同	同	同	同	一ケ年販賣鷄卵約千二百八十圓
根岸枯露柿副業組合	同	枯露柿製造販賣	同	同	一ケ年生產販賣高約千七百四十三圓
姥堂養鷄副業組合	同	共同孵化育雛種鷄共同購入	同	姥堂村	鷄卵及廢鷄ノ販賣高約一萬六千五百五十四圓
奧川蒟蒻栽培副業組合	同	蒟蒻芋栽培	同	奧川村	同
下遠田養鷄副業組合	同	養鷄飼料共同購入	同	堂島村	同
五日養鷄副業組合	同	同	同	加納村	同
岩尾養鷄副業組合	同	炭糞糞製造販賣	同	同	産額約八百六十五圓

豐川人造真珠副業組合	同	硝子光珠製造販賣	同	豐川村	一ケ年產卵約五萬個內外
下柴養兔副業組合	同	養兔共同生產販賣	同	關柴村	同
根岸養兔副業組合	同	同	同	加納村	同
大平養兔副業組合	同	同	同	同	生兔一ケ年販賣高約百六十圓ノ見込
半在家副業養兔組合	同	同	同	同	一ケ年產卵約二萬九千個內外
柴城株種副業組合	同	農種共同生產販賣	同	堂島村	同
鷺田養鷄、養兔副業組合	同	養鷄養兔共同生產	同	加納村	鷄卵賣上高約五千圓生兔販賣高約三百圓ノ見込
上岩崎柿樹植栽副業組合	同	柿共同生產販賣	同	岩月村	共同販賣高約二百圓內外
田中養鷄副業組合	同	養鷄飼料共同購入及共同孵化	同	加納村	同
中川原養鷄副業組合	同	同	同	同	同
濱崎養鷄副業組合	同	種禽共同飼養及飼料共同購入	同	河沼郡笈川村	鷄卵販賣高一ケ年約五百圓
谷地養鷄副業組合	同	養鷄及製繩共同生產販賣	同	廣瀬村	年産額約千七百圓內外
中政所藁細工副業組合	同	製繩共同生產販賣	同	同上	生産販賣高一ケ年約二千圓
村田藁細工副業組合	同	同	同	同上	同
福原養鷄副業組合	同	養鷄飼料共同購入及共同孵化	同	同上	同
野尻副業養鯉組合	同	鯉共同生產販賣	同	大沼郡野尻村	同
八木澤養鷄副業組合	同	養鷄飼料共同購入及種禽共同飼養	同	赤澤村	同

大登桑條剥皮副業組合	大正五、二	桑白皮共同生産販賣	同	西川村
竹貫養鵝副業組合	昭和二、六	種禽共同飼養及鷄卵共同販賣	同	東白川郡竹貫村
中塚養鵝、養鯉副業組合	大正三、五	養鵝養鯉ノ共同生産販賣	同	笹原村
西河内養鵝副業組合	同 一四、三	養鵝飼料共同購入及種禽共同飼養	同	常豐村
近津蒟蒻製粉副業組合	同 一八	共同製粉販賣	同	近津山岡組合村
眞名畑副業組合	同 一五、三	養鵝及養兔ノ共同生産	同	高城村
内川副業組合	同 三	凍豆腐、養鵝、養兔ノ共同生産販賣	同	同 村
竹貫山葵副業組合	昭和二、五	山葵共同栽培及販賣	同	竹貫村
鮫川養兔副業組合	同 六	養兔共同生産販賣	同	鮫川村
竹貫養兔副業組合	同 六	同	同	竹貫村
伊香養鵝副業組合	同 二、二	養鵝ノ共同飼料購入	同	高城村
釜子養鵝副業組合	大正五、四	種禽共同飼養及鷄卵共同販賣	同	西白河郡釜子村
形見蒟蒻栽培副業組合	同 五	蒟蒻芋栽培	同	同 村
釜子蒟蒻栽培副業組合	同 四	同	同	同 村
白河養兔副業組合	同 七	種兔及生産兔ノ販賣	同	白河町
西郷村在郷軍人分會副業組合	同 二、四	製繩ノ共同生産販賣	同	西郷村
形見養兔副業組合	同 四	生産兔ノ共同生産販賣	同	釜子村

籬及鷄卵ノ年販賣高約千圓

渡里澤製繩副業組合	昭和二、一	繩共同生産販賣	同	石川郡石川町	年産額約二千百五十貫
外嶺養鯉副業組合	同 一	共同養鯉販賣	同	同 町	
石川養兔副業組合	同 一	生産兔ノ共同販賣	同	同 町	
澤田養兔副業組合	同 四	同	同	澤田村	
丹伊田養兔副業組合	同 二	種禽共同飼育及鷄卵ノ共同販賣	同	田村郡高野村	
錦養鵝副業組合	大正五、九	種禽共同飼育及鷄卵ノ共同販賣	同	石城郡錦村	
上湯長谷養兔副業組合	昭和二、二	生産兔ノ共同販賣	同	同 村	
大川原養鵝副業組合	大正三、五	鷄卵共同處理種禽共同飼養共同育雛	同	雙葉郡大野村	一ヶ年鷄卵販賣高約七百圓
本岡養兔副業組合	昭和二、四	生産兔共同販賣	同	上岡村	
中濱養兔副業組合	同 五	同	同	請戸村	
石熊養兔副業組合	同 五	同	同	新山町	
龍田養兔副業組合	同 三	同	同	龍田村	
大川原養兔副業組合	同 二	同	同	大野村	
下繁岡養兔副業組合	同 二	同	同	龍田村	
田中内養兔副業組合	大正五、二	同	同	木戸村	
下野上養兔副業組合	昭和二、三	同	同	大野村	
上手岡養兔副業組合	同 四	同	同	上岡村	
野上養兔副業組合	同 四	同	同	大野村	

宮城縣副業組合一覽表

所在地	組合名	生産品
柴田郡 大野原町	大河原新興製繩組合	繩
伊具郡 枝野村	枝野村工業品組合	繩
丸森郡 丸森町	丸森第七區青年勤勞會	同
同 同 同	丸森製繩貯金組合	同
同 同 同	橫倉農事改良組合	同
同 同 同	無限責任鳥屋信用購販組合	同
同 同 同	葦工副業組合	同
同 同 同	大谷村副業組合	同
同 同 同	志戸田副業工業品生産販賣組合	同
同 同 同	青生松ヶ崎副業獎勵會	同
同 同 同	長尾副業共同實行組合	同
同 同 同	西荒井製繩工業品組合	同
同 同 同	城南製繩工業品組合	同
同 同 同	精農工業品組合	同

郡山養鶏副業組合	大正五、四	種禽共同飼養及鶏卵共同販賣	双葉郡新山町
福浦養兔副業組合	同 一、八	生産兔共同販賣	相馬郡福浦村
大野製繩副業組合	同 五	繩共同生産産賣	大野村
臺町養兔副業組合	同 一、五	生産兔共同販賣	八幡村
平林養豚副業組合	同 一	種豚共同飼養	同 八幡村
新沼浦干拓副業組合	同 四	養兔、養鶏、養豚、養魚、果樹栽培	同 中村町
中區養鶏、養兔副業組合	昭和二、五	養鶏、養兔ノ共同生産販賣	同 駒ヶ嶺村
飯豊養兔副業組合	同 五	生産兔共同販賣	同 飯豊村
下臺養兔副業組合	同 三	同	同 八幡村
成田養兔副業組合	同 三	同	同 同 村
長老内養鶏副業組合	同 四	鶏卵共同販賣	同 大野村

種兔及生産兔販賣高約四千圓
年産約千圓

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	登
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	米
北	同	淺	同	南	北	同	同	同	同	同	南	登	豊	上	南	佐			
方	水		方	方	山					方	米	里	沼	方	沼				
村	村	村	村	村	村	村	村	郡	村	村	町	村	村	村	町				
舟	下	川	西	新	日	上	新	大	東	南	本	北	小	保	上	元	南	元	
橋	面	製	製	副	副	小	副	嶽	製	製	製	製	製	製	製	製	製	製	
製	製	繩	繩	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	
繩	繩	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	組	
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	

同同同同同同同同同同同同同同同同同繩

同	同	同	同	同	登	同	栗	同	同	同	同	同	同	同	遠	玉	同	同	志
郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡	郡
寶	北	新	同	寶	佐	宮	宮	同	田	富	田	南	富	東	三	鹿	松		
江	方	田		江	沼	澤	野		尻	永	尻	郷	永	大	本	島	山		
村	村	村	村	村	町	村	村	町	町	村	町	村	村	村	町	村	町	町	
森	谷	立	黑	館	大	菓	菓	沼	小	上	中	南	長	菓	蒜	廣	須		
製	地	戶	沼	製	網	工	工	木	松	坪	ノ	郷	岡	工	袋	長	摩		
繩	製	製	製	繩	製	品	品	副	第一	區	目	副	針	品	區	屋	屋		
副	繩	繩	繩	副	繩	生	生	業	區	副	區	副	副	生	製	勤	勤		
業	副	副	副	業	副	產	產	獎	副	業	副	業	產	產	工	儉	儉		
實	實	實	實	實	實	副	副	勵	業	業	業	業	副	副	品	副	副		
行	行	行	行	行	行	業	業	組	獎	獎	獎	獎	業	業	組	業	業		
組	組	組	組	組	組	組	組	組	勵	勵	勵	勵	組	組	組	組	組		
合	合	合	合	合	合	合	合	合	組	組	組	組	合	合	合	合	合		

同同同同同同同同同同同同同同同同同繩

栗原郡 鳥矢崎村 秋保村 秋保村
 桃生郡 飯野川町 牧ノ集製茶組合
 名取郡 秋保村 秋保系利用組合
 以上は縣に於て助成する組合にして副業組合聯合會を組織する組合なり尙副業品を取扱ふ団体數を示せば別紙記載の通り

茶糸織
 節糸織
 疊表

以上は縣に於て助成する組合にして副業組合聯合會を組織する組合なり尙副業品を取扱ふ団体數を示せば別紙記載の通り

種類別副業団体數及団体員數 (宮城縣)

團體種類別	團體數	團體員數
製繩組	一	二、五二九
製蔴組	二	一五七
製菜組	二	一一七
蔬菜出荷組	一	一、六九〇
甘藷苗組	一	二〇
麥酒壘組	一	三五八
梨園組	七	二一一
果實組	四	九三
合計	一三	九、三三三

製茶組 竹細工組 養兔組 緬畜産組 養豚組 養雞組 漁業組 其他

一 二 三 六 八 三 一 〇 一 二 九 一

二五 一〇 二九五 四二三 五五三 二、六一〇 四〇一 一、三八〇 一〇、九七二

北海道副業組合一覽

石狩支廳管内

名稱	所在地	設立月日	設立員數	目的	代表者氏名
對雁副業組合	江別町	三、一〇、一	三	杷柳細工ノ傳習、材料ノ購入、製品ノ販賣、器具機械ノ設備	安孫子傳藏
藻岩村家禽獎勵組合	藻岩村	三、四、	三	家禽ノ改良發達ヲ圖リ組合員ノ利益ヲ増進ス	井上佐吉
豐平町第二區副業組合	月寒村	一三、四、一〇	二〇八	製繩ノ普及發達	宮下定次郎
廣島村共濟酪農組合	廣島村	一〇、四、一〇	八五	バター製造販賣、組合員共濟、畜牛改良	石橋佐太郎
廣島村竹細工生産組合	同村	三、四、二五	八	竹細工ノ傳習、製品ノ共同販賣	五十嵐 三之丞
字仁井別	同村	一三、三、一四	一五	牛酪ノ共同製造並ニ販賣及組合員ノ共同製造並ニ販賣、材料ノ共同購入	眞田彌一郎
廣島村西部酪農組合	同村	一四、二、五	三	牛酪ノ共同製造並ニ販賣、材料ノ共同購入	村上眞一
廣島村中央酪農組合	同村	九、二、二	二六	養鶏ノ改良發達	北川吉之丞
新篠津中央養鶏組合	新篠津村	九、二、二	二六	養鶏ノ改良發達	井門紋太
聚富村酪農組合	厚田村	九、二、二	一五	バターノ製造	島崎乙松
野幌兵村第二養鶏組合	江別町	一五、一、一	一	養鶏業ノ改良、産卵ノ共同販賣、貯金ノ勵行	

空知支廳管内

南幌加内副業組合	雨龍郡幌加内村	四、二、一〇	元	製繩	吉田喜之助
新波住民組合	栗澤村字新波	八、五、二六	九七	製繩	堀田竹次郎
第三部農事實行組合	栗澤村第三部	八、五、二六	四七	同	坂東松雄
第四部農事實行組合	同 村第四部	八、七、三	二〇	同	吉村與三
第五部農事實行組合	同 村第五部	八、六、二	八〇	同	二ッ川秀松
第六部農事實行組合	同 村第六部	八、六、六	九五	製繩、製蓮	西川外次郎
第七部農事實行組合	同 村第七部	八、六、六	五一	製繩	神内梅太郎
第九部農事實行組合	同 村第九部	八、六、六	八五	製繩、製蓮	范 鶴 松
第十部農事實行組合	同 村第十部	八、六、二五	七九	製繩、製蓮	藤田小市
峯延信、購、販、利、組合	沼具村字峯延	三、五、一八	三〇〇	製繩	小林篤一
多度志村副業組合	多度志村	一三、二、二四	二〇〇	製繩、製蓮	高橋伊太郎
第三部黨細工實行組合	沼田村	一〇、三、四	四〇	製繩、製蓮	北村林次郎
座敷蓆製作副業組合	赤平村	一三、一、	五八	座敷蓆製作、原料骨製作	清野正義
北村細羊畜産組合	北村字狐森	一〇、八、九	三三	羊毛加工	北村 正 義
三笠山細羊組合	三笠山村	一〇、七、三	一八	細羊ノ飼育、羊毛ノ加工	竹内吉藏
新十津川細羊組合	新十津川村	一三、二、三	三〇	同上	青木金吾

沼具家禽組合	沼貝村	三、三、二〇	三〇	卵肉ノ共同販賣、種卵種禽ノ分譲	佐藤甚平
舞鶴農事實行組合	長沼村	二〇、二、	三〇	製繩	角谷卯之吉
中ノ澤養鶏組合	一區村中ノ澤	一〇、一〇、八	三〇	養鶏	小野寺 專之助
浦臼村綿羊飼育組合	浦臼村	二、四、五	六	羊毛加工	藤田卯之助

上川支廳管内

鷹栖副業組合	鷹栖村近文	三、一、二	九	製繩、器具機械ノ購入	山城唯次
上士別信、購、販、利、組合	上士別村	三、	三〇	割箸ノ製造	川口卯太郎
上富良野信、購、販、組合	上富良野村西 四線北三〇	元、二、	二〇	製繩、蓆ノ製作	吉田貞次郎
劍淵村副業組合	劍淵村役場	一四、四、一	七	蓆細工ノ傳習、材料ノ購入 及製品ノ販賣、器具機械ヲ 設備シ組合員ニ貸與	寺田 秀一
比布村第十三部副業組合	比布村字比布	一四、四、四	三	同上	鳴川 五平
鷹栖副業組合	東鷹栖村近文	一四、三、三	三	同上	竹内 岡藏
第一共立副業組合	同上	一四、三、〇	八	同上	大河原 萬平
東川村上岐登牛副業組合	東川村	一四、二、五	一	同上	高橋 重次郎
東川村西部副業組合	東川村四十町	一四、二、四	八	製繩、製蓆	楠 文治
和寒村副業組合	和寒村市街地	一三、二、五	吾	同上	松本 六太郎
倉沼副業組合	東旭川村倉澤	一三、一、九	八	同上	小北 健治

下六號線副業組合	東旭川村下公有地	一三、二、〇	四	製繩	瀧川原久右衛門
ビバカラス副業養鶏組合	劍淵村	四、二、一	五	養鶏	武藤 喜一
恩根別農友會	劍淵村恩根別	七、三、一〇	二五	同上	武藤 喜一
鷹栖信、購、販、利、組合	鷹栖村近文	三、一、九二八七	三〇	製繩	宇都宮 榮吉
上富良野信、購、販、組合	上富良野村	一、二、	三〇	蓆細工、黍蓆、製酪	山下 甚藏
山部村柳栽培副業組合	山部村	一三、三、二四	三	柳ヲ栽培シ之ガ加工販賣	吉田 貞二郎
山部村家禽協會	同上	二、七、五	五	養鶏	高嶋 常吉
中富良野村養鶏貯蓄組合	中富良野村奈江	二、三、二	八	養鶏ノ改良、産卵ノ共同販賣、貯金ノ勵行	諏訪 眞彦
中富良野村綿羊組合	中富良野村	一三、二、一	九	綿羊ノ飼育	岡田 長榮
中川村酪農組合	中川村	一三、五、三	二〇	バターノ製造販賣	丹羽 慶次郎
東鷹栖副業組合	東鷹栖村	一四、	六	製繩製蓆	三好 清一
永山村第九部第一養業組合	永山村第九部	一三、一、三	一〇	製繩、共同蓆打場設置	佐竹 勝藏
同 西第八戸副業組合	同上	一三、一、五	一三	製繩	松尾 直
同 第三副業組合			二六	同上	
同 第八副業組合			二六	同上	
同 第四部副業組合			二四	同上	
同 第十二部副業組合			一三、五、	同上	

永山村第十部副業組合
同 第五部副業組合
同 聯合副業組合
神居村雨粉副業組合
和寒村副業組合

一三、五、

三〇 製繩
二九 同
二八 製繩、製品ノ共同販賣
二七 製繩、製蓮、製品ノ販賣斡旋

後志支廳管内

南尻別北部副業組合
大谷地副業組合
舊蘭越副業組合
昆布黍帚生産組合
大正竹細工副業組合
東俱知安座敷簀製造組合
後志稻田養鯉組合
俱知安養鷄組合
真狩別酪農組合

南尻別村

同 村大谷地

同 村舊蘭越

同 村昆布

東俱知安村

俱知安町

同

真狩別村

一三、一〇、三

一四、四、七

一四、一、

一三、

一四、二、三

五 業細工其他、製品ノ販賣及材料ノ購入、器具機械ノ設
四 同
三 同
二 黍帚
一 竹細工
〇 黍帚製作
九 稻田養鯉
八 養鷄
七 養鷄
六 養鷄
五 養鷄

岩野長藏
佐藤三治
村瀬宇太郎

檜山支廳管内

江差黍帚組合
瀧川向上會
今金鷄友會

江差町役場

乙部村

利別村字今金

一、三、三

四、二、〇

二、三、一〇

九 黍帚ノ傳習、黍黍ノ試作、材料ノ購入及製品販賣
三 藁細工
二 養鷄

夏原桂太郎
川瀬徳三郎
淺田武三郎

渡島支廳管内

知内村第一號酪農組合
大平バタ1組合
茂邊地家禽組合
森養鷄組合
八雲家禽組合
鷺巢緬羊組合
宿野邊副業組合
駒ヶ岳養兔副業組合

知内村字重内

木吉内村字太平

茂邊地村

森町

八雲町字八雲村

八雲村鷹ノ巢

森大町字宿野邊

同

一四、三、五

二、五、

一三、三、三

九、三、二

七、六、五

一三、二、一

一五、一、三

一五、二、四

五 牛酪ノ製造向上
七 同
五 養鷄
四 同
三 同
二 同
一 同
〇 同

七 緬羊ノ飼育
六 竹細工ノ傳習、材料ノ購入、製品ノ販賣、器具機械ノ設
五 備、販路調査
四 種兔ノ購入、養兔ノ改良並
三 共同販賣

田中助太郎
森永仁太郎
山本儀三郎
堀井康三
木村定五郎
小川乙藏
長谷川彦次郎
望月紫霞三

河西支廳管内

美蔓飼羊組合

芽室村字美蔓村

一、二、二

三 緬羊ノ飼育、羊毛ノ共同販賣

大村壬作

上美生副業組合	芽室村字上美生	一三、六、三〇	四	畜牛増殖及牛乳ノ分離	金井肇太郎
上芽室副業組合	御影村字上芽室	一四、三、一	四	酪農ノ器具、養蠶材料ノ	松本一自
山根農場副業組合	同	一四、八、七	二	養蠶ノ器具、養蠶器具機	竹田謙二
帶廣副業組合	帶廣町北三條	一三、一、三〇	六	座敷等製作、材料購入製品	鈴木惣次
ヒリベツ川東養鶏組合	本別村	一三、二、一〇	三	養鶏	佐藤正雄
鹿追酪農組合	鹿追村役場	一三、三、一五	五	畜牛ノ改良發達製酪	近藤義郎
豐頃村製筵製繩會	豐頃村字豐頃	一三、三、三	三	製筵製繩ノ獎勵製品ノ販賣	能谷寛之助
白糠小家畜組合	白糠村	一四、一〇、九	一四	小家畜家禽ノ獎勵普及發達	野坂林八郎
信濃緬羊飼育組合	陸別村字信濃	一三、七、二五	三	緬羊ノ飼育及羊毛加工	松村千加羅
足寄一區副業實行組合	足寄村	一一、一〇、	四	製繩	近藤味之助
美里利農事副業組合	足寄村字上足寄	一一、九、	二	同上	天野卯之助
宮城部落副業實行組合	上足寄十七線	一一、一〇、一〇	七	同上	只野榮吉
下白愛副業實行組合	足寄村字茂足寄	一一、一〇、二〇	三	同上	佐藤浪藏
螺灣副業實行組合	足寄村字上足寄	一一、一〇、一〇	三	同上	青木安之助
釧路村副業組合	原野	一一、三、一六	五	生兔ノ共同販賣、種兔ノ周旋、觀察、研究其他	高橋銀作

釧路國支應管内

網走支應管内

小清水村止別副業組合	小清水村字止別	一三、九、二	三	菓細工ノ傳習、材料ノ購入	金田淺吉
東朱丹副業組合	斜里村字朱丹	一五、一、二六	三	同	齋藤覺
斜里筵製造副業組合	斜里村役場	一五、一、二六	三	生産並技術ノ向上、材料ノ購入及製品ノ販賣其他	山田正元
宗谷支應管内					
仙法志村副業共勵會	上猿拂村	一三、七、三〇	四〇	海産品加工	高田元就
上猿拂養鶏組合	上猿拂村	一三、七、三〇	三〇	養鶏ノ發達、卵ノ共同販賣	高田元就
留萌支應管内					
藤山別業組合	留萌町字藤山	一三、一、三	二四	帶製作、材料ノ購入製品ノ販賣	下川部由太郎
北川口副業組合	天鹽町川口原野	一三、三、二	二五	竹細工、材料ノ購入、製品ノ販賣、器具機械ノ設備	加納善太郎
小平養蜂組合	小平養村	一四、六、六	三	養蜂ノ發達、製品ノ共同販賣	太田熊藏
風連別養鶏組合	初山別村	一三、三、三	三	養鶏	武田政憲